

THE UNIVERSITY OF SHIMANE

平成30年度 公立大学法人島根県立大学

地域連携活動報告書

2018.4 — 2019.3



HAMADA

IZUMO

MATSUE



公立大学法人島根県立大学

はじめに

平成 25 年度に始まった島根県立大学地（知）の拠点整備事業「縁結びプラットフォーム」は、昨年度（平成 29 年度）をもって補助期間が終了となったが、今年度は、5 年にわたって取り組んできた本学の大学 COC 事業の取組を定着させ、引き続き、取組成果を地域に還元し、地域貢献をさらに推進するスタートの年である。

大学 COC 事業により、本学における地域との連携による様々な活動は飛躍的に進展し、現在における学生の地域活動、地域での学習も大きく成長した。浜田・出雲・松江の各キャンパスの取組みについては、各キャンパスの活動報告の中で報告がなされるので、ここでは、平成 30 年度の 3 キャンパス全体の事業や取組みについて簡単に振り返ることとしたい。

今年度は、地域で活躍する人材を育てるマイスター養成の諸課程を修了した「しまね地域マイスター」の第 1 期生が誕生し、自ら地域の課題に対して向き合い、考え、課題解決に向けた行動力のある人材として、社会へと飛び出していった。そして、大学と地域が一体となって行っていた「全域フォーラム」は、今年度においても引き続き、関係団体等の協力により「KENDAI 縁結びフォーラム」として盛大に開催することができ、自治体等関係団体のみなさま、県内外の高等教育機関、一般企業・団体、地域の方々など、多くの皆様にご来場を頂いた。

同フォーラムでは、浜田市及び益田市と本学との共同研究の成果を発表するとともに島根県が実施している「学生の石見地域研究事業」の成果報告も同時開催し、石見地域の活動団体と本学の教員・学生との調査・研究活動について発表があった。

本学においては、今年度から主体的に地域貢献に取り組む学生の活動を支援するため、「地域貢献推進奨励金」を創設し、島根県内全域をフィールドとした地域教育の促進を図っており、学生による多様な地域貢献活動を通じて、島根県内の地域課題解決に向けた提言・提案を行うとともに、学生自身の課題発見能力、課題解決能力の育成を目指している。この地域教育を行うにあたっては、企業や自治体、教育機関等のみなさまの協力が必要不可欠であり、今年度もさまざま分野で連携協定を締結し、共同研究や教育プログラムを展開することができた。ご協力いただいたみなさまには、この場を借りて御礼を申し上げたい。

以上のように、地（知）の拠点整備事業において成果をあげてきた「縁結びプラットフォーム」をさらに発展的に継続していき、島根県立大学は「地域貢献日本一」を目指して引き続き歩んでいきたい。

地域連携推進センター

センター長 藤原 眞砂

目次

はじめに	1
I. 3キャンパス合同事業	
1. KENDAI縁結びフォーラム	5
2. しまね地域マイスター認定制度	10
3. 浜田市と島根県立大学の共同研究成果報告会	11
4. 益田市と島根県立大学の共同研究成果報告会	12
5. 学生の石見地域研究事業成果報告会	13
6. 3キャンパス合同学生ボランティア交流会	14
II. 各キャンパスの活動	
1. 浜田キャンパス	15
1) 学生の地域貢献活動	
(1) 学生ボランティア活動	17
(2) ボランティア・ポイント抽選会	21
(3) 地連café (ボランティア交流会)	22
2) 地域に関する教育・研究活動	
(1) しまね地域マイスター論文完成後の研究発表会	24
(2) フレッシュマン・フィールド・セミナー	26
(3) 浜田市と邑南町との「食」を通じた観光・文化交流協議会 と島根県立大学の共同研究成果報告会	32
3) 地域から/地域への応援・情報発信	
(1) 公開講座	33
(2) 学生研究・活動発表	37
(3) 大学生による小中学校学習支援事業	37
(4) 匹見中学校学習等支援	38
(5) 中学生の島根県立大学訪問	39
(6) NEARセンター市民研究員制度	42
(7) 講演会講師等・審査会委員等	45
2. 出雲キャンパス	53
1) 生涯学習	
(1) 公開講座	55
(2) 地域、団体主催による出前講座	58
(3) ぎんざんテレビ出前講座	61
2) 学生の地域交流・地域貢献 (学生ボランティア活動の促進)	
(1) 学生ボランティア研修会	62
(2) 学生ボランティア・マイレージ制度・ボランティア活動保険に関する支援	63
(3) 学生へのボランティア情報提供	64
(4) 3キャンパス合同学生ボランティア交流会	66
3) 教育機関との連携	
(1) 小中高校等出前講座	67
(2) 小中学校体験学習	68

4) 産官学連携	
(1) 包括協定締結自治体との連携	69
(2) 受託研究	69
(3) 受託事業：出雲市 児童虐待防止推進研修事業	70
(4) 共同事業：出雲市 伊野地区介護予防教室事業（ひまわり会）	72
(5) NPO法人・関係団体・企業との連携：いずも産業未来博2018への出展	73
(6) 各種審議会・委員会等への参加	74
5) 広報・広聴活動	
(1) ホームページ等を活用した最新情報発信	77
(2) キャンパスモニター会議	78
(3) シニア・ジュニアキャンパスツアー	79
3. 松江キャンパス	81
1) 地域に関する教育・研究活動	
(1) 「地域研究と教育」の作成	83
(2) 全学共通「しまね文化論」の開講	87
(3) しまね地域マイスター制度（人間文化学部）	88
2) 「社会人の学び」公開講座・講演会等の開催	
(1) 公開講座の開催	89
(2) 客員教授による講演会	89
(3) 「山陰地域限定特例通訳案内士平成30年度フォローアップ研修」の実施	90
3) 地域（自治体・機関）との連携	
(1) 自治体との連携	90
(2) 正課授業における連携協力	91
(3) 教育機関等との連携—保・幼・小・中・高・大の教育連携	94
4) 教育課程のための地域の施設・機関との連携	
(1) 保育教育学科・保育学科の実習施設・機関との連携	97
5) 学生による地域貢献活動	
(1) 学生の自主的なボランティア活動	99
(2) キラキラドリームプロジェクト	100
(3) おはなしレストランライブラリーの地域連携活動	103
6) 平成30年度公開講座「椿の道アカデミー」開催状況	105
7) 平成30年度地域連携（貢献）活動の取組状況	106
III. その他の地域活動	
1. 地域貢献プロジェクト助成事業	111
2. 地域貢献推進奨励金	112
3. 島根県との連携	113
4. 松江商業高等学校・湖南中学校との連携	114
5. 成蹊大学との連携	115
6. 有限会社本田商店との連携	116
7. 出雲警察署との連携	117
8. 島根県農業協同組合（JAしまね）との連携	118
9. 知夫村との連携	119
10. 島根県教育委員会との連携	120
11. 島根県立隠岐島前高等学校との連携	121
12. 海士町との連携	122

参考

1. 大学憲章123
2. 自治体・学校等との協定・覚書124

I. 3 キャンパス合同事業

1 KENDAI縁結びフォーラム

平成31年2月19日（火）に浜田キャンパスで今年度の成果報告会となる「KENDAI縁結びフォーラム」を開催し、自治体等関係団体のみなさま、県内外の高等教育機関、一般企業・団体、地域の方々など、計180名のご来場を頂きました。

当日は、開会式において「しまね地域マイスター課程」1期生が取り組んだ卒業研究の表彰式を行い、その後、浜田市・益田市それぞれとの共同研究成果報告のほか、しまね地域マイスター論文完成後の研究発表、浜田市と邑南町との「食」を通じた観光・文化交流協議会との共同研究成果報告会を行いました。

午後からは、地域と大学との「出会いの場」として浜田・出雲・松江キャンパスの教員や学生、地域活動団体の方に日ごろの活動についてポスターセッション形式により発表しました。

会場では、研究成果による試食や地域の食材でつくられたおにぎりやお味噌汁が振舞われ、来場者の皆さんや発表者同士の活発な意見交換が行われました。

◆日 時 平成31年2月19日（火） 9:30～14:10

◆会 場 島根県立大学浜田キャンパス

講義・研究棟1階 大講義室1、中講義室3・4・5、学生会館カフェテリア

◆プログラム

<開会のあいさつ>

- ・公立大学法人島根県立大学 清原正義 理事長
- ・浜田市 久保田章市 市長
- ・益田市 山本浩章 市長



▲清原理事長あいさつ



▲久保田浜田市長あいさつ



▲山本益田市長あいさつ

・地域共生卒業研究表彰

	氏名	研究テーマ
最優秀賞	松永 稜太郎	学生のローカル志向はコミュニティビジネスにつながるか～島根県の学生起業を事例として～
浜田市長賞	上代 美帆	女性観光客の集客による温泉地振興の方策～島根県浜田市金城町美又温泉の事例～



▲松永稜太郎さん



▲上代美帆さん

・共同研究報告会

会場 中講義室3	浜田市共同研究報告
	<p>「中山間地域における子育て支援ニーズに関する実践的研究」 島根県立大学 齋藤暁子 講師(浜田キャンパス)</p> <p>「コミュニティスペースのあり方に関する調査～浜田駅周辺に若者が集う場を創出する～」 島根県立大学 金野和弘 准教授(浜田キャンパス)</p>
会場 中講義室4	浜田市共同研究報告
	<p>「在宅高齢者の外出の現状と課題」 島根県立大学 松田善臣 准教授(浜田キャンパス)</p> <p>「浜田のいか缶詰製品開発」 「産学官連携商品“はまぼこ”の販売促進活動の効果」 島根県立大学 田中恭子 准教授(浜田キャンパス)</p> <p>「二反田団地におけるバス路線再編と住民意識に関する調査」 島根県立大学 西藤真一 准教授(浜田キャンパス)</p>
	浜田市と邑南町との「食」を通じた観光・文化交流協議会との共同研究報告
	<p>「特色ある浜田と邑南の食の提供：両市町飲食店の現状と今後の展望に関するヒアリング調査」(浜田キャンパスのみ) 島根県立大学 田中恭子 准教授(浜田キャンパス)</p>

会場…中講義室5	益田市共同研究報告
	「萩・石見空港に関する意識啓発のためのリーフレットの作成」 島根県立大学 西藤真一 准教授(浜田キャンパス)
	「大学生による「世代をつなぐ地域活性化」に関する研究」 島根県立大学 久保田典男 教授(浜田キャンパス)
	「住民組織による生活交通の支援策と路線バス乗降調査のためのプレ調査」 島根県立大学 松田善臣 准教授(浜田キャンパス)
	「益田市の就学前児童を持つ女性の仕事と生活調査に基づく子育て支援策の構築」 — 子育てしやすい益田市を目指して — 島根県立大学 藤原真砂 教授(浜田キャンパス)



▲浜田市との共同研究報告



▲益田市との共同研究報告



▲浜田市と邑南町との「食」を通じた観光・文化交流協議会との共同研究報告

・しまね地域マイスター論文完成後の研究発表

会場…中講義室3	「自己成長の場を活用した町づくり～奥出雲町の取り組みから見る受け入れ体制の考察～」 島根県立大学総合政策学部 難波千夏(浜田キャンパス)
	「学生コミュニティビジネスの継続が地域にもたらす効果の拡大～“学生海の家”の事例研究を通して～」 島根県立大学総合政策学部 樋野竜乃介(浜田キャンパス)
	「女性観光客の集客による温泉地振興の方策～島根県浜田市金城町美又温泉の事例～」 島根県立大学総合政策学部 上代美帆(浜田キャンパス)
	「学生のローカル志向はコミュニティビジネスにつながるか～島根県の学生起業を事例として～」 島根県立大学総合政策学部 松永稜太郎(浜田キャンパス)



▲しまね地域マイスター1期生による研究発表

・各種研究発表会、活動紹介

学生会館カフェテリア	学生の石見地域研究事業 主催：島根県西部県民センター 共催：島根県立大学
	「2018年島根県西部地震で被災した高齢者の継続的支援」 島根県立大学 井上厚史 教授(浜田キャンパス)
	「「田屋」(都市農村交流施設)カフェメニュー研究、開発」 島根県立大学 金野和弘 准教授(浜田キャンパス)
	「乗車密度の低いバス路線沿線住民の意識について」 島根県立大学 西藤真一 准教授(浜田キャンパス)
	「住民・行政が一体となって取り組む高齢者の外出支援についての検討」 島根県立大学 松田善臣 准教授(浜田キャンパス)
	「中山間地域における災害対策」 島根県立大学 齋藤暁子 講師(浜田キャンパス)
	「「地域をつくる」子どもたち」ー地域づくり・地区行事への中高生の参画を促進するための方策に関する調査研究ー 島根大学 宮本恭子 教授(浜田キャンパス)
	各キャンパスの取組紹介
	「交通インフラの運営と地域政策」 島根県立大学 西藤真一 准教授(浜田キャンパス)
	「島根県立大学発 ヘルスツーリズム (糖尿病患者さんのためのヘルスツアー)」 島根県立大学 平松喜美子 教授(出雲キャンパス)
	「出雲市平田地区におけるフレイル予防のための運動に関する介入研究」 島根県立大学 平松喜美子 教授(出雲キャンパス)
	「ショッピングセンターエルでの健幸フェスタ 2018 活動報告」 島根県立大学 林健司 講師(出雲キャンパス)
	「島根県立大学発 ヘルスツーリズム (マイナスをプラスに転じる旅)」 島根県立大学 小田美紀子 講師(出雲キャンパス)
	「平田木綿街道と高知県の瓦屋根景観の比較」 島根県立大学 藤居由香 准教授(松江キャンパス)
	「Design, Development, and Implementation of a Study Abroad Scrapbook」 島根県立大学短期大学部 ダスティン・キッド 講師(松江キャンパス)
島根あさひ社会復帰促進センターの資源を活用した地域貢献及び再犯防止施策の推進に関する委託研究 島根県立大学 豊田知世 准教授(浜田キャンパス)	

学生研究・活動発表	
「海士町ブータン青年研修における国際交流と地域づくりの融合を目指す学生参画型実践プロジェクト」	島根県立大学 佐藤ゼミ・豊田ゼミ (浜田キャンパス)
「学生による古民家を活用した地域活性型海の家」	海の家 Re:rie (レリエ) (浜田キャンパス)
「災害研究会 (DSAC) の活動報告」	災害研究会 (出雲キャンパス)
「地球食堂ー食事を通して出雲の子どもたちと世界をつなぐ」	地球食堂実行委員会 (出雲キャンパス)
「～がんを考える学生の会～「てんしんはん」」	てんしんはん (出雲キャンパス)
「広げよう！ラオスに繋げる支援の輪」	ラオス広報部 (松江キャンパス)
「Rediscovering Regional Resource」	地域文化論IV (地域資源) 選抜チーム (松江キャンパス)
地域活動団体による活動紹介	
「やってみな わからん！」	やさか爺～婆～さん倶楽部 (浜田市弥栄町)



▲ポスターセッション



▲学生研究・活動発表



▲地域活動団体による活動紹介



▲学生の石見地域研究事業

2 しまね地域マイスター認定制度

しまね地域マイスター認定制度とは

島根地域のさまざまな分野において、課題解決能力をもった学生を認定する、本学独自の制度です。卒業時には、自ら地域の課題に対して向き合い、考え、課題解決に向けた行動力のある人材として、社会に飛び出すことができることを目標にしています。

<育成しようとする人材像>

以下の3項目を人材育成目標として掲げています。

- ①島根県内の地域の事情に精通している人材
- ②地域に関わるさまざまな人々を結びつけるコーディネート力がある人材
- ③熱意をもって地域の困難な課題の解決に取り組むことができる実践力がある人材



「しまね地域マイスター」の期待される効果について

<学内での効果>

地域学習を段階的・体系的に制度化すること、大学と地域との「共育」を実践することに意味があり、学生の提言力、実践の力の育成につながると考えています。

<地域への効果>

マイスター学生が地域において学習・実践し、卒業研究などを通じた提言を行うことによって、地元地域・企業等の活性化、地元地域（島根県）への愛着の醸成、結果としての地元地域への就職の可能性拡大などを期待しています。

『しまね地域マイスター認定制度』各カリキュラムについて

しまね地域共生学入門

講義中継システムを活用し、3キャンパス同時の遠隔講義形式で実施する科目で、島根県の地域課題を概論的に学びます。

複雑な地域課題において、複数の専門からの知見により学ぶことで、実際に地域に出て実践する力を養います。

地域課題総合理解

浜田キャンパスと出雲キャンパスが合同で開講する科目で、1泊2日の集中講義形式で実施します。島根県が抱える問題について、異なる分野の学生が演習形式で議論・報告することを通して、地域課題を複眼的にとらえる力を養う授業です。

地域共生演習 [総合政策学部（浜田キャンパス）科目]

しまね地域マイスター取得を目指す学生対象の演習（ゼミ）です。

関心のある地域課題の解決に向けて、自らの仮説を設定し、フィールドワーク等を通して検証し、解決策を提案できるような力を養います。

4年次には、地域課題について学んできたこれまでの知見と実践を踏まえ、

「地域共生卒業研究」を完成させます。



3 浜田市と島根県立大学の共同研究成果報告会（平成 31 年 2 月 19 日開催）

本学では「浜田市との連携協力に関する協定書」に基づき、地域振興など浜田市の施策に有用なテーマについて、浜田市と共同で研究をおこなっております。

本年度においては、平成 31 年 2 月 19 日（火）に浜田キャンパスを会場にして開催された、平成 30 年度「KENDAI 縁結びフォーラム」の中のプログラムとして、平成 30 年度の研究成果報告会がおこなわれました。

当日の会場には、市民の皆様や行政関係者など、多数のご参加がありました。

なお、本年度の研究テーマは以下の 5 件です。

《本年度の研究テーマ》

○新商品開発プロセスを経て、市場に導入する際の販路構築の研究

島根県立大学 田中恭子 准教授（浜田キャンパス）

○二反田団地におけるバス路線再編と住民意識に関する調査

島根県立大学 西藤真一 准教授（浜田キャンパス）

○コミュニティスペースのあり方に関する調査～浜田駅周辺に若者が集う場を創出する～

島根県立大学 金野和弘 准教授（浜田キャンパス）

○在宅高齢者の外出の現状と課題

島根県立大学 松田善臣 准教授（浜田キャンパス）

○中山間地域における子育て支援ニーズに関する実践的研究

島根県立大学 齋藤暁子 講師（浜田キャンパス）



4 益田市と島根県立大学の共同研究成果報告会（平成 31 年 2 月 19 日開催）

本学では「益田市との連携協力に関する協定書」に基づき、地域振興など益田市の施策に有用なテーマについて、益田市と共同で研究をおこなっております。

本年度においては、平成 31 年 2 月 19 日（火）に浜田キャンパスを会場にして開催された、平成 30 年度「KENDAI 縁結びフォーラム」の中のプログラムとして、平成 30 年度の研究成果報告会がおこなわれました。当日発表された研究テーマは以下の 4 件です。

当日の会場には、市民の皆様や行政関係者など、多数のご参加がありました。

《本年度の研究テーマ》

○益田市の就学前児童を持つ女性の仕事と生活調査に基づく子育て支援策の構築

— 子育てしやすい益田市を目指して —

島根県立大学 藤原真砂 教授（浜田キャンパス）

○大学生による「世代をつなぐ地域活性化」に関する研究

島根県立大学 久保田典男 教授（浜田キャンパス）

○萩・石見空港に関する意識啓発のためのリーフレットの作成

島根県立大学 西藤真一 准教授（浜田キャンパス）

○住民組織による生活交通の支援策と路線バス乗降調査のためのプレ調査

島根県立大学 松田善臣 准教授（浜田キャンパス）



5 学生の石見地域研究事業成果報告会（平成31年2月19日開催）

島根県では、地域の実情を理解し地域課題を解決しようとする人材の育成と、地域活動の充実を図るため、研究者及び学生と石見地域の活動団体等が効果的に関わる機会を創出することを目的に、石見地域での調査・研究活動を委託する「学生の石見地域研究事業」を実施しています。

本年度は、6件の調査・研究活動が実施され、研究成果報告会を平成31年2月19日（火）に浜田キャンパスを会場にして開催された、平成30年度KENDAI縁結びフォーラムの中のプログラムとして実施されました。なお、報告会は、ポスターセッション形式で行い、会場には、市民の皆様や行政関係者など、多数のご参加がありました。

《平成30年度 学生の石見地域研究事業 採択一覧》

- 「田屋」（都市農村交流施設）カフェメニュー研究、開発
島根県立大学 金野和弘 准教授（浜田キャンパス）

- 公共交通の重要度調査
島根県立大学 西藤真一 准教授（浜田キャンパス）

- 2018年島根県西部地震で被災した高齢者の継続的支援
島根県立大学 井上厚史 教授（浜田キャンパス）

- 住民・行政が一体となって取り組む高齢者の外出支援についての検討
島根県立大学 松田善臣 准教授（浜田キャンパス）

- 中山間地域における災害対策
島根県立大学 齋藤暁子 講師（浜田キャンパス）

- 「地域をつくる」子どもたち
ー地域づくり・地区行事への中高生の参画を促進するための方策に関する調査研究ー
島根大学 宮本恭子 教授



6 3 キャンパス合同学生ボランティア交流会

この企画は、松江・出雲・浜田の3キャンパスの学生が日頃行なっているボランティアを相互に理解し合い、その関心を高めたいうで、3キャンパスのボランティア活動でのつながりをつくることを目指しています。また、3キャンパス連携でのボランティア活動を通して、ボランティア活動の意義や魅力について学びます。

平成30年11月17・18日に多世代交流型こども食堂「みーる堂」の方、NPO法人緑と水の連絡会議の方にご協力いただき実施し、2日間で3キャンパスの学生17名、教職員6名の合計23名の参加がありました。

活動内容

【11月17日】 多世代交流型こども食堂「みーる堂」での運営補助

地域の方が集まれる居場所作り（地域貢献型）のボランティア活動

地域の方々と一緒に「避難所運営ゲーム（HUG）」を体験

【11月18日】 講演「国際的なボランティア活動支援について」

講師：NPO法人緑と水の連絡会議 事務局長 和田譲二氏

3キャンパスのボランティア活動報告

グループディスカッション



▲地域の皆さんが召し上がるカレーを作りました。



▲避難所運営ゲーム（HUG）を体験しました。



▲参加してくれた子どもたちとたくさん遊びました。



▲国際的なボランティア活動支援についての講演



▲グループワークの様子



▲宿泊場所：国立三瓶青少年交流の家

Ⅱ. 各キャンパスの活動

《浜田キャンパス》

平成 30 年度 公立大学法人島根県立大学
地域連携推進センター浜田キャンパス運営会議 名簿

(任期：平成 30. 4. 1～平成 31. 3. 31)

職 名	氏 名	備 考
教授	藤原 眞砂	・地域連携推進センター長
准教授	西藤 真一	・地域連携推進センター副センター長 ・事業推進検討会
教授	沖村 理史	・委員(教育支援検討会)
准教授	ヘネベリー・スティーブン	・委員(教育支援検討会)
准教授	豊田 知世	・委員(教育支援検討会)
准教授	木村 秀史	・委員(研究企画検討会)
講師	李 憲	・委員(研究企画検討会)
講師	村井 重樹	・委員(情報発信検討会)
地域連携課 課長	河部 安男	・委員
地域連携課 主任主事	藤原 晃治	
地域連携課 主任主事	福間 裕介	
地域連携課 主事	渡邊 真優	
嘱託員	竹根 美雪	

浜田キャンパス：地域連携活動概要

地域連携推進センター副センター長 西藤 真一

本学では、平成 25 年度から文部科学省補助事業「地（知）の拠点整備事業」を実施して参りました。平成 29 年度にすでにその事業は終えましたが、平成 30 年度は当事業を引き続き実施した 1 年でした。

浜田キャンパスの取り組みはおもに、①学生教育、②研究、③社会貢献の 3 つの柱から構成されています。まず教育関係では、平成 28 年度から「しまね地域マイスター認定制度」の根幹となる科目が本格的に開講されています。認定制度を通して本学では地域に精通し、熱意をもって課題解決にあたることのできる人材を「しまね地域マイスター」と称する独自の称号を授与することにしてはいますが、このたびその 1 期生が卒業いたしました。彼らに続く後輩らも、それぞれのゼミ（地域共生演習）で、地域課題をテーマとした本格的な調査・研究を意欲的に行なっています。

ただし、浜田キャンパスの「しまね地域マイスター」の制度の運用をめぐるには、幾らかの課題も見つかっています。インテンシブなゼミ指導を行い、レベルの高い卒業論文を作成することには一定の効果はありますが、他方で学生の参加意欲を掻き立てるという面では、たとえば就職にどのように役立てられるのかというようなメリットも必要ではないかと思われれます。制度に対する学生の理解にとどまらず、地域にも積極的に浜田キャンパスの「しまね地域マイスター」をアピールする必要があると認識しております。

また、研究面でも地域が抱える課題に対して、教員の専門的な知見を活かした研究活動が数多く実施されました。ローカル地域にはデータそのものが存在しないことも多いですが、データの収集から地域と連携して取り組み、分析を経た政策提言を行う研究は、ますます必要とされてくるでしょう。これは研究を通じた社会貢献の側面もあり、引き続き研究力の向上に努めてまいります。

そのほかの社会貢献分野として、引き続き「3 キャンパス合同学生ボランティア交流会」が計画どおりに実施され、学生主導で安定的に運営がなされています。各キャンパスの専門分野や地域性を考慮したテーマが選択され、毎年特徴的なボランティア内容が企画、実践されています。

以上のように、学生自身が地域との関係から学ぶとともに、教員も社会貢献の側面も持つ研究の蓄積を重ねてまいります。文科省の補助事業期間を終え、今後は蓄積したノウハウをさらにブラッシュアップしていくことになります。大学の研究で得られた「知」の共有を幅広く展開できるよう、さらに取り組みを継続してまいります。

1) 学生の地域貢献活動

(1) 学生ボランティア活動

学生の地域貢献活動のひとつとして地域でのボランティア活動に従事しています。以下活動に参加した学生からの感想や活動の様子の写真を紹介し、さらに今年度のボランティア活動の一覧を付します。

【12月19日 はじめての手話 感想】

この講演では、日常生活で困っていることや手話について、聴覚障害者の方が自身の経験を踏まえて講演されていたので、とても興味深いものでした。さらに、手話を見ながら協議会の方が訳してくださり、講演の中でよく使われていた手話を少し理解することができたように感じます。

特に私が驚いた話は、病院の待合室で、名前が呼ばれたことに気づかず、半日待たされたという話です。看護師の方はよくマスクをされるので、口の動きで言葉を読み取ろうとしても、分からないとのことでした。

この講座は初級編だったため、主に聴覚障害についてのお話がありました。手話は、真似ることが表現の基本であり、地方によって異なる手話があることや手話の種類について学ぶことが出来ました。また、手話をする上で、顔の表情というのはかなり重要であることが分かりました。

書籍等で手話を学ぶことは出来ませんが、この講座では、クイズを通して手話を楽しく学ぶことが出来ました。これからも手話の勉強を続け、困っている人がおられたときに、助けられるような存在になりたいと思います。

(3年生 春若美咲)



いわみ自然学校(2018. 8. 1-3)



米軍岩国基地の方との海岸清掃活動
(2018. 9. 18)

ボランティア活動の一覧

依頼団体	活動日	活動内容	活動場所	参加人数
浜田市役所	4/7.8	浜田探索ツアー 添乗	浜田市内 各所	各日3名
大平桜まつり実行委員会	4/8	大平桜まつりの盛り上げ	三隅町矢原	27名
長沢町内自治協議会	4/22	御神輿担ぎ	長沢町内	8名
浜田市観光協会	4/29	浜っ子祭り運営サポート	浜田市内	
浜田商工会議所	4/29	浜っ子春祭り大名行列（腰元役）	浜田市内	4名
ひきみ田舎体験推進協議会	5/3	匹見峡春祭り	益田市匹見町	1名
島根県立少年自然の家	5/12.13	オープンデー	少年自然の家	14名
ゴーライズ	5/27	キッズランニングバイク大会	金城ウエスタンライディングパーク	3名
島根県赤十字血液センター	6/6	献血呼び込み	学内	1名
後野自治公民館	6/10	運動会の役員、参加	後野町	33名
子育て支援センター	7/7	すくすく♡子どもまつり	子育て支援センター	5名
島根県立少年自然の家	7/14-15	チャレンジサマー	少年自然の家	2名
浜田市立小国公民館	7/21-22	おぐにふるさと学校	小国公民館付近	2名
浜田市立石見公民館	7/22	いわみっ子まつり	石見公民館	4名
島根県教育庁保健体育課	7/31-8/9	世界少年野球大会	松江市営野球場他	5名
株式会社 ISP	8/1-3	いわみ自然学校	石見海浜公園	11名
浜田地区広域行政組合	8/1-3	浜田広域圏子ども交流事業	浜田市・江津市	10名
島根県立少年自然の家	8/5-10	ジュニアサマーキャンプ	少年自然の家	8名
浜田市子育て支援センター	8/10	すくすくカフェ	子育て支援センター	1名

かっぱランド夏祭り実行委員会	8/11	かっぱランド夏祭り	三隅町黒沢公民館周辺	2名
浜田市立白砂公民館	8/20	学習支援&雑巾縫いの見守り	三隅小児童クラブ	2名
株式会社 ISP	9/18	米軍との海岸清掃	石見海浜公園	4名
株式会社 ISP	9/22-23	米軍キャンプ手伝い	石見海浜公園	6名
しまね国際センター	10/8	しまね国際センター&JICA ブース：海遊祭	学内	5名
浜田港振興会	10/10	コスタ・ネオロマンチカ	浜田港・浜田駅	6名
島根県立少年自然の家	10/13-14	子ども探検隊 in 自然の家	少年自然の家	3名
浜田市退職会	10/20	秋の清掃奉仕活動	浜田城跡	3名
ほっとサロン浜田	10/20.21	福祉フェスタ（がんサロン ブース）	浜田市総合福祉センター	2名
浜田医療センター	10/21	浜田駅北フェスタ	浜田医療センター	4名
浜田市子育て支援センター	10/31	すくすくカフェ	子育て支援センター	1名
BB 大鍋フェスティバル 実行委員会	11/3	BB 大鍋フェスティバル	お魚センター周辺	2名
島根県立少年自然の家	11/10-11	森と海のつどい	少年自然の家	3名
NPO 法人浜田おやこ劇場	11/18	おやこ劇場託児	いわみーる	3名
社会福祉法人いわみ福祉会	11/23	いわみ福祉会 大収穫祭	桑の木園	2名
島根県立少年自然の家	12/1-2	かわいい子には旅をさせよう	少年自然の家	9名
島根県立少年自然の家	12/22-24	ジュニアウィンターキャン プ	少年自然の家	4名
白砂地域福祉推進協議会	12/23	ふれあい餅つき交流会	白砂公民館	5名
大田市教育委員会	12/26-30	山村留学 リーダー	三瓶	1名
浜田市教育委員会	1/3	浜田市成人式司会	石央文化ホール	2名

安城地区まちづくり推進委員会	1/5-6	やさか塾 2019 冬合宿	弥栄会館ほか	3 名
島根県立少年自然の家	1/12-13	かわいい子には旅をさせよう	少年自然の家	延べ 22 名
NPO 法人浜田おやこ劇場	2/11	おやこ劇場託児	いわみーる	2 名
浜田市立浜田公民館	3/1	浜田公民館フェスタ	浜田公民館	2 名
浜田市立浜田公民館	3/3	着物リメイクファッションショー	浜田公民館	1 名
株式会社 ISP	3/10	米軍岩国基地の方との海岸清掃活動	石見海浜公園	14 名
浜田市退職会	3/23	春の清掃奉仕活動	大学通り	1 名
浜田市立石見公民館	3/24	いわみっ子まつり	石見公民館	4 名
大田市教育委員会	3/26-30	山村留学リーダー	三瓶	1 名
しまね国際センター	3/30	世界の絵本でおはなし会	浜田市立中央図書館	3 名
大平桜まつり実行委員会	3/31	お祭りの盛り上げ	三隅町矢原	13 名

【通年ボランティア】

てらこ屋	H30 年度	体操教室講師補助	雲雀丘小学校体育館	延べ 54 名
サポートステーション	H30 年度	スポーツ交流	いわみーる	1 名
日本語ボランティアグループいち・に・さん	H30 年度	日本語指導	中央図書館・石見公民館	延べ 25 名
浜田市立浜田公民館	12-3 月開催	HAMADA 留学 Winter Community College 学習支援	浜田公民館	延べ 42 名
NPO 法人浜田おやこ劇場	H30 年度	すぺーす・ひだまり 託児	子育て支援センター	延べ 9 名

【研修】

浜田市社会福祉協議会	12/19	はじめての手話講座	浜田市総合福祉センター	2 名
株式会社 ISP	5/12-13、 6/9-10	NEAL リーダー養成講座	浜田市総合福祉センター	延べ 12 名

(2) ボランティア・ポイント抽選会

平成 31 年 2 月 12 日(火)、学生会館（カフェテリア）2 階にてボランティア・ポイント抽選会を開催しました。この抽選はボランティア活動を 1 回すると抽選券が付与され、1,831 枚の抽選券で賞品の抽選を行いました。

賞品は学外活動にも役立つ「旅行券」、浜田市内各所で利用できる「浜田市共通商品券」、石見地域の美味しいものをいただける「石見の選べるうまいもんセット」、浜田市での活動範囲を広げてくれる「石見交通バスカード」、浜田の魅力体験できる「アクアス入場券」「乗馬体験チケット」「陶芸体験チケット」などの賞品が当選した学生に授与されました。また、卒業生から「松永牛」の提供があり、抽選会当日は抽選者として参加していただきました。



(3) 地連 Café (ボランティア交流会)

○第 24 回 地連 Café OPEN! (平成 30 年 4 月 10 日)

浜田キャンパスカフェテリア 2 階にて、第 24 回地連カフェが開催されました。サークル・団体が行っている地域活動の報告や、外部からゲストをお招きしてボランティア活動の紹介を行って頂きました。フリータイムもあり、それぞれが充実した時間を共有できました。

【外部団体によるボランティアの案内】

- ・島根県立少年自然の家 宅間邦晴さん

少年自然の家で年間を通して行われている活動について、映像と音楽を交えてご紹介いただきました。

- ・しまね国際センター 吉川香澄さん

地域で出来る日本語教室や国際交流のボランティアなどについてご紹介いただきました。

【学生による地域活動の紹介】

- ・BBS サークル 森迫ほのかさん (2 年生)
- ・てごねっと 大串茉莉望さん (3 年生)
- ・海の家 Re:rie 河野真奈さん (2 年生) 今村充晴さん (3 年生)

○第 25 回 地連 Café OPEN! (平成 30 年 10 月 31 日)

浜田キャンパスカフェテリア 2 階にて、学生と地域をつなぐ「ボランティア・プラットホーム」を開催しました。

【外部団体によるボランティアの案内】

- ・浜田公民館 大地本由佳さん
- ・紺屋町コミュニティカフェ 野村純子さん
- ・都野津町づくり協議会 南口修さん
- ・浜田市社会福祉協議会 中田梢さん

【学生団体による発表】

- ・読み聞かせサークル「ゆるりの会」櫻井雄太さん (2 年生)

○第26回 地連Café OPEN！（平成30年11月14日）

浜田キャンパスカフェテリア2階にて、地連カフェを開催しました。今回の地連カフェでは学生時代にボランティア活動に励んだ先輩をお招きし、お話をいただきました。

【先輩】青木美奈子さん（2017年卒・日本海信用金庫勤務）

○第27回 地連Café OPEN！（平成31年2月12日）

今年度最後の地連Caféでは、平成30年4月～平成30年12月までの8か月間で行ったボランティア回数の上位者5名を表彰し賞状と記念品を贈呈しました。上位者は以下のとおりです。

1位	春若 美咲（3年）	40回
2位	浦辺 太一（1年）	30回
3位	梶 瑞希（3年）	28回
4位	鈴木 翔太（4年）	22回
5位	伊藤 璃子（2年）	15回



2) 地域に関する教育・研究活動

(1) しまね地域マイスター論文完成後の研究発表会

平成31年2月19日（火）に浜田キャンパスを会場にして開催された、平成30年度「KENDAI 縁結びフォーラム」の中のプログラムとして、「しまね地域マイスター論文完成後の研究発表会」が開催されました。今年度はマイスター課程1期生8名が卒業研究・論文に取り組み、このうち、最優秀賞に「学生のローカル志向はコミュニティビジネスにつながるか～島根県の学生起業を事例として～」を研究した松永稜太郎さん、浜田市長賞に「女性観光客の集客による温泉地振興の方策～島根県浜田市金城町美又温泉の事例～」を研究した上代美帆さんが選ばれ、それぞれ清原正義学長と久保田章市市長から賞状と記念品が授与されました。

表彰式の後、マイスター課程1期生、4名が自ら得た知見と研究をしてきた内容について発表をしました。

なお、卒業研究・論文タイトルは以下のとおりです。

氏名 ※五十音順	研究テーマ
飯野 公子	老舗企業に学ぶ石見の強みを活かした経営～地域関係構築の視点から～
勝部 未希	島根県出身の若者を対象としたUターン促進の方策～地元企業の魅力発信の視点から～
上代 美帆	女性観光客の集客による温泉地振興の方策～島根県浜田市金城町美又温泉の事例～
富田 早貴	玉造温泉を事例とした若年層に焦点を当てた観光振興の方策
難波 千夏	自己成長の場を活用した町づくり～奥出雲町の取り組みから見る受け入れ体制の考察～
樋野 竜乃介	学生コミュニティビジネスの継続が地域にもたらす効果の拡大～“学生海の家”の事例研究を通して～
松永 稜太郎	学生のローカル志向はコミュニティビジネスにつながるか～島根県の学生起業を事例として～
渡邊 千晶	浜田市の特産品のPR、販路開拓推進の方策

《地域共生卒業研究表彰式》



〔学部生〕 左から樋野竜乃介さん／松永稜太朗さん／上代美帆さん／難波千夏さん

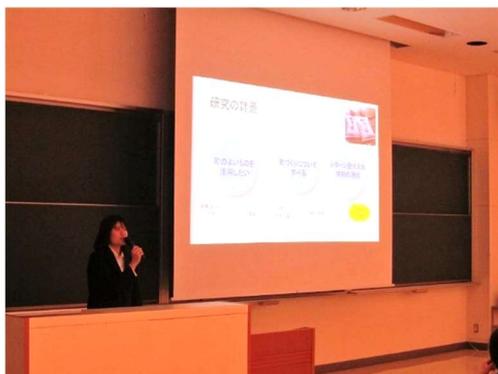


【浜田市長賞】 上代美帆さん



【最優秀賞】 松永稜太朗さん

《しまね地域マスター論文完成後の研究発表》



(2) フレッシュマン・フィールド・セミナー

フレッシュマン・フィールド・セミナーは、社会のさまざまな現場（フィールド）に出かけていき、そこでフィールドにおられる人々への調査を通じて課題を発見し、課題の解決策を提案するセミナーである。入学初年次から地域のさまざまな人と接し、自らの学修目的を明確化することで、自らが望んだ職業に就く能力を学生に身につけさせることを目的としている。

このセミナーは、1) 事前学習、2) フィールド調査、3) 調査結果分析、4) 課題解決策の提案、5) 成果発表、の5つのプロセスで構成されている。各セミナーの実施回数にもよるが、概ね10～13回を教室で行い、島根県内・浜田市・近隣地域に出向いてのフィールド調査を2～5回ほど実施する。春学期に実施されるフレッシュマン・スキル・セミナーで学んだアカデミック・スキルを活用しながら、課題発見と課題解決能力を身につけ、2年次から始まる専門教育への橋渡しをするセミナーでもある。また、グループ学習を実施するセミナーの場合、受講生は少人数のグループを組み、協同作業による自発的で能動的な学びを実践する。

平成31年1月24日には、このセミナーの最終プロセスである「フレッシュマン・フィールド・セミナー合同成果発表会」が開催された。はじめに大講義室2で、ゼミ単位で順番に1分間ずつの概要説明をおこなったのち、全15ゼミが各演習室に分かれて成果をポスターセッション形式で報告した。

来場者には評価シートを配付し、各ゼミのポスター等の掲出物、プレゼンテーション、研究の内容等について、3つのゼミに対する評価を記入していただいた。

この発表会には学生・教職員はもとより、取材・調査先関係、一般市民、報道関係の皆さんなどの来場もあった。



▲合同成果発表会の様子▲

平成 30 年度 フレッシュマン・フィールド・セミナー 授業概要一覧

クラス	テーマ・概要等	フィールド
井上(厚)ゼミ	<p>—「多様性」を学ぶ— 大学生として身に付けておきたいことの一つに、「多様性」への理解がある。島根県立大学が位置する浜田市は、海と山に囲まれた孤立感が強い地方都市である。島根県西部地方（石見地方）も山ばかりの中山間地域であり、私たちは外部と隔絶した世界で毎日過ごしている。大学の中にいると気がつきにくい、こうした孤立した世界に生きてると、私たちはいつの間にか自分たちだけの世界に閉じこもってしまっている。 過疎高齢化が進む島根県は、もともと多様性に対する理解が低い県である。一步大学の外に出ると、そこは島根県人の世界であり、外部から来た人間（県外出身者や外国人）は疎外されたり、仲間はずれにされたりすることも多い。こうした閉鎖性は島根県に限ったことではないが、地方都市が今後生き残るためには、外部から来た人間との共生が不可欠な時代になっている。積極的に外に出て、大学の外に広がる「多様性」を学んでおきたい。具体的には、①島根県西部で最も移住者との共生に成功している吉賀町柿木村（http://kakinoki.shimaken.org/WARMTH/）との交流、②広島市内でカンボジア料理店を営むカンボジア難民のリー・サルーンさん（http://mealea-angkor.jp/staff-info/）との交流、を通して、リアルな「他者」との共生について学んで行きたい。オリエンテーションでこのゼミの内容を理解し、到達目標を立てる。メンバーを、①柿木村班と、②カンボジア難民班、に分ける。・それぞれ事前調査と具体的なフィールド調査の方法について学ぶ。・実際にフィールド調査を実施する。・以上を通して、地方都市で「多様性」を生きる方法について具体的に理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・島根県津和野町 ・広島県広島市
瓜生ゼミ	<p>浜田キャンパスがある浜田市内で「文化」を語り、その活動を発表しようとした場の拠点となる施設が「石中央文化ホール」である。1100名余りを収容できる大ホールには、演劇や舞踊・音楽などの上演が可能なステージがあり、また劇場用映画の上映が可能な映写機と大きなスクリーンが敷設されている。浜田市の住民はもとより石見地域の人々が、様々な文化的催しものを楽しみ、明日へのエネルギーを再生するための文字通り「文化」を創造する施設である。また今年も、1992年から島根県全体で展開されている「しまね映画祭」の特別企画である「映画塾」も「石中央文化ホール」を中心として開催されることとなっている。「文化」とは、有史以来人類が『より豊かで楽しく潤いのある人生を送りたい』と考え、様々な工夫と発想をもって築きあげてきた『人類固有の創造的活動の結晶体』である。多くの制約や束縛の中で「世知辛い」日々を送らざるを得ない日常に、正に『人間しか為し得ない”想像性”と創造性”を駆使した』文化的生活の一端に触れることは、学生生活に限らず将来的な社会生活を営む上でも、良い結果を生むものと考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・石中央文化ホール
久保田ゼミ	<p>日本では、全企業の99%を中小企業が占め、全従業員の約70%が中小企業に勤務するなど、中小企業はわが国経済の活力の源泉であり、地域経済を支える大きな存在である。本ゼミナールでは、島根県を代表する製造業者であるシマネ益田電子株式会社を調査対象として取り上げる。シマネ益田電子株式会社は、半導体などの電子部品を製造する企業で高周波対応の半導体製造技術を武器に複数の大手メーカーと取引を行うに至っている。2013年にはタイに現地法人を設立し海外生産も実施している。また島根県内で雇用面において優れた取組みを行う企業に表彰される「しまねいきいき雇用賞」に表彰されるなど、人材育成や職場環境の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シマネ益田電子株式会社

	<p>整備にも積極的である。本ゼミナールでは訪問先企業の取組を調査することを通じて、企業を調査するうえでの手法を学ぶとともに、企業の抱える課題やその解決策、企業の事業展開の取組みについて学ぶことを目的とする。本ゼミナールでは、調査対象企業の事業所の見学や関係者へのインタビューを通じて、同社の強みや課題、今後の方向性などを考察し、最終的にその成果を学内や関係者に向けて発表を行う。</p> <p>【到達目標】事例研究を通して、地域企業が抱える課題を発見し、その解決策を考え、提案することができる。他の学生と協調しながら調査、分析、レポートの作成ができる。積極的に自分の意見を口頭で発表することができる。</p>	
齋藤ゼミ	<p>このセミナーでは、「地域における高齢者福祉の現状と課題」をテーマに、全国的にも高齢化が進む浜田市で、高齢者の方々をどのように支えていくのかを考えていきます。具体的には、地域福祉を支える側（自治体、社会福祉協議会）と支えられる側（高齢者）の両方を対象に下記の三回のフィールドワークを行い、地域における高齢者福祉の課題を多角的に理解します。</p> <p>フィールドワーク① 浜田市の高齢者福祉担当者へのインタビュー調査 フィールドワーク② 社会福祉協議会の高齢者福祉担当者へのインタビュー調査 フィールドワーク③ 高齢者の自主的なサロン活動への参与観察（参加型調査）</p> <p>以上を通じて、フィールドワークの手法を実践的に学びながら地域固有の高齢者福祉の課題を多角的な視点から理解します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・浜田市健康長寿課 ・浜田市社会福祉協議会 ・浜田市内の高齢者サロン（ほがらか会、松原笑えみ会）
鈴木ゼミ	<p>島根県は人口あたりでみた犯罪や交通事故の発生件数が他の都道府県と比べて非常に少ない県です。特に交通事故に関しては鳥取県に次いで全国で2番目に発生件数が少なく、犯罪についても全国でトップ10に入るほど発生件数が少ないため、全国的にみて非常に安全な地域であるといえます。さらに同様の比較をデータが入手可能な2008年度までの期間で島根県内の浜田市と松江市で行うと、浜田市の方が犯罪、交通事故ともに人口あたりでみた発生件数が少なく、県内において一層安全な地域であることが、近年のデータを用いていない不十分な比較ではあるものの確認できます。このような地域の安全性は警察の活動によって保たれていると考えられますが、実際に警察がどのような防犯や検挙活動を行っているかは、警察署を訪問して話を聞いてみなければわかりません。また、そもそも警察という行政サービスは都道府県単位で提供されているため、市町村単位の安全性に関するデータは乏しく、先ほどの浜田市と松江市の比較のような市町村間の比較が十分に行えないというのが実情です。そこで、この授業では浜田警察署に訪問し、具体的な警察の活動内容や安全性に関する非公表データについてのヒアリング調査（聞き取り調査）を行うことで、浜田市をはじめとした島根県下の市町村の安全性がどのように保たれているか、またこれからの課題は何であるかをゼミ生の皆さんと一緒に明らかにしていきたいと考えています。</p> <p>【到達目標】・最終目標を設定し、目標達成のための戦略を立てたうえで実行することができる。・メリットや限界を理解したうえで、ヒアリング調査票を完成させることができる。・ゼミやチームのために時間を使うことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・浜田警察署
田中ゼミ	<p>「地域内の経済循環と地元経済の活性化：BUY 浜田運動アンケート調査」</p> <p>浜田市では、市内で生産・製造・加工された商品をより多く市内で消費することを通じて、地元経済の活性化を目指す「BUY 浜田運動」に取り組ん</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(株)イズミゆめタウン浜田店 ・(株)服部タイヨー

	<p>でいます。市内消費を促進することで企業利潤や域内での所得・雇用の増加が生まれ、地域内の経済循環が形成されます。同時に域外への貨幣流出を抑えていくことも期待できます。本演習では、BUY 浜田運動の推進のために小売店での店頭アンケート調査を実施します。アンケート調査では、認知度、地産地消を意識する製品群、購入基準、運動へのニーズ把握等について市民を対象として実施します。受講生は、浜田市で実施されている「BUY 浜田運動」の取り組み内容や、加盟店である各企業（小売店）が具体的にどのような販売展開を行っているのかを理解し、その上で消費者である市民の方々にアンケート調査を行ってもらいます。いわゆる地産地消がもたらす経済効果について理解したうえで、実際に消費者アンケート調査を実施し、その結果から本運動の認知度およびニーズについて考察してもらいます。調査を通じて浜田市内での域内消費と企業行動、消費者ニーズの現状や課題について理解し検討を行うことを目的とします。</p> <p>【到達目標】・フィールド調査にあたって事前に必要な資料を収集し、的確にまとめることができる。・対象企業の周辺環境を整理し、対象企業の有する課題を理解することができる。・調査方法（聞き取り、アンケート等）の基礎知識・手順を理解することができる。・調査の過程で自らの考えを説得的に表現することができる。・わかりやすい発表資料を作成し、口頭で説明できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(株)キヌヤ ・(株)油屋ダブス ・JA しまねいわみ中央きんさい市場
豊田ゼミ	<p>島根あさひ社会復帰促進センターは、日本で4番目に建設されたPFI（官民協働）方式の刑務所です。この施設は、「地域振興の核となる施設」としても期待されており、地域を協力しながら、社会復帰プログラムが実施されています。PFI方式は、これまで行政が行ってきた事業に、民間の経営能力や技術やアイデアを積極的に取り入れながら、効率的かつ効果的な利用を目指す方法です。刑務所のPFI方式は日本の中でも新しいため、今後も新たなアイデアによる地域と社会に有効なあり方が目指されています。ゼミでは、PFI方式や社会復帰センターの役割について学んだ後、社会復帰センターの新たな利活用方法について、幅広い視点から考えて行きます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・島根あさひ社会復帰促進センター
林ゼミ	<p>当ゼミでは、観光施設の調査・研究にとり組み、石見地方の観光について考える。観光施設としては、島根県立しまね海洋館アクアスを取り上げる。当該施設は、2016年の入込客数は36.4万人で、石見地方の観光とレクリエーションにおいては重要な存在である。その一方、水族館として、種の保存、環境やその他の教育、調査・研究の機能も有している。そこで、水族館のもつ多様な機能にも着目しつつ、石見地方の中核的な施設としての島根県立しまね海洋館アクアスの果たす役割を考え、受講者の視点から施設のより良き方向を探ることを試みる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・しまね海洋館アクアス ・宮島水族館
福原・佐藤合同ゼミ	<p>本ゼミは、佐藤壮ゼミ・福原裕二ゼミの合同で実施する。そこでは、それぞれのゼミで行う指導内容や体様などの特徴を維持・尊重しつつ、「北東アジアで生きる：在日コリアンの体験と記憶／在日外国人との交流と共生」をテーマにした共通のフィールド体験・学び・調査を行うことにより、北東アジア地域研究、国際関係研究にまつわる初歩的な諸課題を発見し、これらについての関連知識を収集・整理して、課題の解決策を模索していくことを目的とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出雲市国際交流室 ・出雲市社会福祉センター日本語教室 ・都茂丸山銅山跡 ・千原取水堰堤 ・澄川発電所
藤原ゼミ	<p>テーマ 地域の子育て環境の実態、あり方について研究します。</p> <p>島根県に子育て期の女性の就業率と合計特殊出生率は全国的に極めて高いものがある。これを解明するために藤原は2018年3月に浜田市、益田市で「島根県の子育て期の女性の仕事と生活調査」を実施し、3000票あ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・三階小学校 ・石見小学校

	<p>まりの回答を得た。設問に関しては別途集計中であるが、この調査票では放課後クラブ、子育てしやすい地域環境に関して回答者からさまざまな意見、要望を得ている。本セミナーではこれらの自由回答を整理するとともに、放課後クラブの実態に関して見学等を実施し、地域の子育て支援環境等に関する理解を深め、ひいては少子化問題についてともに議論し、考察を深めたい。</p>	
光延ゼミ	<p>【メディアの中の政治経済—電子新聞の作成を通じて報道を理解する】 今日、メディアやジャーナリズムは、常に「政治」や「経済」の中にありますが、こうしたメディアやジャーナリズムを、伝える側から分析して見ようというのが、このクラスの授業の目的です。たとえば、ニュースなどの情報は、①社会的出来事の発生→②社会的出来事を選択・取材→③ニュース素材の編集と整理→④ニュースの提供、という一連の過程を通じて受け手に届けられます。しかし、特に、②と③の段階で、記者や報道機関の事情によって、素材にいろいろの味付けがなされます。このため、受け手によっては、「フェイクニュース」とか「偏っている」とか、さらには「フェアではない」と言うように、受け手の価値観も交わって、いろいろと認識されます。そこで、このクラスでは、取材して整理して、それを伝えるというメディアの立場を経験することを通して、なぜメディアは、多義的に認識されるのか、報道する側の立場から理解しようと、メンバーが「電子新聞を作成」してこれを実証することを試みます。作成の方法などは、授業を通じてしっかり学習できますので、心配は不要です。しっかり学んで Only One の「電子新聞」を作ってみよう！！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広島市
村山ゼミ	<p>【テーマ：島根県西部石見地方（特に浜田市）への観光客誘致のための観光振興施策を考える】<目的>本演習では、石見地方（特に浜田市）の観光資源に焦点を当て、現状の観光振興施策について調査・分析し、観光振興施策に関する現状の課題を抽出する。その上で、県外及び海外からの観光客を石見地方へ誘致するための新たな観光振興施策を考え、提案することを目的とする。<背景>島根県への観光客数は中国地方の他県と比べてどうだろうか？島根県は、同じ中国地方に属する広島県・岡山県に比べて観光客数が少なく、また同じ山陰地方に属する鳥取県よりも観光客の数は少ない状況である。今後の島根県の経済発展を考える上でも観光振興事業や観光関連事業による地域活性化は重要な課題であろう。島根県の東部には、松江城、出雲大社、宍道湖などの主要な観光地があり、またアクセス面では米子空港（鳥取県）や出雲空港などの航空路線が整備されているのに対して、島根県西部には石見銀山や津和野などの観光地があるものの交通アクセス（特に航空路線）が十分に整備されていないため、島根県西部の観光地への観光客数は東部に比べて非常に少ないのが現状である。しかしながら、島根県西部の石見地方には、まだまだ全国的には知られていない魅力ある観光資源があり、特に伝統芸能の石見神楽は全国から観光客を誘致することができる高いポテンシャルを十分に有していると思われる。そこで、本演習では魅力ある島根県西部への観光客誘致のための新たな施策を考えることにする。 【到達目標】 ・フィールド調査にあたって事前に必要な資料を収集し、的確にまとめることができる。 ・フィールドの現状を調査し、フィールド固有の課題を理解することができる。 ・グループ内で協同して学習に取り組み、目標達成に向け自発的に行動することができる。 ・わかりやすい発表資料を作成し、口頭で説明できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・西部県民センター ・浜田市観光協会

山本ゼミ	<p>本セミナーのテーマは、「地域社会における世界宗教の役割：過去・現在・未来」である。一般的に「世界宗教」と呼ばれているのは、キリスト教、仏教、イスラム教、ヒンドゥー教、ユダヤ教、儒教、道教、神道、ゾロアスター教、ジャイナ教、シク教などの主要宗教である（世界宗教というカテゴリーそのものや宗教の区分に対する批判もあるが、ここではその点に立ち入らない）。宗教には普遍性への指向が見られる一方で、同時に人々の個人的な精神生活、社会生活とも密接に関わっている。本セミナーでは世界宗教の施設や関係者を訪ねて調査し、これまで地域社会で宗教が果たしてきた役割、宗教の現状と課題、将来の展望について考察する。訪問先は島根県内にある世界宗教（キリスト教、仏教、神道）に関連する施設を予定している。可能であれば、広島県にあるイスラム教関連団体への訪問も行う。【到達目標】・必要な資料を集め、読み込み、的確に整理することができる。・集めた情報に基づいて、適切な問いを設定できる。・問題関心に基づいて調査計画を立て、それに沿って調査を実行できる。・調査した内容を簡潔にまとめ、論理的に説明できる。・他者と共同で課題を達成するため、自分の役割に責任を持ち、最後まで全うすることができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・浜田キリスト教会（浜田市朝日町） ・カトリック浜田教会（浜田市殿町） ・広島イスラーム文化センター（東広島市） ・光西寺（浜田市原町） ・龍泉寺（浜田市田町）
李曉東ゼミ	<p>テーマ：美又地区でインバウンド（外国人訪日旅行）を考える</p> <p>概要：ここ10年で、日本を訪れる外国人観光客数は累計2000万に以上増えた。この流れはけっして東京や、京都、大阪などの大都市だけに関係する話ではない。実は、某大手旅行予約サービスの統計によると、予約人泊数からして、昨年の外国人観光客数の伸び率が最も高いのは島根県だった。しかし、観光客は主として県東部の松江や、出雲、または、石見銀山に集中しており、インバウンドの風はまだ西に届いていないようである。本ゼミでは、いかに国際的な視野をもって地域の活性化に貢献するか、という視点から、あえて県西部の過疎地帯である美又地区でインバウンドを考えたい。この地域に多くの人々にきていただくことによって、地域を活気づけると同時に、地域の振興につなげる可能性と方法を模索する。とくに、美又の泉質の高い温泉や伝統文化などの地域資源を活かして、誘致の方法と戦略を練りつつ、これまで毎年数十人しか訪れてこない外国人観光客をいかに増やしていくかについてみんなで考えたい。ゼミでは、インバウンドに従事した経験者や、地域の自然、歴史、文化資源の紹介、などのレクチャーを受けた上、現地で実際に歩き回り、住民や、行政の方々に対する聞き取り調査などを通して、様々な地域資源について学習して、インバウンド戦略について考えていく。 </p> <p>達成目標：問題を発見し、分析して解決策を考え、提案することができること。グループ内で協力し合って調査、議論に取り組み、目標を達成することができること。明確な問題意識をもって、課題をわかりやすく論理的に説明することができること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美又地区
渡部ゼミ	<p>このセミナーのフィールドは津和野町です。津和野町は島根県の西部、山口県との県境に位置する山間の小さな都市ですが、古い町並みを残す「小京都」として知られ、県内有数の観光地となっています。このセミナーの目標は、津和野町における歴史を活かしたまちづくりの取り組みを調査し、課題を発見し、解決策を提案することです。津和野町は交通の便が必ずしもよくなく、観光客の減少や過疎化などさまざまな課題を抱えています。しかし2015年、津和野町は文化庁から日本遺産に指定されました。町はこれを好機に、歴史的文化財を活用した観光振興にこれまで以上に力を入れようとしています。このセミナーでは、3回の現地調査を行い、現場の観察と、まちづくりに携わっている人びとへの聞き取り調査を通じて観光振興のための真の課題はどこにあるかを考え、津和</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・津和野町

	<p>野町の町づくりに役立つ提言を考えてもらいます。今年は津和野に根付く煎茶文化に注目し、その文化的伝統を観光産業に生かす方策を考え、提案していただきます。江戸時代から津和野の人々は、家庭のなかで、あるいは寄り合いで、煎茶を楽しんできました。それは生活の中に根付いた習慣として定着していました。いわば煎茶文化は無意識の文化として受け継がれていたのです。近年になって、観光客に煎茶を振る舞う活動が始められました。これは評判を呼び、特に外国人観光客が煎茶体験を求めて津和野を訪れるという現象が見られるようになってきました。そこで、津和野町は煎茶文化を前面に出した観光活動に力を入れようとしています。そこで町は皆さんに若者らしい斬新なアイデアを提案して欲しいと要望しています。煎茶文化を取り入れた観光施策、またはより具体的には新たな施設とその活動内容を考えて、提案していただきます。教室での授業では、津和野町の歴史を学び、文化財を活用した観光とはどのようなものか、日本遺産とはどのようなものかを学び、また市民によるまちづくりのモデルケースを検討し、同時にフィールド調査の初歩を身につけてもらいます。さらに、グループ活動の方法を実践的に学んでもらい、仲間とともに学ぶ姿勢を身につけていただきます。</p> <p>【達成目標】グループ内で協同して学習に取り組み、目標を達成することができること。わかりやすいポスターを作成し、口頭で説明ができること。フィールド固有の課題を理解し、自分の言葉で説明できること。現状を調査・分析し、目的や課題を明らかにすること。</p>	
--	---	--

(クラスは五十音順)

(3) 浜田市と邑南町との「食」を通じた観光・文化交流協議会と島根県立大学の共同研究成果報告会 (浜田キャンパスのみ) (平成 31 年 2 月 19 日開催)

平成 31 年 2 月 19 日 (火) に浜田キャンパスを会場にして開催された、平成 30 年度 K E N D A I 縁結びフォーラムの中のプログラムとして、浜田市と邑南町との「食」を通じた観光・文化交流協議会と島根県立大学の共同研究成果報告会がおこなわれました。

当日の会場には、市民の皆様や行政関係者など、多数のご参加がありました。

なお、研究テーマは以下のとおりです。

《研究テーマ》

○特色ある浜田と邑南の食の提供：両市町飲食店の現状と今後の展望に関する

ヒアリング調査

島根県立大学 田中恭子 准教授 (浜田キャンパス)



3) 地域から／地域への応援・情報発信

(1) 公開講座

浜田キャンパスでは、地域に開かれた大学として地域の方々の知的好奇心に応えるため、毎年度公開講座を開催しています。

表：平成 30 年度公開講座 受講者数一覧

No.	テーマ カテゴリ	講師	所属	講座名	日時	受講者数	平均
1	学校では 教えてくれない 〇〇の世界	佐藤 誠	神戸税関 浜田税関支署長	「税関」その役割 ～安全・安心な社会を目指して～	5月9日	46	30
2		河部 眞弓	石州大研究室 主宰	柴犬のルーツ「幻の石州犬」を追って	5月16日	32	
3		玉置 悦子	島根県立大学 RA (研究助手)	食品安全を考える	10月17日	27	
4		陳 幼竹	島根県立大学北東アジア地域研 究センター 非常勤研究員	浜田市における身の回りの有毒植物について	11月21日	18	
5		伊藤 康丈	イワミノチカラ 代表	地域遊びイベント「いわみん」による地域 ネットワークの構築と効果	12月5日	26	
6	浜田キャンパス 国際ターミナル ～優先搭乗のご案内～	ナタリア・ボルホドーエワ	島根県国際交流員	ロシアの魅力	6月6日	16	25
7		ニュンゲンティアー ゴク	浜田市国際交流員	地域の違いを知り、ベトナムへ旅行しよう！	5月23日	32	
8		于 清	浜田市国際交流員	知っているようで知らない～中国の少数民族 と民族自治区～	10月17日	23	
9		ジョアンナ ティクソン	浜田市国際交流員	私のふるさととはこんなところ	12月19日	27	
10	聴いて得する！ 大学教員の “ちょっとココだけ” の話	張 忠任	本学浜田キャンパス教員	一千年前の海上シルクロードについて -渤海国と日本の交流を中心に-	5月23日	15	25
11		福原 裕二	本学浜田キャンパス教員	朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の現在	5月30日	20	
12		藤原 眞砂	本学浜田キャンパス教員	住宅地図を用いて浜田の商店街の将来を考える	6月6日	30	
13		瓜生 忠久	本学浜田キャンパス教員	映画・映像文化と政治・社会～「しまね映画祭」上映作品に観る映画作家の自己表現～	6月13日	19	
14		八田 典子	本学浜田キャンパス教員	おもしろ建築「江津市庁舎」の魅力に迫る	7月4日	24	
15		松尾 哲也	本学浜田キャンパス教員	哲学カフェしまね「正義」と何か	7月11日	18	
16		久保田 典男	本学浜田キャンパス教員	中小企業における女性活躍	10月3日	18	
17		木村 秀史	本学浜田キャンパス教員	ゼロかわかるアニメ経済入門	10月24日	77	
18		江口 真理子	本学浜田キャンパス教員	フォニックス英語学習法	11月7日	20	
19		李 憲	本学浜田キャンパス教員	「親子」の法的意味について考えてみよう	11月28日	16	
20		姜 英淑	本学浜田キャンパス教員	外国語学習と音声学	12月12日	13	

受講者数 計517人（1講座あたり26名）

平成 30 年度は 20 回の講座が開講され、延べ 517 名の受講者を得ましたが、前年度に比べて受講者数は減少しています（平成 29 年度：開講回数 25 回、延べ受講者数 781 人）。

最も受講者が多かった講座は、木村秀史（本学浜田キャンパス教員）による「ゼロからわかるアニメ経済入門」で、77 名の参加がありました。次いで、佐藤誠氏（神戸税関 浜田税関支署長）による『「税関」その役割 ～安全・安心な社会を目指して～』に、46 名の参加が

ありました。

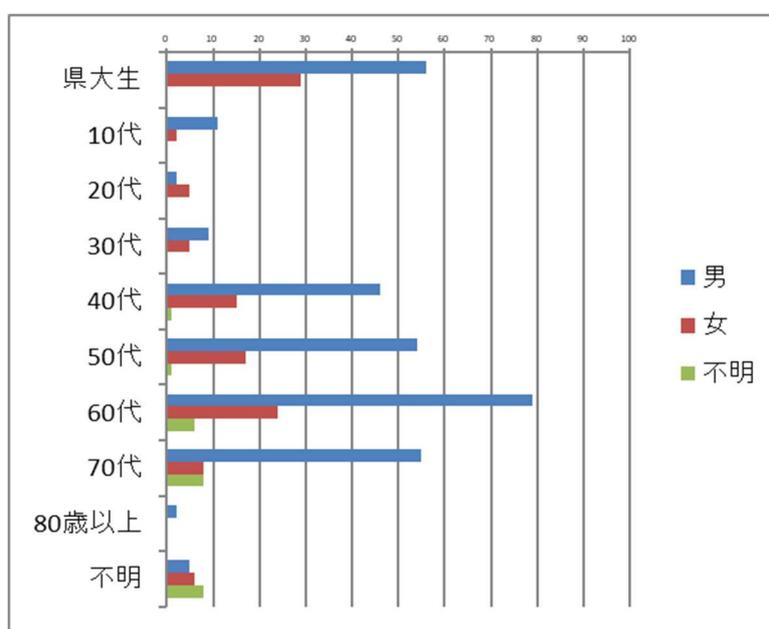
受講者から回答いただいているアンケートの結果概要を、以下のとおり報告します。

表：アンケートに回答した段階での参加回数

1回目	178名
2回目	56名
3回目	32名
4回目	17名
5回以上	82名
不明	89名
合計	454名

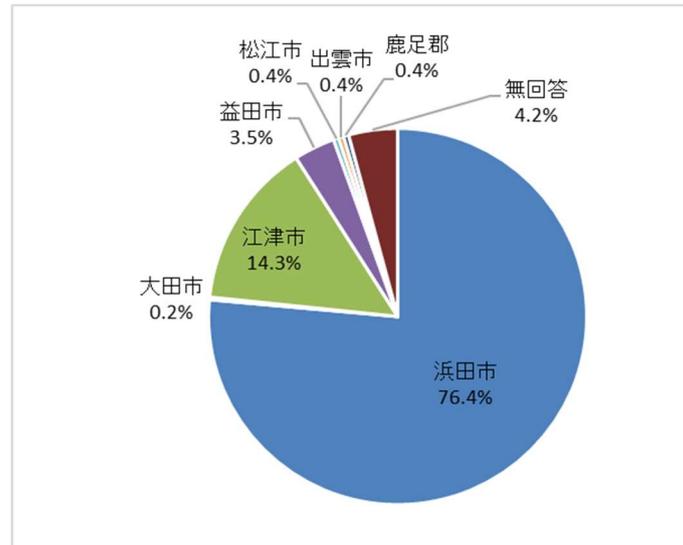
公開講座においても、リピーターの獲得は重要です。上表は、複数回参加している受講者が比較的多いことを示しており、リピーターの確保ができていることがわかります。

図：回答者の年齢と性別（単位：人）



回答者（受講者）の年齢層は本学学生を除き、概ね中高齢者に偏っています。若年層受講の掘り起しが必要であると考えています。

図：回答者の居住地（N=705）



回答者（受講者）のほとんどは浜田市内に在住する方々です。近年、隣接する江津市及び益田市在住者の参加が増加傾向にありますが、それでも7割以上が浜田市の在住者である事から、浜田市内からより多くの参加者を探る必要があると考えています。

表：公開講座会員登録の有無

有	206 名
無	217 名
不明	31 名

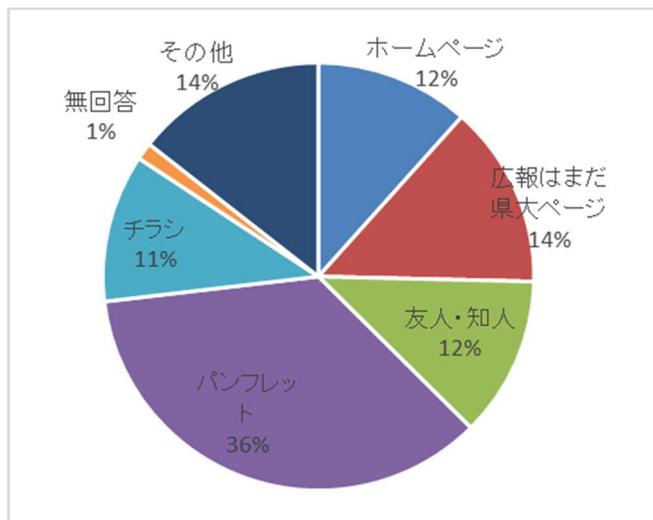
公開講座参加者の内、公開講座会員は45%となっています。なお、昨年度、公開講座会員の新規登録者は14人で会員総数は、220人になりました。

表：公開講座に出席する理由

① 知識を深めたいから	266 名
② このテーマについて勉強をしているから	36 名
③ 知識を獲得し、仕事や地域活動に活かしたい	58 名
④ 生涯学習として関心があったから	67 名
⑤ 講師に関心があったから	77 名
⑥ 大学主催の行事だから	38 名
⑦ 交友関係を広げたいから	40 名
⑧ 公開講座に出席することが楽しいから	47 名
⑨ その他	42 名

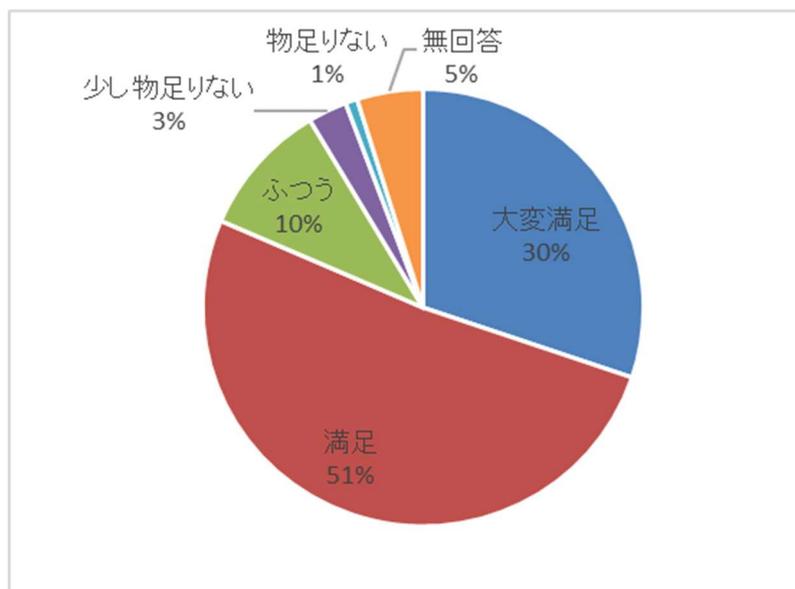
公開講座への参加理由は、「知識を深めたいから」という項目が最も高く、「講師に関心があったから」という項目が続きました。

図：公開講座を知った経緯 (N=829)



公開講座を知った経緯として、「広報はまだ」又は「パンフレット」と回答された方が半数に上っています。ホームページ等の電子媒体は低い割合（12%）となっており、受講者の多くが中高年層であることが、一つの要因であると考えられます。

図：公開講座の満足度 (N=705)



公開講座に参加した方の満足度については、「大変満足」及び「満足」という回答が81%に上り、講座の内容が、受講者の皆様から概ね好評を得ることができた、と考えております。

(2) 学生研究・活動発表

平成 31 年 2 月 19 日（火）に浜田キャンパスを会場にして開催された、平成 30 年度 K E N D A I 縁結びフォーラムの中のプログラムとして、学生研究・活動発表を行いました。

本発表会を通じて、学内での学生の研究成果や地域貢献活動を地域の方々へ報告する機会を設け、より広く地域市民の皆さまに知っていただくと同時に、地域の皆さまからの質問やアドバイスを受けることによる学生の教育への効果も期待しています。

テーマ：

- 1) 海士町ブータン青年研修における国際交流と地域づくりの融合を目指す学生参画型実践プロジェクト

島根県立大学 佐藤ゼミ・豊田ゼミ（浜田キャンパス）

- 2) 学生による古民家を活用した地域活性型海の家

海の家 Re:rie（レリエ）（浜田キャンパス）



▲佐藤ゼミ・豊田ゼミ



▲海の家 Re:rie（レリエ）

(3) 大学生による小中学校学習支援事業の取り組み

大学生による小中学校学習支援事業は、浜田市内の小中学校に大学生（学習支援員）を派遣し、週 1～2 回程度、放課後の補習時間に学習指導を実施する事業となっている。この事業は島根県立大学と浜田市との連携協力協定（平成 19 年 5 月 18 日締結）に基づき、学力向上を目的として平成 19 年度から中学生を対象として開始し、平成 24 年度からは小学生も対象に含め、実施している。平成 30 年度は小学校 6 校、中学校 4 校の計 10 校が参加し、延べ 368 名の学生が従事した。

平成 30 年度派遣先	
浜田市立第三中学校	浜田市立松原小学校
浜田市立第四中学校	浜田市立石見小学校
浜田市立浜田東中学校	浜田市立長浜小学校
浜田市立金城中学校	浜田市立周布小学
	浜田市立今福小学校
	浜田市立旭小学校



(4) 益田市立匹見中学校との交流事業

<実施日> 平成 30 年 6 月 11 日 (月)

<場 所> 益田市立匹見中学校 (校庭、音楽室、多目的室)

<内 容> 部活動交流

15:00~15:30 交流事業

15:30~18:00 陸上部、総合文化部との部活動交流&茶話会

<参加者> 匹見中学校全校生徒 14 名、県立大学生 5 名



(ひきみ田舎体験推進協議会 石橋様からの感想の抜粋)

- ・匹見中学生との交流も初めてとなりましたが、中学生ともすぐに打ち解けられたことには私を含め、回りにいらっしゃった先生方も驚いていらっしゃいました。
- ・中学生の趣味、関心や悩みなどを自然に引き出し、耳を傾けたり相談にのったりするなどのコミュニケーション能力を感じました。



(5) 中学生の島根県立大学訪問

○益田市立匹見中学校との交流事業

平成30年7月9日(月)、益田市立匹見中学校の2年生3名が浜田キャンパスを訪問し、本学学生と交流を行いました。

【学生発表】

本学4年生の鈴木翔太さんが中学生に伝えておきたいこと、3年生の春若美咲さんが大学生活についての話をしました。



【キャンパス見学】

学生発表の後は大学生と一緒にキャンパス内の見学を行いました。



【意見交換】

最後に中学生には珍しい階段教室を利用して中学生との意見交換をおこないました。



○浜田市立三隅中学校との交流事業

平成30年11月27日(火)、浜田市立三隅中学校の3年生36名が浜田キャンパスを訪問し、本学学生と交流を行いました。

【記念撮影】

最初に本学マスコットキャラクターのオロリンと記念撮影。三隅中学校の皆さんにも大人気でした。



【学生発表】

本学4年生の鈴木翔太さんが中学生に対してお話をしました。



【キャンパス見学】

次に施設見学を行いました。6班に分かれ、それぞれの班に大学生が入り、自由に施設内を見学しました。



(6) NEAR センター市民研究員制度

日本海をはさんで北東アジア地域に接する島根県とその周辺には、さまざまな視点からこの地域に強い興味を抱き、それぞれに知識をたくわえている方がいます。島根県立大学北東アジア地域研究センター（NEARセンター）では、日本を含む北東アジア地域の研究に強い興味を持っているキャンパス外の方々に、NEARセンターの市民研究員として共に研究していただく「NEARセンター市民研究員制度」を平成18年度に創設しました。

市民研究員はNEARセンターに所属し、研究会等への参画を通じて自らの興味関心に基づく研究活動に取り組むほか、研究テーマで意気投合した本学の大学院生と研究計画書を練り上げ、学内審査のうえ研究助成を受けて共同研究を行う等、大学院生の研究に刺激を与えていただいています。

また、NEARセンター研究員（本学教員等で構成）は、「NEARセンター・アカデミック・サロン」に登壇し、専門研究分野の最前線を市民研究員向けにわかりやすく解説する等、市民研究員制度を通じた地域への「知」の還元を心がけています。

<平成30年度における成果>

1. 研究会

市民研究員自らの企画により次の研究会を開催しました。

○第1回 NEAR センター市民研究員研究会

日時：平成30年7月14日（土）13:00～16:00

場所：島根県立大学浜田キャンパス 講義・研究棟3階 大演習室1

内容：第1部：(1) NEAR センター・アカデミック・サロン

山本健三 NEAR 研究員

「よみがえるトゥラン主義」

(2) 「大学院生と市民研究員の共同研究」審査結果発表と講評

第2部：市民研究員による研究発表

田中文也（市民研究員）

「第2回古代史の集いの成功と基調報告」

○第2回 NEAR センター市民研究員研究会

日時：平成30年12月15日（土）14:00～16:30

場所：島根県立大学浜田キャンパス 講義・研究棟1階 中講義室3

内容：(1) NEAR センター・アカデミック・サロン

李正吉 人間文化研究機構総合人間文化研究推進センター研究員兼
NEAR センター研究員

「なぜ韓国の歴代大統領の政治的悲劇は絶えないのか」

(2) 市民研究員による研究報告

小林久夫（市民研究員）

「ハラルフードをめぐる諸考察—イスラーム法の観点から」

(3) 共同研究経過報告

・宋佳（大学院生）、田中文也（市民研究員）、岡崎秀紀（市民
研究員）

「広域観光連携による観光客誘致に関する研究—山陰地方の歴史文化を
活用した中国からの誘客を事例として」

・李強（大学院生）、滑純雄（市民研究員）

「韓国における「進歩」と「保守」の対北政策：盧武鉉政権の「平和繁
栄」政策と李明博政権の「非核・開放・3000」構想を事例に」



▲研究会の様子

2. 研究発表等

年度内に3回開催する市民研究員全体会の一環として毎年度行っている「市民研究員研究発表会」及び「市民研究員と大学院生の共同研究成果報告会」を次のとおり開催しました。

○平成30年度 市民研究員研究発表会

日時：平成31年1月26日(土) 13:00～15:30

場所：島根県立大学浜田キャンパス 交流センター1階 研修室

内容：市民研究員による研究報告・発表

- (1) 田中文也（市民研究員）「古代史研究約10年間の歩み」
- (2) 岡崎秀紀（市民研究員）「八雲と登山 プレー山・富士山・嵩山」
- (3) 若林一弘（市民研究員）「日本語教育課外活動としてのコンテスト」

○平成30年度 市民研究員と大学院生の共同研究成果報告会

日時：平成31年3月2日(土) 13:00～16:15

場所：島根県立大学浜田キャンパス 講義・研究棟1階 中講義室3

内容：市民研究員と大学院生の共同研究成果報告

- (1) 宋佳（大学院生）、田中文也（市民研究員）、岡崎秀紀（市民研究員）
「広域観光連携による観光客誘致に関する研究―山陰地方の歴史文化を活用した中国からの誘客を事例として」
- (2) 李強（大学院生）、滑純雄（市民研究員）
「韓国における「進歩」と「保守」の対北政策：盧武鉉政権の「平和繁栄」政策と李明博政権の「非核・開放・3000」構想を事例に」
- (3) 金炫兌（大学院生）、豊島秀明（市民研究員）
「在日コリアンの「国籍選択」という課題の多様性：地域比較と世代間の視点」



▲全体会の様子

(7) 講演会講師等・審査会委員等

◇講演会講師等

教員名	依頼元	名称	期間
清原 正義	浜田ロータリークラブ	浜田ロータリークラブでのスピーチ	H30. 5. 17
清原 正義	ふるさと定住財団	H30 年度第 1 回「いわみぶらっと 6 時からセミナー」講演・交流会	H30. 7. 25
井上 厚史	島根県社会福祉協議会	くにびき学園西部校社会文化科講師	H30. 6. 26
井上 治	島根県社会福祉協議会	くにびき学園西部校社会文化科講師	H30. 6. 12
瓜生 忠久	島根県社会福祉協議会	くにびき学園西部校社会文化科講師	H30. 7. 20/H30. 9. 4
八田 典子	島根県社会福祉協議会	くにびき学園西部校社会文化科講師	H30. 10. 2
久保田 典男	法政大学	プロジェクト兼任講師（論文指導）	H30. 4. 1～H31. 3. 31
久保田 典男	日本海信用金庫	「せがれ塾」第 8 期生セミナー講師	H30. 6. 22
久保田 典男	日本労働組合総連合会	行政、企業、労働者、住民などを対象とした参加型地域フォーラムの講師	H30. 9. 15
張 忠任	国立病院機構浜田医療センター附属看護学校	非常勤講師「情報科学演習」	H30. 6. 1～H30. 7. 31
陳 仲奇	国立病院機構浜田医療センター附属看護学校	非常勤講師「倫理学」	H30. 5. 1～H30. 6. 30
福原 裕二	広島大学	客員教授教養科目「戦争と平和に関する学際的考察」	H30. 6. 8～H30. 8. 8
藤原 真砂	島根県立石見高等看護学院	非常勤講師「社会学」	H30. 9. 7～H30. 10. 12
藤原 真砂	放送大学	非常勤講師（面接授業担当）「少子高齢化社会と人口移動」	H30. 10. 1～H31. 3. 31
別枝 行夫	島根県自治研修所	市町村若手職員の地域づくりセミナーの講師	H30. 6. 25～H30. 6. 26
別枝 行夫	島根県立出雲高等学校	セミナー講師	H31. 2. 14
金野 和弘	公立大学法人大阪市立大学	非常勤講師「データマイニング」	H30. 4. 1～H30. 9. 30
金野 和弘	日本海信用金庫	「せがれ塾」第 8 期生セミナー講師	H30. 10. 12
西藤 真一	関西外国語大学中宮キャンパス	非常勤講師「エアポート・ビジネス」	H30. 4. 1～H31. 3. 20
西藤 真一	須賀川市（福島県）	全国民間空港関係市町村協議会平成 30 年度「空	H30. 10. 18～H30. 10. 19

		港フォーラム in 須賀川」	
西藤 真一	日本海信用金庫	「せがれ塾」第8期生セミナー講師	H31. 2. 13
西藤 真一	広島県	広島空港コンセッションセミナーへの参画	H31. 3. 18
田中 恭子	はまだ産業振興機構	市民を対象として開催するシンポジウムのパネリスト	H30. 5. 12
田中 恭子	日本海信用金庫	「せがれ塾」第8期生セミナー講師	H30. 11. 16
豊田 知世	川本町	公民館での人権講座講師	H30. 11. 28
豊田 知世	日本海信用金庫	「せがれ塾」第8期生セミナー講師	H30. 12. 18
豊田 知世	浜田地区保護司会浜田分 区	更生保護団体3団体会員を対象として開催する 合同研修会の講師	H31. 2. 2
濱田 泰弘	島根県立出雲高等学校	セミナー講師	H31. 2. 14
木村 秀史	日本海信用金庫	「せがれ塾」第8期生セミナー講師	H30. 7. 13
ヘネベリー・スティーヴン	国立病院機構浜田医療セ ンター附属看護学校	非常勤講師「英会話」	H30. 4. 1～H31. 3. 31
ヘネベリー・スティーヴン	島根県立石見高等看護学 院	非常勤講師「看護英語」	H30. 6. 26～H30. 11. 20
松尾 哲也	北九州市立大学	非常勤講師「現代政治論 I」	H30 夏季
マニング・クレイグ	浜田高校	English Camp 指導講師	H30. 7. 24
齋藤 暁子	神戸大学	非常勤講師「家族論」	H30. 8. 1～H30. 8. 31
大室メリッサハントリー	江津市	江津市中学校英語ワークショップの講師	H30. 12. 1
高 一	早稲田大学	朝鮮半島研究β	H30. 8. 6～H30. 8. 10
孟 達来	和光大学	非常勤講師「現代社会学」	H30. 4. 1～H31. 3. 31

◇審査会委員等

氏 名	発 令 元	名 称	期 間
清原 正義	吉林省翻訳協会	吉林省翻訳協会海外理事	H30. 4. 1～R5. 3. 31
清原 正義	大田市	難波利三・ふるさと文芸賞審査会 非常勤審査委 員	H30. 11. 2
清原 正義	大阪教育大学	大阪教育大学への提言委員会委員	H30. 12. 1～R2. 11. 30
赤坂 一念	島根県	スーパーグローバルハイスクール 運営指導委員	H28. 10. 11～H31. 3. 31
赤坂 一念	江津市都市計画課	江津市都市計画審議会非常勤委員	H29. 7. 18～H31. 3. 31

赤坂 一念	島根県益田翔陽高等学校	発表会の審査委員ほか	H31. 2. 7
犬塚 優司	島根県	第 4 回島根県大学中国語技能コンテスト審査委員長	H30. 12. 16
岩本 浩史	中国地方整備局	中国地方整備局道路協力団体指定委員会	H28. 12. 27～R1. 12. 26
岩本 浩史	美郷町	美郷町情報情報公開審査委員会（会長）	H29. 2. 1～H31. 1. 31
岩本 浩史	浜田市総務課法令文書係	浜田市情報公開審査会 非常勤委員	H29. 10. 1～R1. 9. 30
岩本 浩史	大田市役所総務課法令係	大田市情報公開審査委員、個人情報公開審査委員、行政不服審査会委員	H29. 10. 30～R2. 10. 29
岩本 浩史	美郷町	美郷町情報公開審査委員（会長）、美郷町個人情報保護審査委員（会長）、美郷町個人情報保護審議会委員（会長）	H31. 2. 1～R3. 1. 31
江口 真理子	島根県高等学校英語教育研究会	高徳生英語スピーチコンテストにおける審査委員長	H30. 9. 12
江口 真理子	島根県中学校英語教育研究会	島根県中学校英語弁論大会審査員	H30. 9. 28
沖村 理史	島根県	島根県環境審議会委員	H28. 7. 1～R2. 6. 30
沖村 理史	公益財団法人しまね自然と環境財団	しまね環境アドバイザー	H29. 4. 24～H31. 3. 31
沖村 理史	浜田市	浜田市環境審議会委員	H30. 4. 1～R2. 3. 31
沖村 理史	島根県	島根県消費生活審議会委員	H30. 7. 1～R2. 6. 30
沖村 理史	浜田市	浜田市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定委員会委員	H30. 8. 28～H31. 3. 31
川中 淳子	島根県教育委員会	島根県総合教育審議会委員	H30. 8. 9～R2. 6. 30
久保田 典男	島根県	島根県雇を表彰委員会	委託日～R2. 3. 31
久保田 典男	特定非営利活動法人石見銀山協働会議	石見銀山基金事業公開審査会、報告会等	H28. 4. 1～H31. 3. 31
久保田 典男	島根県	島根県芸術文化センター指定管理業務評価委員	H28. 6. 24～R2. 5. 31
久保田 典男	公益財団法人ふるさと島根定住財団	公益財団法人ふるさと島根定住財団理事（非常勤）	H29. 6. 1～R1. 6. 30
久保田 典男	島根県商工労働部産業振興課	しまね地域産業活性化協議会委員	H29. 6. 15～R2. 3. 31
久保田 典男	中国地方整備局港湾空港部	中国地方国際物流戦略チームの有識者委員会	H29. 8. 1～H31. 3. 31
久保田 典男	大田市	大田市総合計画審議会委員	H30. 1. 12～H30. 4. 30

久保田 典男	大田市	大田市仁摩地区道の駅整備推進委員会	H30. 4～R2. 3
久保田 典男	はまだ産業振興機構	島根県立大学浜田を元気にするアイデアコンテスト「MAKE DREAM2018」コーディネーター等	H30. 5. 7～H31. 3. 31
久保田 典男	はまだ産業振興機構（浜田市産業振興課）	市民を対象として開催するシンポジウムのコーディネーター	H30. 5. 12
久保田 典男	中国地域創造研究センター	調査事業推進委員会委員	H30. 6. 4
久保田 典男	浜田市	浜田市指定管理者選定委員会	H30. 7. 1～R2. 6. 30
久保田 典男	江津市役所	江津市まち・ひと・しごと創生総合政策審議会委員	H30. 7. 1～R2. 6. 30
久保田 典男	江津市	江津市風の国の民間譲渡に係る公募型プロポーザル選定委員会委員（非常勤）	H30. 11. 10～H31. 3. 31
久保田 典男	島根県環境生活部	応援企業等交流会に係るパネルディスカッションのコーディネーター	H31. 1. 28
ケイン・エレナ	島根県立少年自然の家	島根県立少年自然の家 運営委員会委員	H30. 4. 1～H31. 3. 31
八田 典子	浜田市	浜田市景観審議会委員	H29. 4. 1～H31. 3. 31
八田 典子	江津市都市計画課	江津市景観審議会 景観形成に関する事項について審議を行う非常勤の委員	H30. 2. 20～R2. 2. 20
八田 典子	島根県芸術文化センター	島根県芸術文化センター協議会委員 センター運営に関する審議を行う非常勤の審議委員	H30. 3. 1～R2. 2. 29
八田 典子	島根県	しまね景観賞審査委員	H30. 4. 1～H31. 3. 31
八田 典子	島根県教育庁文化財課	島根県立古代出雲歴史博物館競技会委員（非常勤）	H30. 7. 21～R2. 7. 20
林 秀司	島根県農林水産部農業経営課	島根県中山間地域等振興対策検討会	H28. 12. 19～H30. 12. 18
林 秀司	島根県農林水産部農業経営課	島根県中山間地域等振興対策検討会	H31. 1. 8～R3. 1. 7
林 秀司	島根県土木部河川課	島根県河川整備計画検討委員会委員	H30. 4. 1～R2. 3. 31
林 秀司	浜田市	浜田市総合振興計画審議委員	H30. 7. 1～R2. 3. 31
林 秀司	益田市	益田市景観審議会委員	～H31. 3. 31
林 秀司	国土交通省中国地方整備局	「斐伊川水系河川整備アドバイザー会議」委員	H31. 3. 5～H31. 3. 31
藤原 眞砂	江津市	江津市立地適正化計画策定検討委員会非常勤委員	H29. 2. 28～H31. 2. 28
藤原 眞砂	大田市都市計画課	大田市空家等対策協議会 空家等に関する協議を行う非常勤委員	H30. 5. 1～R2. 3. 31

藤原 眞砂	島根県商工労働部中小企業課	島根県中小企業・小規模企業振興推進協議会委員	H30. 6. 4～H31. 3. 31
藤原 眞砂	浜田市	第4次浜田市都市計画審議会委員	H30. 9. 1～R4. 8. 31
藤原 眞砂	島根県土木部都市計画課	県立都市公園指定管理業務評価委員	H30. 10. 10～H30. 10. 11
藤原 眞砂	浜田市水産振興課	浜田漁港周辺エリア活性化検討委員会委員	H31. 1. 10～R2. 3. 31
藤原 眞砂	国土交通省中国地方整備局	中国地方整備局事業評価監視委員会	就任日～R2. 3. 31
別枝 行夫	浜田市	ヨシタケコーヒー認証審査委員会副委員長	H29. 4. 1～H31. 3. 31
別枝 行夫	成蹊中学・高等学校	成蹊中学・高等学校の学校評価委員会委員	H30. 4. 1～H31. 3. 31
光延 忠彦	浜田市	浜田市行財政改革推進委員会	H28. 9. 29～H30. 9. 28
光延 忠彦	浜田市	浜田市行財政改革推進委員会	H31. 3. 1～R3. 2. 28
光延 忠彦	全国健康保険協会島根支部	全国健康保険協会島根支部評議会評議員	H28. 11. 1～H30. 10. 31
光延 忠彦	益田市	益田市行財政改革審議会 行政経営に関する審議を行う非常勤の審議委員	H30. 3. 1～R2. 2. 28
光延 忠彦	全国健康保険協会島根支部	全国健康保険協会島根支部評議会評議員（非常勤）	H30. 11. 1～R2. 10. 31
村山 誠	島根県立出雲商業高校	高校生が発表する研究発表会の審査	H30. 8. 21
村山 誠	益田市	益田市水道料金審議会委員	H31. 1. 1～R1. 7. 31
岡本 寛	公益財団法人しまね女性センター	公益財団法人しまね女性センターの運営に関する審議を行う非常勤の評議員	H29. 7. 1～R3. 6. 30
岡本 寛	浜田市総務課法令文書係	浜田市情報公開審査会 非常勤委員	H29. 10. 1～R1. 9. 30
岡本 寛	益田市総務部総務管財課	益田市行政不服審査会委員	H30. 4. 1～R2. 3. 31
岡本 寛	益田市総務部総務管財課	益田市行政情報不服審査会委員	H30. 5. 14～R2. 5. 13
岡本 寛	津和野	行政不服審査会委員	H30. 9. 20～H31. 3. 29
木村 秀史	島根県立出雲高等学校	2年生普通科生徒が行う「課題研究」の指導	H30. 7. 12～H31. 3. 31
金野 和弘	鳥取県	鳥取県補助金等審査会（平成30年度鳥取・島根広域連携協働事業審査委員会）委員	H30 年度
金野 和弘	浜田市	浜田市まちづくり総合交付金制度改正検討委員会	H30. 8. 10～H31. 3. 31
西藤 真一	浜田市社会福祉協議会	浜田市社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員会委員	H29. 4. 1～H31. 3. 31
西藤 真一	浜田市地域公共交通活性化協議会	浜田市地域公共交通活性化協議会委員	H29. 4. 1～H31. 3. 31

西藤 真一	川本町	弓市地区魅力化検討委員、弓市地区の魅力化に向けた取り組みについて検討を行う非常勤の委員	H30. 1. 25～H31. 3. 31
西藤 真一	島根県浜田県土木整備事務所	H30 年度浜田・江津地区地域づくり調整会議のオブザーバー	H30. 10. 5～H31. 3. 31
西藤 真一	福島県	福島空港に関する有識者会議委員	H30. 10. 26～R2. 3. 31
鈴木 遵也	社会福祉法人島根県社会福祉協議会	島根県高齢者大学校実務検討委員会（非常勤）	H30. 12. 1～R1. 8. 31
田中 恭子	島根県土木部用地対策課	島根県事業認定審議会 非常勤審議委員	H29. 9. 20～R2. 9. 19
田中 恭子	島根県中山間地域研究センター	島根県中山間地域研究センター運営協議会研究課題評価専門委員	H29. 10. 19～H31. 3. 31
田中 恭子	島根県	島根県職業能力開発審議会委員	H29. 11. 1～R1. 10. 31
田中 恭子	島根県	島根県雇用対策推進会議委員	H29. 11. 1～R1. 10. 31
寺田 哲志	島根県	島根県公共事業再評価委員	H29. 7. 1～H30. 10. 15
豊田 知世	浜田市	浜田市行財政改革推進委員会委員	H29. 3. 31～H31. 2. 5
豊田 知世	浜田市	浜田市行財政改革推進委員会委員	H31. 3. 1～R3. 2. 28
豊田 知世	島根県	島根県公共事業再評価委員会委員	H29. 4. 1～H31. 3. 31
豊田 知世	公益財団法人しまね自然と環境財団	しまね環境アドバイザー	H29. 4. 24～H31. 3. 31
豊田 知世	島根県税務課	島根県固定資産評価審議会委員	H29. 12. 13～H30. 12. 14
豊田 知世	浜田地区広域行政組合	エコクリーンセンター長寿命化等検討委員会委員	H30. 2. 1～H30. 12. 31
豊田 知世	島根県都市計画課	島根県都市計画審議会委員	H30. 2. 1～R2. 1. 31
豊田 知世	浜田市地球温暖化対策地域協議会	浜田市地球温暖化対策地域協議会委員	H30. 4. 1～R2. 3. 31
豊田 知世	浜田市	浜田市ふるさと体験村施設経営検証委員会	H30. 4. 19～H30. 6. 30
豊田 知世	日本学術会議事務局	環境学委員会環境思想・環境教育分科会環境教育の思想的アプローチ検討小委員会委員	H30. 6. 28～R2. 9. 30
豊田 知世	大田市	大田市公共施設適正化推進委員会非常勤委員	H30. 7. 31～R2. 3. 31
豊田 知世	はまだ産業振興機構	島根県立大学浜田を元気にするアイデアコンテスト「MAKE DREAM2018」最終審査員等	H30. 12. 14
豊田 知世	島根県	島根県固定資産評価審議会委員（非常勤）	H30. 12. 15～R2. 12. 14
豊田 知世	島根県中山間地域研究センター	島根県中山間地域研究センター運営協議会委員	委嘱日～H31. 3. 31

松田 善臣	浜田市地域公共交通活性化協議会	浜田市地域公共交通活性化協議会委員	H29. 4. 1～H31. 3. 31
松田 善臣	江津市商工観光課	江津地域公共交通会議委員	H30. 4. 1～H31. 3. 31
マニング・クレイグ	島根県中学校英語弁論大会事務局	島根県中学校英語弁論大会審査員	H30. 9. 28
李 憲	島根県環境生活総務課消費とくらしの安全室	島根県消費生活審議会委員	H29. 5. 15～R2. 7. 26
齋藤 暁子	島根県商工労働部商工政策課	島根県商工労働部指定管理業務評価委員	H29. 7. 1～R2. 3. 31
齋藤 暁子	浜田市人権童話教育啓発センター	浜田市男女共同参画推進委員会委員	H30 年度
齋藤 暁子	浜田市	浜田市子ども・子育て支援専門部会	H30. 10. 15～R2. 3. 31
齋藤 暁子	社会福祉法人浜田市社会福祉協議会	浜田市社会福祉協議会地域包括支援センター検討委員会	H31. 1. 1～H31. 3. 31
齋藤 暁子	浜田市教育委員会	浜田市学校統合計画審議会委員	委託日～R1. 5. 23
齋藤 暁子	浜田市地域福祉課	浜田市保健医療福祉協議会非常勤の審査委員	就任日～R2. 3. 31
松尾 紳次	一般財団法人島根県教職員互助会	一般財団法人島根県教職員互助会評議員	H30. 4～R3
松尾 紳次	島根県教育委員会	島根県立浜田高等学校学校評議員	H30. 5. 1～H31. 3. 31
山根多希子	はまだ産業振興機構	島根県立大学浜田を元気にするアイデアコンテスト「MAKE DREAM2018」1次審査員等	H30. 5. 7～H31. 3. 31

《出雲キャンパス》

平成 30 年度 公立大学法人島根県立大学
地域連携推進センター出雲キャンパス運営会議 名簿

(任期：平成 30. 4. 1～平成 31. 3. 31)

職 名	氏 名	備 考
教 授	吉川 洋子	<ul style="list-style-type: none"> ・看護栄養交流センター長 ・地域連携推進センター副センター長 ・地域連携推進委員会委員長
教 授	今中 美栄	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 担当：生涯学習に関すること
教 授	中山 真美	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 担当：産官学連携に関すること
准教授	落合のり子	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 担当：広報・広聴活動に関すること
講 師	阿川 啓子	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 担当：学生の地域交流・地域貢献に関すること
講 師	川瀬 淑子	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 担当：生涯学習に関すること
講 師	渡邊 克俊	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 担当：教育機関との連携に関すること
助 教	加藤さゆり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 担当：生涯学習に関すること
助 教	松本 祐香	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 担当：広報・広聴活動に関すること
管理課 主任	飯島久美子	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員
管理課 主任	福間 純弘	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員

出雲キャンパス：地域連携活動概要

看護栄養交流センター長

(地域連携推進センター副センター長) 吉川 洋子

平成 30 年度は学部再編により看護栄養学部になったことから、「看護栄養交流センター」と改称し、地域と大学の橋渡しをするセンターとして、地域のニーズに応えられる大学として歩みを進めております。地域の皆様のご協力・ご支援に深く感謝申し上げます。

センターでは、一般向け 1 部門、専門職向け 2 部門を設け、教職員全員が役割をもち事業を展開してまいりました。

一般向けの地域連携推進部では 5 つの事業を展開し、特に今年度は、健康栄養学科の教員の参加により、公開講座におきまして多彩なプログラムを提供し、延べ 783 名の参加者があり、皆さまより好評を得ました。また、サテライトキャンパスでの公開講座は 3 年目を迎え、「いずも健康市民大学」前期と後期の開催、「ブラジル人親子の健康交流会」等の開催により参加者は延べ約 456 名と、公開講座全体で 1, 239 名の方に利用していただきました。

また、学生のボランティア活動を推進し、ボランティア活動の参加者は前年比で 1.8 倍に増加し、報告件数も 1.7 倍と増加しています。ボランティアを通して社会に触れ、社会人として通用する力を育てる機会であり、今後も積極的に推進していきたいと考えています。

専門職に向けての支援であるキャリア・看護研究部におきましては、現場の看護職の実践力、教育力、研究力の向上に向けて、5 つの事業を継続して実施しました。看護職、看護教員及び実習指導者対象とした実践力や教育力を高める研修事業、看護職を対象とした研究力を高める臨床看護研究研修などを実施し、参加者から今後への活用など高い評価を得ています。

専門職向けのもう一つの部門である認定看護師養成部において、本年度から医療機関のニーズや県内の需給の状況から、緩和ケア分野を休講し、認知症看護分野をスタートさせ、21 名が 7 か月間のプログラムを受講しました。

「緩和ケア」分野 2 期生は日本看護協会の認定審査を受け、14 名中 13 名が認定看護師資格を取得し、全国的にも高い合格率となりました。

今後とも、地域に必要とされる大学をめざし、工夫していきたいと考えております。一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

1) 生涯学習

(1) 公開講座

1. 目的

本学がもっている専門的、総合的な教育・研究機能を広く社会に公開することにより、健康に関する知識・技術及び一般的教養を身につけるための学習の機会を社会人等に広く提供する。

2. 事業実施状況

表1 公開講座開催状況及び受講者数一覧

	講座名	開催状況	延べ受講者数
1	出雲キャンパス公開講座	12 講座 27 回	783 名
2	サテライトキャンパス公開講座「いずも健康市民大学」	前期 12 回	201 名
		後期 12 回	207 名
3	サテライトキャンパス公開講座「論語教室」	中止	—
4	サテライトキャンパス公開講座「健康活動の輪」つくり始めませんか?	全 5 回	10 名
5	サテライトキャンパス公開講座「ブラジル人親子の健康交流会」	全 4 回	38 名
	合 計		1,239 名

3. 広報

リーフレットを県内 102 の施設及び関係者に送付した。出雲キャンパス公開講座では 9 講座を出雲市市民活動支援課生涯学習係と、1 講座をしまね模擬患者の会、出雲保健所、倶楽部 UCD とそれぞれと共催講座とした。公開講座実施後は速やかに講座の様子をホームページに掲載した。

4. 成果

今年度は、看護栄養学部の開設に伴い、健康に加え栄養に関する講座や調理実習を開催した。また、昨年同様、島根県訪問看護ステーション協会との連携講座についても要請を受け、共同開催した。

受講者のアンケート調査では、講座は概ね高い評価を得た。また、サテライトキャンパス公開講座においても、「多様な分野の専門的な内容を継続的に学習し、健康づくり等の自主的な活動や豊かな市民生活について考える機会とする」という目的を達成していると同時

に、参加者が楽しく、いきいきと学ぶ機会になっていると評価する。

5. 課題

出雲キャンパス公開講座では客員教授による講座、島根県訪問看護ステーション協会と共同開催した講座の参加者は90名以上であり盛会であった。出雲キャンパス公開講座、いずも健康市民大学についても昨年と比較し受講者が増加した。一方で受講者がいなかったため中止となった講座もあった。今後は、出雲キャンパス公開講座・サテライトキャンパス公開講座共に、住民のニーズに合ったより魅力的なプログラムを企画し、多くの参加者が公開講座に足を運びたいくなるような広報活動を行っていく必要がある。

表2 平成30年度公開講座実施状況

講座番号	開催日時	講師	講座名	開講場所	受講者数
1	5月30日(水) 10:40~12:10	小川仁志 山口大学 国際総合科学部准教授 (平成30年度客員教授)	幸せに生きていくための哲学	出雲キャンパス 大講義室	286名
2	12月7日(金) 13:30~14:30	狩野鈴子	中高年のヨガ	出雲キャンパス 107 演習室	12名
3	7月21日(土) 10:00~11:30	松本亥智江	アロマで心と身体のリフレッシュ Part. 13 ①アロマを楽しむための基礎知識について	出雲キャンパス 215 実習室	20名
	7月28日(土) 10:00~12:00		アロマで心と身体のリフレッシュ Part. 13 ②精油を使った小物作りにチャレンジ		20名
	8月4日(土) 10:00~12:00		アロマで心と身体のリフレッシュ Part. 13 ③精油を使ったマッサージにチャレンジ		20名
4	7月20日(金) 8月17日(金) 13:30~15:00	濱村美和子	ベビーヨガ教室	出雲キャンパス 107 演習室	7/20 親子6組 8/17 親子7組 計24名
5	6月21日(木) 10:00~12:00	藤田小矢香 井上千晶 秦幸吉	出産前後のからだ作り講座 ~温活塾~ ①(妊娠期)心と体を温めて分娩に向けたリラク クス法①	出雲キャンパス 214 実習室	3名
	7月12日(木) 10:00~12:00		出産前後のからだ作り講座 ~温活塾~ ②(妊娠期)心と体を温めて分娩に向けたリラク クス法②		2名
	8月23日(木) 10:00~12:00		出産前後のからだ作り講座 ~温活塾~ ③(妊娠期)心と体を温めて赤ちゃんと暮らし始 める準備		2名
	12月3日(月) 10:30~12:00		出産前後のからだ作り講座 ~温活塾~ ④(産褥期)心と体を温めるベビーマッサージ基 本編		2名
	1月16日(水) 10:30~12:00		出産前後のからだ作り講座 ~温活塾~ ⑤(産褥期)心と体を温めるベビーマッサージ応 用編		3名
6	5月22日(火) 16:30~18:00	松本亥智江 吉川洋子 岡安誠子 平井由佳 川瀬淑子 梶谷麻由子	模擬患者(SP)養成講座 ①	出雲キャンパス 215 実習室 他	6名
	6月19日(火) 16:30~18:00		模擬患者(SP)養成講座 ②		6名
	7月31日(火) 16:30~18:00		模擬患者(SP)養成講座 ③		6名
	9月18日(火) 16:30~18:00		模擬患者(SP)養成講座 ④		6名
	10月25日(木) 16:30~18:00		模擬患者(SP)養成講座 ⑤		6名
7	9月7日(金) 14:30~16:00	渡邊克俊 平井由佳 小田香澄 中谷陽子 松本祐香	災害対応基礎講座 ①災害に対する備えについて	出雲キャンパス 215 実習室	13名
	9月14日(金) 14:30~16:00		災害対応基礎講座 ②災害時の搬送法について		13名

8	9月2日(日) 10:00～11:30	長島玲子 三瓶まり 井上千晶 中谷陽子	プレパパ・ママ講座 －体験者や赤ちゃんから学ぼう！妊娠・出産・子育て－	いずも子育て 支援センター	親子・夫婦6組 計16名
9	7月22日(日) 10:00～13:00	名和田清子 中川忠彦	炎症性腸疾患食事学習会 「楽しく作って美味しく食べる」	出雲キャンパス 5号館 調理実習室	23名
10	9月26日(水) 13:00～15:00	今中美栄 世良希美	家事知らずのおひとりさま メニューご紹介	出雲キャンパス 5号館 調理実習室	23名
11	7月5日(木) 14:00～15:30	出雲キャンパス 中山真美 医療法人純会すざうら医院 管理栄養部管理栄養士 馬庭章子・金本由紀子 えだ整形外科クリニック副院長・訪問リハビリテーション 部部长 高見由美	高齢期の低栄養予防のための講座 －加齢に負けないために－ ①高齢者の低栄養について	出雲キャンパス 5号館 237講義室	47名
	7月12日(木) 14:00～15:30		高齢期の低栄養予防のための講座 －加齢に負けないために－ ②低栄養・在宅医療における栄養サポート		47名
	7月19日(木) 14:00～15:30		高齢期の低栄養予防のための講座 －加齢に負けないために－ ③元気で長生きするための食生活		47名
	7月26日(木) 14:00～15:30		高齢期の低栄養予防のための講座 －加齢に負けないために－ ④高齢者の嚥下機能と嚥下障害		47名
12	10月27日(土) 13:00～16:00	広島大学医学部保健学科長 中谷久恵	【訪問看護フェスタ】 「暮らしに寄りそう訪問看護」～地域包括ケアシステムにおける看護の役割～	出雲キャンパス 大講義室	96名
合計（延べ人数）					783名

表3 いずも健康市民大学実施状況

【前期課程】

回	開催日時	講座名	講師	参加者数
1	5月10日(木) 13:30～14:30	認知症予防最前線	出雲キャンパス 山下 一也	18名
2	5月17日(木) 13:30～14:30	この物忘れは大丈夫?!それとも認知症?!	出雲キャンパス 荒木 さおり	15名
3	5月24日(木) 13:30～14:30	ココナッツオイルで生活習慣病を予防しましょう!	出雲キャンパス 秦 幸吉	21名
4	5月31日(木) 13:30～14:30	食を楽しむ～味覚に影響する要因を解き明かす～	出雲キャンパス 吾郷 美奈恵	18名
5	6月7日(木) 10:30～13:30	サクセスフルエイジング実践講座	出雲キャンパス 今中 美栄 福田 詩織	14名
6	6月14日(木) 13:30～15:00	仏教の伝来とインド音楽 ～和讃・御詠歌や子守唄に残る古代インドの悠久の響き～	元島根県立大学短期大学部教授 瀬古 康雄	18名
7	6月21日(木) 13:30～15:00	【健康栄養学講座 Part.1】「食と健康の深い話」 心も体も元気になれるおいしい食事のとり方	出雲キャンパス 亀山 良子	18名
8	6月28日(木) 13:30～14:30	【健康栄養学講座 Part.1】「食と健康の深い話」 遺伝子と食事	出雲キャンパス 安藤 彰朗 直良 博之 原田 永勝	21名
9	7月5日(木) 13:30～14:30	【健康栄養学講座 Part.1】「食と健康の深い話」 食品の機能性と疾病予防	出雲キャンパス 赤浦 和之 籠橋 有紀子	14名
10	7月12日(木) 13:30～14:30	マス・コミ報道に観る「反・知性」主義への対応 ～不関心層拡大への懸念～	浜田キャンパス 瓜生 忠久	13名
11	7月19日(木) 13:30～14:30	火山と健康～三瓶山を例に	島根県立三瓶自然観サミネル 研究員 遠藤 大介	13名
12	7月26日(木) 13:30～14:30	出雲大社門前町の発展と住人の生活	公益財団法人いずも財団事務局長 山崎 裕二	18名
合計（延べ人数）				201名

【後期課程】

回	開催日時	講座名	講師	参加者数
1	9月6日(木) 13:30~14:30	認知症の人の思いを大切にしたい認知症医療・ケア	エスポアール出雲クリニック 院長 高橋 幸男	19名
2	9月13日(木) 13:30~14:30	コロナツオイルで生活習慣病を予防しましょう!	出雲キャンパス 秦 幸吉	16名
3	9月20日(木) 13:30~14:30	情報社会におけるヘルスリテラシー	出雲キャンパス 岡安 誠子	17名
4	9月26日(木) 13:30~14:30	笑って元気! 笑いヨガ	出雲キャンパス 石橋 鮎美	16名
5	10月4日(木) 13:30~14:30	【健康栄養学講座 Part.2】「食と健康の深い話」 肥満、血管疾患と食事	出雲キャンパス 細川 優 多々野 浩	23名
6	10月11日(木) 13:30~14:30	【健康栄養学講座 Part.2】「食と健康の深い話」 ロコモティブシンドロームと骨粗鬆症予防のための食事	出雲キャンパス 名和田 清子 福田 詩織	19名
7	10月18日(木) 10:30~13:00	【健康栄養学講座 Part.2】「食と健康の深い話」※1 骨太な子どもを育てるためのクッキング	出雲キャンパス 中畑 典子 石田 千津恵	10名
8	10月25日(木) 13:30~14:30	【健康栄養学講座 Part.2】「食と健康の深い話」 嗜むこと、飲み込むことが難しい高齢者の食事について	出雲キャンパス 荒井 恵美子	17名
9	11月1日(木) 13:30~14:30	ゼロからわかる資産運用入門 シーズン2	浜田キャンパス 木村 秀史	18名
10	11月8日(木) 13:30~15:00	『源氏物語』の「もの思ひ」を考える	島根県立大学短期大学部名誉教授 三保 サト子	21名
11	11月22日(木) 13:30~14:30	歴史のなかの金・銀・銅―鉱山文化の所産	石見銀山資料館 館長 中野 義文	14名
12	11月29日(木) 13:30~14:30	「松江を本の街に」～本をめぐる2つの活動から～	BOOK在月実行委員会委員 BookValley 主宰 綾仁(あやに) 千鶴子	17名
合計 (延べ人数)				207名

(2) 地域、団体主催による出前講座

1. 目的

本学の専門的、総合的な教育・研究機能を幅広く社会に公開するため、地域や各種団体からの依頼に対応し、看護に関する知識・技術及び一般教養を身につける学習の機会を提供する。

2. 事業内容

看護栄養交流センターへの講師派遣依頼に対応し、希望テーマや教員、条件などを詳細に聞き取り、出雲キャンパス教員の中から適任者を選び、承諾を得た上で、依頼者に講師を紹介する。出前講座の実施後、講座担当教員に実施報告書の提出してもらい、ホームページに出前講座の様子を掲載する。また、次年度に開講可能な一般向けテーマ登録の募集を行い、一覧をホームページに掲載する。

3. 事業実施状況

平成30年度に開催可能な講座のテーマを一覧表にして、講師派遣依頼方法とあわせてホームページに掲載した。また、テーマ一覧のチラシを作成してPRを行った。

講師の派遣依頼は、平成30年4月から平成31年3月まで継続的にあり、看護栄養交流

センター地域連携推進部にて合計 18 件の出前講座の依頼を受け付け、実施した。

平成 31 年度の準備として、地域貢献登録カードにより教員から開催可能なテーマの事前登録を募り、提出されたテーマを一覧表にしてホームページに掲載し、チラシ原稿を作成した。

4. 成果

平成 30 年度は、56 件の出前講座を実施した。依頼元は、地域のコミュニティセンターや健康クラブ、中学校、NPO 法人、社会福祉協議会等があり、内容は、認知症や介護予防、ロコモ、リラクゼーション等多岐にわたった。出前講座が地域や各種団体に対し、健康や看護・栄養に関する知識や技術、一般教養を学ぶ機会を提供するに依るものとなっていると考えられる。

5. 課題

地域からの希望テーマに偏りがあり、今年度も実施教員に偏りがみられた。依頼元との話し合いの中で、他の講師や関連したテーマを紹介するなど調整を行い、特定の教員に過度な負担がかからないようにしていく必要がある。

また、講師派遣依頼は、原則として年度の早い段階で受け付けることとし、10 月までのところに対応できる体制に整える必要がある。

また今後も、地域から依頼しやすいよう看護栄養交流センター窓口の周知に努めるとともに、事業報告等を通して、大学としての出前講座の実績について、全体の把握をしていく必要がある。

表 4 平成 30 年度 地域連携推進部 出前講座実施一覧

番号	依頼元	実施日	実施教員	内容
1	出雲市	5月13日	藤田 小矢香	出雲市男女共同参画センター新米パパ&プレパパのための「パパ塾」講師
2	雲南市立認定こども園 加茂子ども園	5月19日	小田 美紀子	保護者を対象としたPTA子育て講演会 講師
3	塩冶百寿会	5月25日	山下 一也	高齢者の健康等について
4	(社法) 平田保育会北部保育所	6月8日	石橋 鮎美	保護者・地域の方を対象とする笑いヨガ 講師
5	平田地区更生保護女性会	6月16日	吉川 洋子	平成30年度平田地区更生保護女性会研修会 講師
6	(一社) 平田青年会議所	6月18日	阿川 啓子	平田青年会議所6月例会講演「若者と地域の縁結び」 講師
7	株式会社トガノ建設	6月19日	荒木 さおり	トガノ建設安全衛生大会における講演 講師
8	JAしまね出雲地区本部ふれあい福祉課	6月28日	山下一也	高齢者福祉対策組織やすらぎ会総会研修会 講師
9	出雲市高齢者クラブ連合会	7月2日	山下一也	出雲市高齢者クラブ連合会リーダー研修会 講師
10	島根県雲南保健所	7月8日	名和田清子	炎症性腸疾患患者・家族教室 講師

11	出雲市	7月8日	中谷 陽子	出雲市男女共同参画センター「新米パパとブレババのためのパパ塾」講師
12	しまね女性会議	7月11日	中山 真美	しまね女性会議における学習会
13	株式会社山陰中央新報社	7月23日	中山 真美	いきいきタウンセミナー
14	川跡長生会連合会	8月28日	谷口 敏代	長生会理事会出前講座『認知症の方を地域で支える～認知症サポーターになろう～』講師
15	島根県浜田保健所	9月6日	山下 一也	圏域住民を対象とした難病ボランティア講座 講師
16	島根県雲南保健所	9月11日	名和田清子	平成30年度雲南圏域食育推進研修会 講師
17	なないろネットなないろ教室	9月13日	山下 一也	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」講師
18	朝日地区社会福祉協議会	9月14日	小田 美紀子	健康づくり講座「ヘルシーゲームとアップ講座」講師
19	浜田市立第一中学校	9月28日	名和田清子	学校保健会講演会
20	日本ペーリンガーインゲルハイム株式会社	10月7日	名和田清子	市民を対象として開催する浜田市市民公開講座 講師
21	(株) すせり	10月8日	落合のり子	特定保健指導を実施する専門職の保健指導面接スキル向上を目的とした研修会 講師
22	松江市教育研究会食育部会	10月9日	名和田清子	平成30年度松江市教育研究会食育部研修会 講師
23	邑南町立口羽小学校	10月12日	浅原 雄大	小学生対象のプログラミング学習 講師
24	宍道地区社会福祉協議会	10月12日	山下 一也	認知症予防に関する講演会 講師
25	出雲市男女共同参画センター	10月14日	三瓶 まり	新米パパとブレババのための「パパ塾」講師
26	島根県社会福祉協議会	10月16日	石橋 照子	平成30年度シマネスクくびき学園 講師
27	山陰中央新報社 西部本社	10月18日	中山 真美	浜田市民を対象に開催する講演会 いきいきタウンセミナー浜田「人生100年時代を生きる」講師
28	川跡コミュニティセンター	10月20日	名和田清子	地域住民を対象として開催する食育講演会 講師
29	川跡長生会連合会	10月25日	細川 優	長生会理事会出前講座『認知症予防の食事について』講師
30	(一社) 島根ビルメンテナンス協会	10月26日	山下 一也	平成30年度労働安全衛生大会講演 講師
31	出雲市	11月7日	今中 美栄	出雲市登録統計調査員向け健康講演
32	出雲市男女共同参画センター	11月11日	長島 玲子	新米パパとブレババのための「パパ塾」
33	出雲市総合ボランティアセンター	11月11日	中山 真美	栄養×食×ボランティアアップフェスタ
34	平田地区福祉推進委員会	11月16日	名和田清子	平田地区福祉推進委員を対象としたシニアキャンパスツアーにおける講演 講師
35	雲南市立大東小学校	11月29日	小田美紀子	雲南市・飯南町学校保健会
36	出雲市立乙立小学校	11月22日	山下 一也	南中校区健康を考える会の研修会において、児童・保護者・地域住民を対象として開催する講演会 講師
37	なないろネットなないろ教室	11月22日	祝原あゆみ	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」講師
38	出雲市	11月25日	井上 千晶	パパフェス 家族いっしょに遊ぼうdayでの妊婦体験コーナー 講師
39	出雲市	11月25日	中谷 陽子	パパフェス 家族いっしょに遊ぼうdayでの妊婦体験コーナー 講師
40	出雲警察署	11月28日	今中 美栄	健康管理に関する講習会 講師
41	平田楽園クラブ連合会	11月29日	山下 一也	平田楽園クラブ連合会 認知症予防についての講演会 講師
42	江津市健康医療対策課	11月29日	平松喜美子	江津地区健康づくり交流会 講演講師
43	雲南市立大東小学校	11月29日	小田美紀子	雲南市・飯南町学校保健会 講師
44	益田西ロータリークラブ	12月2日	細川 優	益田市安田地区住民に向けた健康講演 講師
45	出雲市健康福祉部	12月6日	小田美紀子	出雲市母子健康包括支援センターきずな研修会 講師
46	(福) 島根県社会福祉協議会	12月11日	名和田清子	平成30年保育士キャリアアップ研修【食育・アレルギー対応】「食物アレルギーを持つ子どもへの対応」「栄養に関する基礎知識」研修会 講師
47	なないろネットなないろ教室	12月20日	伊藤 智子	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」講師
48	ひろせ保育園	1月12日	亀山 良子	島根県私立保育園連盟主催職員研修会における食育担当者を対象とした研修会 講師
49	まつえ市民大学運営協議会	1月17日	名和田清子	市民を対象として開催するまつえ市民大学「いきいき健康コース」講師
50	出雲市	1月20日	長島玲子	新米パパとブレババのための「パパ塾」講師
51	ひまわりの会	1月24日	長島玲子	骨盤底筋訓練 講師
52	川跡長生会連合会	1月25日	荒井恵美子	長生会理事会における出前講座「高齢者の食事における低栄養予防と調理上の工夫」講師
53	なないろネットなないろ教室	1月31日	小川 智子	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」講師
54	出雲市役所佐田支所市民サービス課	2月24日	山下 一也	地域住民を対象とした健康講演 講師
55	雲南市三刀屋町殿内交流館	2月24日	松本玄智江	福祉学習会
56	出雲医療生活協同組合	3月20日	細川 優	「脂肪のチカラ」講演 講師

(3) ぎんざんテレビ出前講座

1. 目的

島根県立大学の教員が、石見銀山テレビ放送が放映する出前講座を通して、地域住民に健全な生活を送るために役立つ幅広い知識を普及することにより、地域に貢献する。

2. 事業内容

平成 22 年から本事業が開始された。現在の本事業の流れとして、まず収録の担当教員が出前講座の台本および PPT スライド資料を作成する。それをもとに番組収録をする。ぎんざんテレビ局で編集されたデータがメール添付されるので、収録担当教員は内容を確認し修正があればその旨を伝える。収録担当教員の承諾後、放映の運びとなる。放映時間は 5 分である。

3. 事業実施状況

表 5 ぎんざんテレビ出前講座担当一覧

講座タイトル	収録担当教員	収録日
介護予防 パート 1	平松喜美子教授	5 月 29 日 (火)
介護予防 パート 2	平松喜美子教授	5 月 29 日 (火)
栄養のバランスって？何をどれだけ食べたらいいの？ そのコツ教えます！	中畑典子講師	6 月 8 日 (金)
高齢者に優しい食事	荒井恵美子講師	6 月 8 日 (金)
認知症の予防のための食事のヒント	細川優准教授	6 月 28 日 (木)
加齢とサルコペニア	中山真美教授	6 月 28 日 (木)
低栄養と過栄養	名和田清子教授	7 月 19 日 (木)
子どもが元気に育つ食事	今中美栄教授	7 月 19 日 (木)
インフルエンザ パート 1	落合のり子准教授	9 月 28 日 (金)
インフルエンザ パート 2	落合のり子准教授	9 月 28 日 (金)
骨盤底筋群 パート 1	長島玲子教授	9 月 25 日 (火)
骨盤底筋群 パート 2	長島玲子教授	10 月 3 日 (水)

4. 成果

今年度は、新たに健康栄養学科の教員も講座を担当した。栄養に関する講座はこれまではなかった為か、視聴者の反響は大きく再放送をリクエストされる講座もあった。流行時期に求められるインフルエンザに関する講座は、公共機関等で繰り返し放映された。このように多くの視聴者から好評を得ており、事業として一定の成果があったと評価する。全体を通

して高齢者向けの講座に偏ってしまった感は否めないが、収録時に大学の名前の入った小旗やオロリンのぬいぐるみを机の上に置くなど、島根県立大学のPRを行なったことも成果を上げた要因であったと評価する。

5. 課題

次年度は、地域住民に役立つ幅広い知識の普及という意味において、子どもから高齢者まで対象を拡げ、更なる地域のニーズに沿った番組作りを工夫していく。また、収録の場所をスタジオにとどまらず、ぎんざんテレビ局周辺の調理施設や島根県立大学の演習室等を活用するなど、収録の場所や方法についても検討する。更に、放映地域を大田市に限定せず、島根県のケーブルテレビネットワークを活用し、島根県民全体が視聴できるよう、ぎんざんテレビ局の協力を求めていく。

2) 学生の地域交流・地域貢献（学生ボランティア活動の促進）

(1) 学生ボランティア研修会

1. 目的

研修を通して「ボランティアとは何か?」「学生がボランティア活動をする意義」について学ぶ。また、本学学生が実際に取り組んでいる活動を知り、「自分たちにできることは何か」「大学生活を通して何がしたいのか」について考える機会をもち、ボランティア活動への参加意欲を高める。

2. 事業内容

出雲キャンパスの学生を対象に平成30年5月16日(水)に、以下の内容で研修会を実施した。

3. 事業実施状況

1) 表彰：平成29年度にボランティア活動を積極的に行った学生3名の表彰

看護学科3年 倉橋彩香・2年 佐々木朋佳・原田風沙

2) 学生によるボランティア活動の報告

①災害ボランティア活動：看護学科2年 村上瑞穂・下田恵里菜・三好芽生

②三瓶のボランティア研修会での学び：看護学科3年 田中千尋・村上温

③3キャンパス合同学生ボランティア交流会の報告：看護学科2年 山西希美実

④日本語教室でのボランティア活動：看護学科2年 佐々木朋佳

⑤海外ボランティア活動：看護学科2年 石田菜々美・3年 鈴木恵美子・4年 加藤諄美

3) 大学のボランティアの支援の説明

ボランティア・マイレージ制度及びボランティア活動保険等について

4. 成果

研修には、235名（学生225名（看護学科1年80名・2年83名・3年19名・4年1名、健康栄養学科1年42名）、教職員10名）が参加した。1年次生は、上級生のボランティア活動内容を知る事で、参加意欲を高めていた。また発表者の姿（話し方や立ち振る舞い）から、ボランティア活動が人間としての成長につながると実感しており、研修会の目的は達成できたと思われる。アンケート結果では、多くの学生がボランティアへの参加意識が高まったと回答し、実際のボランティア活動にもつながっていた。

学生は、ボランティアの楽しさ・魅力を学生同士の報告から学び、研修会の目的である活動の意義を理解し、ボランティア活動に対するモチベーションを高め、大学の支援状況について理解していた。



5. 課題

研修会の運営に関しては、配布資料と出席確認に関して混乱があった。今後、研修会のスムーズな運営に関する改善策の検討が必要と思われた。

(2) 学生ボランティア・マイレージ制度・ボランティア活動保険に関する支援

1. 目的

学生ボランティア・マイレージ制度とボランティア活動保険は、学生が地域でのボランティア活動等に積極的に参加するための学生ボランティア活動促進の制度である。マイレージ制度およびボランティア活動保険への学生登録を促し、適切な運用を実施する。

2. 事業内容

- 1) 学生ボランティア・マイレージ制度とボランティア活動保険の説明と加入
- 2) 学生のボランティア活動実績に対しての、適切なポイントの付与
- 3) ボランティア活動中の事故に対する保険の手続き

3. 事業実施状況

- 1) 学生ボランティア活動の促進にあたり、ボランティア研修会を学生主体での報告会形式に変更

し、平成 29 年度のボランティア活動報告の表彰を行った。

2) 学生ボランティア・マイレージ制度実績（平成 31 年 3 月 31 日現在）

①学生ボランティア・マイレージ登録者数 合計 413 名（前年比：119 %）

②ボランティア活動保険加入者数 合計 413 名（前年比：125%）

③ボランティア活動報告書提出実人数

看護学科 1 年：50 名、2 年：110 名、3 年：40 名、4 年：13 名、別科助産学専攻：0 名

健康栄養学科 1 年：91 名、2 年：0 名 合計 304 名（前年比：182%）

前年度に比べ、全体での活動報告は増加した。地域に関する活動報告は、平成 29 年度 33 件であったが、平成 30 年度は 78 件に増えた。

④ボランティア活動保険利用実績 0 件

4. 成果

ボランティア活動の参加は増え地域交流が活発になっている。特に、健康栄養学科 1 年生の活動報告が多かった。報告書の提出も増え学生ボランティア・マイレージ制度も活用できていた。本学の 2 サークルが地域の団体から表彰を受けた。

5. 課題

学生のボランティア参加者が増えていることから、安全に参加できる支援が必要である。

図 1 学年別活動報告書提出件数（平成 28 年度～平成 30 年度）



(3) 学生へのボランティア情報提供

1. 目的

地域からのボランティア募集の情報を学生に周知しコーディネートすることで、学生ボランティア活動の推進を目的とする。

2. 事業内容

地域からの学生ボランティア募集に対し、看護栄養交流センターを窓口、学生に対し情報を学内掲示およびメール等で発信し、ボランティア参加学生を募る。その結果を、地域の依頼団体へ連絡する。

3. 事業実施状況

地域からの学生募集の実績（平成30年4月1日～平成31年3月31日）：センター窓口を通じての依頼は、68件であった。学生に対し、ボランティア活動を支援する目的で、学生が取り組んだボランティア活動を紹介する報告書を作成した。

4. 成果

ボランティア参加の依頼件数は昨年とほぼ同数であったが、学生の参加は171名から313名と約2倍に増えた。報告書の提出も平成29年度167件であったが284件と増加している。ボランティア活動の内容では、地域関係が増加していた。特に、大学周辺の自治会活動に多くの学生が参加した。また、国際関連のグローバルなボランティア活動にする学生も増えた。健康栄養学科1年生の活動報告も多くあった。ボランティア活動参加者が増えた一方で、社会的なマナーに問題がありクレームを受け、学生への指導を必要とした。

5. 課題

学生の参加者が増えることで、様々な考えの学生が参加するようになっている。ボランティア活動経験の少ない学生も考慮した支援としては、楽しさを伝えることや地域との連携以外にも学生へのマナーの指導も必要である。

表6 ボランティア内容別状況

（平成30.4.1～平成31.3.31 注：（ ） 昨年度件数）

内 容	募集依頼件数	参加者	報告書提出件数
福 祉	21 (29)	88 (97)	68
子 ども	8 (11)	65 (26)	59
環 境	0 (0)	0 (0)	17
地 域	23 (9)	109 (12)	78
文 化	10 (10)	44 (36)	51
国 際	3 (0)	1 (0)	10
その他	3 (0)	11 (0)	21
合 計	68 (59)	313 (171)	304

(4) 3キャンパス合同学生ボランティア交流会

1. 目的

島根県立大学の松江、出雲、浜田の3つのキャンパスは、学部、学科が違うことからそれぞれのキャンパスに特色がある。継続的なキャンパス間の学生交流の一環として、3キャンパス合同でそれぞれのキャンパスの特色を活かしたボランティアを企画、実行することを目的とする。

2. 事業内容

3キャンパスの学生有志で構成されるメンバーが集い、平成30年度に実施する3キャンパス合同学生ボランティア活動を企画して実施した。

3. 事業実施状況

【3キャンパス合同学生ボランティア活動&交流会】

- 1) 日 時：平成30年11月17日（土）、18日（日）
- 2) 場 所：多世代交流型こども食堂みーる堂（大田市）
- 3) 参加者：〈学生〉23名（出雲キャンパス：11名）

〈教職員〉9名

- 4) 主 旨：3キャンパスの学生がボランティア活動によるつながりをつくることを目的とする。

春の交流会で企画した案を基に実際にボランティア活動に取り組み、ボランティアの意義を考える。

- 5) ボランティア活動内容：多世代交流の運営・企画・実施

- 6) 交流会：国際ボランティア活動について講演、各キャンパス発表



4. 成果

- 1) 子どもと高齢者の交流では、災害時やもしもの時にどのように動けばよいのかをゲーム形式で楽しく学べた。プログラムは、地域住民同士で避難所運営を理解するきっかけづくりに繋がった。参加者の感想には、子どもや高齢者では注目する視点や優先順位が違うことがわかり勉強になったなどの意見があった。
- 2) 多世代交流型こども食堂みーる堂における食事を通じた地域交流では、地域の人が集まる場を作り世代間の交流をすることが町の活性化につながっているなどの学生の学びがあった。
- 3) ボランティアについての講義では、国際ボランティア組織 NICE の活動や緑と水の連絡会議のボランティア活動について学んだ。また、出雲キャンパス小泉さんの海外ボランティア活動報告などを通し、海外ボランティア活動への関心を高めていた。参加した

学生からは、「国際的なボランティア活動などの学びから、グローバルな視点でのボランティア活動を知り、視野が広がった」と感想があった。

5. 課題

交流会全体を通して学生のボランティア活動のモチベーションに繋がったと思われる。今後とも、学生の視野を広げていく交流会の開催は意義があると考えられる。

3) 教育機関との連携

(1) 小中高校等出前講義

1. 目的

小中高校生のための保健医療福祉に関する講義の依頼に応じる。

2. 事業内容

センターあるいは教員に小中高校から講師依頼があった場合、講師を調整し講義を実施した。

3. 事業実施状況

表7 平成30年度 小中高校等出前講義実施一覧

実施日	依頼者(団体)	テーマ・内容	実施教員
7月5日	島根県立大田高等学校	出張講座 講師	林 健司
7月9日	島根県立出雲高等学校	出雲高等学校普通科「課題研究」等 指導	石橋 照子
7月9日	島根県立出雲高等学校	出雲高等学校普通科「課題研究」等 指導	直良 博之
7月24日	松江市立女子高等学校	「大学の先生による出張講座」 講師	今中 美栄
7月24日	松江市立女子高等学校	「大学の先生による出張講座」 講師	加藤 典子
7月24日	松江市立女子高等学校	「大学の先生による出張講座」 講師	荒井 恵美子
9月28日	浜田市立第一中学校	生徒・保護者を対象として開催する学校保健会講演会 講師	名和田 清子
11月22日	出雲市立乙立小学校	南中校区健康を考える会の研究会において、児童・保護者・地域住民を対象として開催する講演会	山下 一也
12月7日	安来市立大二中学校	1年生を対象とした「中学生に必要な健康的な捕食」をテーマとした講演 講師	中畑 典子
12月7日	安来市立大二中学校	1年生を対象とした「中学生に必要な健康的な捕食」をテーマとした講演 講師	平井 由佳

4. 成果と課題

今年度は、高大連携による出前講座が6件あり、昨年度の1件より増加した。

また健康栄養学科教員への依頼も5件あり、健康や食に関する講義の依頼に対応した。

依頼は県東部の教育機関が大半を占めているため、今後は県西部や隠岐地域へのPRも検討する。

(2) 小中学校体験学習

1. 目的

小中学生のための保健医療福祉に関する体験学習の依頼に応じる。

2. 事業内容

小学校からの依頼に対して、保健医療福祉に関する1)～3)の体験学習を2件実施した。

- 1) 高齢者の眼の見え方と指先の動き
- 2) 車椅子体験
- 3) ブラインドウォーク&視覚障害者へのてびき

3. 事業実施状況

- 1) 日時：平成30年7月11日（水） 10:00～11:30
対象：出雲市立神西小学校3年生
参加者：29名
- 2) 日時：平成30年9月11日（火） 9:00～11:30
対象：出雲市立高松小学校5年生
参加者：97名

4. 成果

車椅子に乗り、車椅子を押される人の気持ちを体験することで、小さな段差も大きな障害になることを学んだ。また、高齢者の物の見え方や、アイマスクをして視覚障害者の見えにくさを体験することで、困っている人に対して安心してもらえるための声かけや工夫を考えることができた。

5. 課題

体験型の学習には複数の教員配置が必要となる。体験学習の依頼が秋学期になると、本学教員のスケジュール調整が難しいことから、実施時期を4月～9月に限定して担当者と調整を図った。今後も多くの教員で安全に体験学習をサポートできるよう、引き続き依頼先には時間的な余裕をもって実施希望日を知らせてもらうよう周知を図る。

4) 産官学連携

(1) 包括協定締結自治体との連携

1. 目的

包括協定を締結している自治体との連携を図ることにより、地域社会のニーズや課題に対応する事業を協働で企画・実施する。

2. 事業内容

包括連携協定を締結している松江市・出雲市・浜田市・益田市・隠岐の島町及び知夫村との連携協定に基づく具体的事業について、個別に協議しながら取り組みを展開する。自治体との協力について、具現化のために学内調査を行い、合意に至った事業から順次実施する。

3. 事業実施状況

- 1) 出雲市と協働で児童虐待防止推進研修事業を行った。
- 2) 出雲市と協働で伊野地区介護予防教室事業を行った。
- 3) 出雲市等から支援を受けているサテライトキャンパスの活用事業について検討し、出雲市の保健師等の助言を得て、市内在住のブラジル人を対象とした健康交流会を実施した。
- 4) 知夫村の協力を得て、隠岐島前地域における学生の地域貢献活動を支援し、地域住民の健康増進活動への連携を図った。

4. 成果

出雲市との協働事業については、P. 70～P. 72 参照。

5. 課題

出雲市と協働で実施している児童虐待防止推進研修事業、介護予防教室事業については、これまで数年間継続して実施している事業であり、認知度も上がり、成果も現れている。

ブラジル人への支援については、今後も、出雲市をはじめ関係団体と連携を図りながら、サテライトキャンパスを拠点に、具体的な取組につながるよう事業を検討していく。

他の自治体についても、事業の具現化に向け、更なる連携を図る必要がある。

(2) 受託研究

1. 目的

自治体、関係団体、企業等からの受託研究についての依頼に対し、調整し、実施につなげる。

2. 事業内容

平成 30 年度は、以下の研究を受託し、実施した。

表 8 平成 30 年度受託研究実施一覧

	受託者	研究題目	研究者
1	島根県	認知症・サルコペニア予防の dual task 機器の開発	山下一也教授
2	島根県	ライフスタイルに適応した清算・販売を目的とする島根米の特性の見える化	籠橋有紀子准教授
3	島根県農業技術センター	「トロトロ層」形成化における有機米の食味評価	籠橋有紀子准教授
4	島根大学 オムロンヘルスケア(株)	一般住民を対象とした Medical LINK を用いた家庭用血圧管理状況と関連要因に関する疫学研究	中畑紀子講師
5	しちだ教育研究所	しちだ式いきいき脳開発プログラム事業	伊藤智子教授

3. 成果及び課題

昨年度は実施件数が 1 件であったが、看護栄養学部設置に伴い、健康栄養学科への受託研究依頼があり、今年度は 5 件に増えた。

今後も看護栄養交流センターのホームページの充実に努め、委託希望があれば対応を行う。

(3) 受託事業：出雲市 児童虐待防止推進研修事業

1. 目的

年々深刻化する児童虐待の現状を市民一人ひとりが理解し、適切に対応できる力量を高めること、また、児童虐待が複雑、多様化する中で当事者を支援する地域の支援ネットワークづくりの強化が必要とされている。今年度は、出雲市母子健康包括支援センター、出雲市と島根県立大学の協働による子育て支援センター設置など、新たにできた社会資源を活用しながら、子育て世代の家族の支援ネットワークについて考える機会とした。

2. 事業内容

出雲市要保護児童対策地域協議会（事務局；出雲市子ども政策課）と島根県立大学出雲キャンパス（教員 6 名）の協働による、3 回の児童虐待防止と対応講座の企画・運営を行った。対象は、第 2・3 回講座は、保健医療福祉関係者、教育関係者、行政関係者、学生であった。第 1 回講座は一般市民も対象とした。会場は、島根県立大学出雲キャンパスを使用した。

3. 事業実施状況

表9 プログラム概要と参加者数

	第1回	第2回	第3回
日時	平成30年7月15日(日) 13:00～15:20	平成30年9月29日(土) 13:00～16:00	平成30年11月17日(土) 13:00～16:00
テーマ	子どもの育ちを支援する	医療機関と地域がつながるために	事例を通して考える 地域でできる子ども虐待予防と防止への支援 ～それぞれの機関・人ができることを話し合おう～
内容	【講演】 「子どもの健やかな発達のために大切なもの～これからの子育てをみんなで考えてみませんか～」 ・講師:山下 裕史朗 氏 (久留米大学医学部小児科学講座 主任教授)	【講演】 「医療現場における子ども虐待防止のための支援の実際」 ・講師:奥山 眞紀子 氏 (国立成育医療研究センター ころの診療部統括部長) 【報告】 「開設から1年を迎える出雲市ご市健康包括支援センター“きずな”について」 ・講師:柳 美代子 氏 (出雲市役所健康増進課主任保健師)	【講演】 「事例を通して考える地域でできる子ども虐待の支援」 ・講師:小笹 美子 氏 (島根大学医学部看護学科教授) 【グループワーク】 ・事例検討
参加者数	107名	91名	39名

4. 成果

第1回は、子育て支援センター開設記念講演を兼ね、託児を準備したため、子育て世代の参加者が多くみられ盛会であった。第2回は、医療機関の先駆的な取り組みの講演と開設1年となる出雲市母子健康包括支援センター“きずな”の現状や取り組みについて報告を受け、医療と地域のよりよい協働を考える機会となった。第3回は、参加型研修による事例検討を行い、子ども虐待防止と対応の実践について、貴重な情報が得られると同時に、参加者同士のネットワーク構築にもつながり、効果的な研修となった。

5. 課題

- 1) 医療関係者と学生の参加が少ないため、講座の企画および広報を検討する。
- 2) 幅広い分野から講師を検討し、子ども虐待について多角的な視点で支援できるようにする。
- 3) 3回の講座を構成し、引き続き参加型の講座を計画する。
- 4) 出雲市における児童虐待の推移と課題を検討し、本事業が果たす役割を評価する。

(4) 共同事業：出雲市 伊野地区介護予防教室事業（ひまわり会）

1. 目的

出雲市と島根県立大学出雲キャンパスとの協働により、高齢者の認知機能の維持改善や体力作りのみでなく、活動を通して地域での活動に関わる人材の育成、地域のネットワークづくりを図ることである。

2. 事業内容

期間：平成 30 年 5 月 23 日～平成 31 年 2 月 6 日

業務受託の場所：伊野地区（伊野コミュニティーセンター）

事業受託料：660、000 円

関係機関：出雲市健康福祉部医療介護連携課、平田支所市民福祉課、健康づくり推進委員

出雲キャンパス事業担当者：8 名（山下一也、平松喜美子、吉川洋子、渡邊克俊、松本裕香、小村智子、工藤祐司、後藤尊宣）

3. 事業実施状況

1) 事前調査	1 回	31 名
2) 介護予防教室	17 回	平均 26.5 名
3) 事後調査	1 回	26 名

教室開始時と終了時に厚生労働省作成のフレイル、社会性、認知機能とこころの健康、栄養状態、体組成、上肢・下肢の周囲径、握力、歩行速度などを測定し、参加者には毎回、「参加簿の記録」に感想を書いていたいただき、それに対して「はげみ記録」を記入した。終了時には参加者にアンケート調査を行い、今後の介護予防教室の在り方についての参考資料とした。

4. 成果及び課題

今回、介護予防教室の内容と評価項目の変更を行った。本事業は 10 年近く同様な内容を企画運営してきた。しかし、高齢化率は高いものの、比較的健康な高齢者が多い。また昨今、高齢者のフレイルやサルコペニアについて論議されるようになってきた。単に認知機能の予防のみでなく、身体機能、運動機能を強化することにより、種々の機能が改善されると言われるようになってきた。そこで、今回は高齢者の嚥下食の試食会や島根県立大学出雲キャンパスの見学ツアーを実施し「栄養とお口のフレイル」について講義やお口の健康チェックを実施した。

成果と課題は、総合的なフレイル評価や栄養面は改善され、認知機能やうつ状態は維持された。しかし、身体機能や運動機能の評価となる筋肉量や握力、歩行速度、骨量などは改善

されなかった。これは筋力・筋肉量を増加させるセラバンド運動は2回しか実施できなかったことによる。また、出雲市が作成したポスターを使用している「いきいき体操」は1回程度しかできなかった。その理由として、参加者の中には前日に行なったおり、本教室でのニーズはあまりなかった。

また、本事業に関わるマンパワーの件についての課題がある。今回は参加者が多く、回想法は4グループで実施したことや、本大学との行事と重なったために、人的確保が困難であり、いろいろな方のご協力により、何とか終了することができた。

今後、これを機会に自主的な会が立ち上がり、次年度からは今回の「ひまわりの会」を基盤に健康教室を継続することになった。企画者としては嬉しいかぎりである。

◆詳細については、平成30年度「ひまわりの会報告書」参照

(5) NPO 法人・関係団体・企業との連携：いずも産業未来博 2018 への出展

1. 目的

NPO 法人・関係団体・企業との連携を図る。

2. 事業内容

NPO 法人 21 世紀出雲産業支援センター主催の「出雲産業フェア 2018」に出展した。

3. 事業実施状況

- 1) 日 時：平成30年11月3日（土・祝）・3日（日） 10:00～16:00
- 2) 場 所：出雲ドーム（出雲市矢野町999）
- 3) 参加者：3日（土・祝） 教職員9名、学生8名、公開講座受講者2名
4日（日） 教職員10名、学生8名
- 4) 展示内容：「島根県立大学看護栄養学部 看護栄養交流センター」として2ブース使用
 - 島根県立大学紹介 大学案内、管理栄養士の紹介、各種リーフレット・パンフレット配布
 - 地域貢献活動 骨密度測定、サルコペニア予防・啓発、「元気のためのまなぶ♡カフェ」
(公開講座受講者によるスムージーと野菜スープの試食)、味覚チェック
 - 本学の教育の紹介 学生による血圧測定(自動血圧計)、赤ちゃん抱っこ・お世話体験、(看護学科)演習の紹介掲示

- 研究 中谷陽子助教・小田香澄助手の研究揭示、オロリン体操第2の紹介
- その他 「企業見学ツアー“ウルトラクイズ”」小学生20名が参加した。
- 配布 広報誌オロリン、大学案内（大学入学生募集要項）、看護栄養交流センター・認定看護師教育課程リーフレット、未来夢基金パンフレット、大学オリジナルクッキー

4. 成果

- 1) スムージーと野菜スープの試食、味覚チェックは好評で、多くの方に試食・体験していただいた。
- 2) 骨密度測定、血圧測定とも2日間で約300名実施し、測定結果は用紙に記入して説明した。赤ちゃんのお世話体験は子どもに喜ばれた。
- 3) 学生ボランティアの来場者への対応は一生懸命でとてもよかった。
- 4) フェアのイベント「あなたが選ぶNo.1ブース選挙」では、「学校、行政・公的機関部門」において優秀賞をいただき、副賞5千円をいただいた。副賞賞金は学生寮自治会に寄付することとした。

5. 課題

研究ポスターの掲示が奥にあり、ゆっくり見てもらえなかった。掲示物を看護学科・健康栄養学科それぞれで準備・掲示したが、展示のまとまりを考えた配置とする必要がある。

(6) 各種審議会・委員会等への参加

1. 目的・事業内容

教職員が各種審議会・委員等の委員活動を通して地域に貢献する。

2. 事業実施状況

平成30年度は78件の各種審議会、委員会等へ所属し、活動を行った。

表9 平成30年度に教員が参加した審議会・委員会

依頼元	名称
島根県総務部	島根県公務災害補償等審査会委員
	島根県行政不服審査会委員
島根県環境生活部	島根県人権施策推進協議会委員
	しまね働く女性きらめき応援会議構成員
島根県健康福祉部	島根県国民健康保険運営協議会委員

	島根県医療勤務環境改善支援センター運営協議会委員
	島根県自死総合対策連絡協議会委員
	島根県障がい者自立支援協議会 退院支援部会委員
	島根県准看護師試験委員
	島根県福祉サービス第三者評価推進委員会委員
	介護職員の行う医療的ケア関係業務に関する検討委員会委員
	島根県緩和ケア総合推進委員会委員
	島根県社会福祉審議会委員
	島根県がん対策推進協議会委員
	島根県看護教員継続研修検討会委員
	島根県製菓衛生師試験委員会委員
島根県出雲保健所	出雲圏域健康長寿しまね推進会議委員
	平成30年度出雲圏域思春期保健ネットワーク連絡会 構成員
島根県土木部	島根県河川整備計画検討委員会委員
	島根県建築審査会委員
	島根県都市計画審議会委員
	島根県水防協議会委員
島根県出雲県土整備事務所	出雲地区新型インフルエンザ等対策推進会議構成員
島根県農林水産部	島根県中山間地域等振興対策検討会 検討委員
島根県企業局	島根県企業局経営計画評価委員会委員
島根県病院事業管理者	給食業務総合評価委員会委員
島根県立中央病院	島根県立中央病院地域医療支援病院運営委員会委員
	島根県立中央病院臨床研究・治験審査委員会委員
島根県立こころの医療センター	給食業務委託総合評価審査委員
島根県教育庁保健体育課	平成30年度「つながる食育推進事業」食育推進検討委員会 委員
島根県立青少年の家	島根県立青少年の家運営委員会委員
出雲市総合政策部	出雲市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員
出雲市健康福祉部	出雲市親子健康づくりネットワーク会議委員
出雲市子ども未来部	出雲市子ども・子育て会議委員
出雲市市民文化部	出雲市男女共同参画推進委員会委員
	出雲市生涯学習委員
出雲市都市建設部	出雲市建築審査会委員

出雲市市民文化部スポーツ課	出雲市スポーツ振興審議会臨時委員
出雲市教育委員会	出雲市特別支援教育推進委員会委員
	出雲市社会教育計画査定委員会委員
出雲市上下水道局	出雲市水道事業推進懇話会委員
松江市健康部健康推進課	松江市高齢者の低栄養・重症化予防事業における検討会委員
	松江市たばこ対策推進会議 たばこ対策に関する審議を行う審議委員
大田市健康福祉部	大田市障がい者自立支援協議会委員
雲南市健康福祉部	雲南市健康づくり推進協議会委員
	身体教育医学研究所うなん運営委員会 委員
雲南市教育委員会	雲南市学校給食調理業務等委託評価委員会 委員長
	雲南市学校給食調理業務等委託候補者選定委員会 委員長
島根大学医学部	島根大学医学部医の倫理委員会委員
	島根大学医学部等臨床研究利益相反マネジメント委員会委員
	島根大学医学部附属病院臨床研究審査委員会 委員
(公社) 島根県看護協会	島根県看護協会 緩和ケア推進委員会委員
	助産師出向支援導入事業協議会委員
	島根県看護協会 教育事業委員会委員
	島根県看護協会 学会委員会委員
	島根県看護協会 日本看護学会－精神看護－学会準備委員
	島根県看護協会 看護師職能委員会 I 委員
	島根県看護協会 助産師職能委員会委員
	島根県看護協会 男性看護師委員会委員
	島根県ナースセンター運営協議会委員
平成30年度圏域別看護関係者連絡会議 看護相談員	
日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員
(公社) 鳥取県看護協会	鳥取県看護協会 看護研究学会委員会委員
(公社) 日本産業衛生学会	日本産業衛生学会産業看護部会幹事
(公社) 日本栄養士会	研究教育事業部企画運営委員
日本産業看護学会	日本産業看護学会産業看護学体系化検討委員会中国地方ワーキンググループリーダー
日本医学看護学教育学会	日本医学看護学教育学会役員
(一財) 長寿社会開発センター	介護職員関係養成研修テキスト作成委員会委員

(一社) 日本サイコオンコロジー学会	平成30年度がん総合相談に携わる者に対する研修事業評価委員
(一社) 日本看護研究学会	日本看護研究学会 編集委員
(一社) 川本6次産業化ネットワーク	一般社団法人川本6次産業化ネットワーク理事
(公財) 島根県環境保健公社	健診データ活用委員会委員
(公財) ヘルスサイエンスセンター島根	がん対策募金審査委員会委員
(公財) 島根県体育協会	平成30年度スポーツ医・科学サポートスタッフ
島根県住宅供給公社	島根県住宅供給公社理事
島根県土地開発公社	島根県土地開発公社理事
(株) 海産物のきむらや	技術顧問
まつえ市民大学運営協議会	市民を対象として開催するまつえ市民大学の運営協議会 委員

5) 広報・広聴活動

(1) ホームページ等を活用した最新情報発信

【ホームページによる情報発信】

1. 目的

センター事業の全体を把握し、情報発信の方針に基づきタイムリーに情報の精選と発信を行う。

2. 事業内容

地域連携推進部の事業内容について適宜ホームページにアップするよう、各事業担当者に働きかける。

3. 成果

各事業担当者が、事業実施内容についてタイムリーに情報発信するように心がけ、年間を通じてセンターの取り組みについて広く紹介することができた。

4. 課題

ホームページへの情報発信はできているが、実際にどの程度のアクセスがあるのかは検証できていないため、今後評価をして検討していく。

【ラジオ番組による情報発信】

1. 目的

島根県立大学出雲キャンパスの教員、学生達が、FM ラジオを通じて、等身大の話題や「看

護栄養学部」としての活動、研究内容等の情報を広く届けることにより、地域住民の方々に
出雲キャンパスをより理解していただく機会とする。さらに、学生が「社会に向けて発信す
る」ことの楽しさ、難しさを学ぶことにより、人材育成を図る。ラジオによる継続的な情報
発信を実施している大学は、大手の大学に限定されている状況であり、今後も大学の広報活
動の一環として関わっていく予定である。

2. 事業内容

出雲キャンパスの山下研究室において収録し、「FM いずも」(80.1MHz)で週1回、放送し
ている。毎回、山下一也副学長と1~3名の学生が出演し、様々なテーマを取り上げ、学生
の視点でメッセージを発信している。テーマは、時事問題から若者が日ごろ考えている世の
中の悩みや疑問まで幅広く扱っている。

3. 事業実施状況

番組名：IZU キャンLife (毎週金曜日 20:30~21:00 放送)

4. 成果

4月から1月まで、女子学生41名、男子学生2名、外国人2名が登場した。学生生活、
異文化理解研修、ドリームハント事業などの多岐にわたり、また大学祭の宣伝のために自治
会役員も参加した。リスナーから時々肯定的なご意見をいただいた。

5. 課題

今後も、本番組を通じてさらに本学の広報を行えるように努力していく。

(2) キャンパスモニター会議

1. 目的

本キャンパスに対する地域住民の理解と連携を深め、地域に開かれたキャンパスをめざ
す。そのために、近隣地域よりモニターを募集し、本キャンパスの運営や事業、安全確保に
ついて意見や批評、情報を求め、今後の活動に反映することを目的とする。

2. 事業内容

7名の地域住民にキャンパスモニターを委嘱し、本キャンパスの年間行事(大学祭、公開
講座、客員教授による特別講演など)を案内して、キャンパスに対する理解を深めてもら
う機会とした。モニター会議では、今年度新設された健康栄養学科の説明を含め、本キャン
パスの教育活動や地域貢献活動を解説し、学生生活を送る上での安心安全の確保に関する意
見交換を行った。

3. 事業実施状況

第1回キャンパスモニター会議

- 1) 日 時：平成 30 年 6 月 1 日（金） 13:00～14:30
- 2) 場 所：島根県立大学出雲キャンパス 大会議室
- 3) 参加者：キャンパスモニター7名、学内教職員 12名

第2回キャンパスモニター会議

- 1) 日 時：平成 31 年 2 月 21 日（木） 10:30～12:00
- 2) 場 所：島根県立大学出雲キャンパス 大会議室
- 3) 参加者：キャンパスモニター7名、学内教職員 12名

4. 成果

モニター会議は、学生の学習内容や方法、災害時の安全対策のあり方、大学の情報発信のあり方について活発な意見交換の場となった。

(3) シニア・ジュニアキャンパスツアー

1. 目的

ツアーをとおしてキャンパスの広報活動を行うとともにシニア・ジュニアの健康学習の場とする。

2. 事業内容

シニアキャンパスツアーでは、新設された健康栄養学科教員の協力も得て、講話や学内見学、学食体験を行った。

3. 事業実施状況

	対象者	開催日時	人数 (名)	内容				
				講和	協力	会場	学内 見学	学食 体験
1	荒木コミュニティセンター	7月9日(月) 8:30～12:10	23	講師:落合のり子准教授 健康教育論「人を動かす仕掛けづくり(講義の聴講)」		ラーニングコモンズ	図書館	あり
2	上遥基健康クラブ	8月2日(木) 9:15～11:30	13	講師:細川優准教授 「元気長生き!食の秘訣!」	亀山良子教授 多々納博助教	栄養教育実習室	5号館	なし
3	荒木はまひるがの会	9月11日(火) 9:15～12:10	21	講師:籠橋有紀子准教授 「認知症予防・高齢者の栄養～あぶらの話」	細川優准教授 石田千津恵助教	栄養教育実習室	5号館	なし
4	乙立コミュニティセンター	10月19日(金) 9:30～12:30	33	講師:吉川洋子教授 「腸をきれいにするお話」		217 講義室	216 実習室 図書館	あり
5	美郷町あけぼの学級	11月7日(金) 10:00～12:30	15	講師:荒木さおり助教 「～この物忘れは大丈夫?!それとも認知症」		213 講義室	216 実習室 図書館	あり
6	平田地区介護予防教室	11月16日(金) 10:00～12:00	20	講師:名和田清子教授 「アンチエイジングについて」	平松喜美子教授 (口腔機能検査)	215 実習室	5号館	なし
7	伊野地区介護予防教室	12月12日(水) 10:00～12:00	26	講師:佐藤公子教授 「お口の健康」 <small>「オーラルフレイル」</small>	平松喜美子教授 (口腔機能検査)	215 実習室	5号館	なし
8	鳥巣地区住民	2月21日(木) 10:00～12:00	10	講師:渡邊克俊講師 「平常時の非常食の備え」	佐藤公子教授 お口の健康チェック	215 実習室	6号館	なし
参加者合計			161					

4. 成果

出雲市コミュニティセンター長会での広報活動もあり、例年を上回る参加者であった。健康栄養学科の教員による健康や栄養の講話は初めて聞く人も多く、ツアーを通してキャンパスへの理解を深めるとともに、健康意識を向上する機会となったと好評であった。

5. 課題

学食体験では、参加人数が多いと配膳に時間を要するため、スタッフの対応が難しい。

秋学期は実習等で平日に対応できる教員が少ないため、10月までの実施予定だと対応しやすい。

《松江キャンパス》

平成 30 年度 公立大学法人島根県立大学
 地域連携推進センター松江キャンパス運営会議 名簿

(任期：平成 30. 4. 1～平成 31. 3. 31)

職 名	氏 名	備 考
教授	岩田 英作	・しまね地域共生センター長
教授	工藤 泰子	・地域連携推進センター副センター長 ・地域連携推進委員会委員長
准教授	西村 健一	地域連携推進委員会委員（正課授業における地域共生教育支援）
講師	山村 桃子	地域連携推進委員会委員（学生のボランティア活動支援・学内共生研究支援）
講師	渡邊 寛智	地域連携推進委員会委員（連携協定機関を含む教育機関等との連携交流支援）
講師	加藤 暢恵	地域連携推進委員会委員（公開講座等による学生・社会人の教養教育支援）
地域連携課長	的場 好信	事務局委員
主任	庄原 雅之	事務局委員
嘱託員	藤原 香緒里	事務局委員

松江キャンパス：地域連携活動概要

地域連携推進センター副センター長 工藤 泰子

平成 30 年 4 月、松江キャンパスは、4 年制大学の人間文化学部（保育教育学科・地域文化学科）と短期大学部（保育学科・総合文化学科）の、計 4 学科で新たなスタートを切りましたが、新体制のもと、新たな教員が加わり、「地域」を重視した多様な研究・教育活動へとさらなる拡がりを見せています。

平成 30 年度の松江キャンパス地域連携推進センターでは、（1）地域自治体・機関との連携による地域志向研究教育、（2）「社会人の学び」の推進、（3）ボランティア活動を含む学生による地域貢献活動の推進、の 3 つを軸に活動しました。本報告書では、以下の目次に従って松江キャンパスの地域貢献活動をまとめています。

1. 地域に関する教育・研究活動
2. 「社会人の学び」公開講座・講演会等の開催
3. 地域（自治体・機関）との連携
4. 教育課程のための地域の施設・機関との連携
5. 学生による地域貢献活動

平成 30 年度の特筆すべき点は、新体制によりカリキュラムが一新され、これまで以上に「地域」を重視した科目が増設されたことです。松江キャンパス全学生が履修可能な「しまね文化論」開講のほか、人間文化学部地域文化学科では、1 年生のうちに島根の文化をしっかり学んでもらうことを目的に、島根を主とする文化を〈発見〉・〈体験〉・〈活用〉する科目を計 19 設置しました。これらの科目は、県内各地の自治体・機関等と連携、ご支援をいただきながら授業が運営されています。同時に、各教員は、それぞれの専門領域で、地域の〈人〉・〈文化〉を重視した研究活動を行うことで、地域貢献を目指しています。

地域連携推進センターは、学生による地域貢献活動の強化支援も行っています。平成 30 年度は、学生主体のボランティアサークルが新たに 1 団体増設されるなど、これまで以上に地域活性化のための活動が活発に展開されています。また、平成 25 年度に始まった、学生の自主的な企画による「キラキラドリームプロジェクト」が継続実施され、平成 30 年度は、学生たちが本学と彼女たちの出身高校、そして、海外（ラオス）とのネットワーク作りに挑戦するなど、ユニークな取り組みがありました。

今後とも、地域の〈人〉・〈文化〉に根差したキャンパスとして、地域の皆様のニーズにこたえられる地域貢献活動を継続していきます。

1) 地域に関する教育・研究活動

(1) 『地域研究と教育』の作成

平成30年度の『地域研究と教育 Vol. 7』は、新生松江キャンパスを地域の皆様に知っていただくため、4学科を特色づける各教育活動と「地域」に特化した近年の研究をまとめた。以下、その一部を紹介する。（「地域研究と教育 Vol. 7」より抜粋）



【保育教育学科】

◆ 第45回ほいくまつり

— 全人的保育者養成を目指して —

保育教育学科では、島根県民会館大ホールに1,500人の子どもたちとその保護者を招待して「ほいくまつり」を毎年開催しています。「ほいくまつり」の取り組みは本学科独自の1・2年生必修科目「表現研究」の一環として行われます。1・2年生全員が舞台系、裏方系など10のパートに分かれて取り組みますが、週



に2回の授業時間だけでなく、ほぼ毎日、放課後に残って自主的・自治的活動を行うこととなります。

学内で何度も繰り返すリハーサルでは、全員で意見を交換し、子どもたちのための表現活動について考えます。保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭など、将来子どもにかかわる者にとって必要な子ども理解を深めていくのです。その過程の中で、入学まで一人ひとりが培ってきた力を発揮できるとともに、協力することの大切さを学び、感性を磨いていくことができます。

本番当日、子どもたちの笑顔に出会うことは最高の感動ではありますが、同時に取り組み過程そのものを経験することで、将来保育・教育に携わる者に求められる力と自信と夢を獲得してもらいたいと思います。なお、島根県民会館での開催にあたり、会場設営や当日の進行は、公益財団法人しまね文化振興財団との連携で行われています。

◆ 全国の特別支援学校をつなぐ遠隔社会見学

肢体不自由のある児童や生徒は外出に困難を伴いやすく、遠隔地で社会見学を行うことが困難です。そこで、保育教育学科 西村健一准教授は、ソフトウェア開発のOKI ワークウェル(東京都港区)と協力し、全国の肢体不自由特別支援学校と「遠隔授業ソリューション」で結び、

合同で遠隔社会見学を実施しました。平成30年度は、江津清和養護学校が山陰から初めて参加しました。10月23日に国立天文台と全国8校を結び、仮想宇宙空間シミュレーションソフト「Mitaka」を使用して太陽系惑星や天の川の説明を受けました。江津清和養護学校の児童からは月の満ち欠けに関する質問が出され、国立天文台の縣准教授より月の模型を使った説明を受けることができました。この取り組みは全国のテレビや新聞に取り上げられ、大きな反響が寄せられました。



◆ 障がい者アート作品による障がい理解拡充に向けた研究－島根県障がい者アート作品展を通して－

「島根県障がい者アート作品展」(主催:島根県・島根県社会福祉協議会)の公開審査において、保育教育学科 福井一尊准教授が審査委員長として協力しています。県内全域から作品が寄せられる本審査会は関係施設職員の研修の場としても位置づけられており、多くの参加者との意見交換を交えながら進めら



れます。作品は島根県立美術館にて公開され、毎年多くの来場者に楽しんでもらっています。

この取り組みは、県内における障がい者理解の拡充を目的としていますが、アートとしての訴求力を適正に評価し、公表することで作者の自立支援につなげるという大きな目標もあります。そのため平成25年の「しまね県民福祉大会」シンポジウムでは、テーマを「障がい者アートの魅力と可能性」とし、福井准教授がコーディネーターを務めました。また平成26年には、全国に先駆けて「障がい者アートを活用した商取引に係るガイドライン」を、福井准教授が委員長となり整備しました。

そして、平成30年には、これまでの本取り組みをまとめ、障がい者アートの魅力を紹介する書籍「しまねの障がい者アート」(福井准教授 編著)を出版し、福祉施設、学校等において広く活用してもらっています。

【地域文化学科】

◆ 地域文化論Ⅱ

異文化理解、神話、歴史、観光を専門とする教員4名が、島根県の文化を「出雲」という視点で講義を行います。神在月や出雲神話、神楽などを学んだ後、佐太神社・鹿島歴史民俗資料館への見学を実施しました。また神在祭が行われる万九千神社の錦田剛志宮司の講演により、神道文化が島根に根づき、脈々と継承されているを感じ取りました。さらに松江城、松平不昧を学習して松江城フィールドワークを行い、近現代に観光資源として活用される在りようについても学びます。出雲文化について英語で表現を試みることも、この授業のユニークな点です。「出雲」文化を時代にわたって学び、国際化時代にあってどのように魅力を発信するか、学生に考えるきっかけを与える授業になればと思います。



◆ しまね文学探訪

島根ゆかりの文学作品を読んで、作品の舞台となった土地を実際に訪れ、五感を通して文学を感じてみました。平成30年度は地域文化学科1年49名が受講しました。小泉八雲「神々の国の首都」、志賀直哉「濠端の住まい」、森鷗外「キタ・セクスアリス」、斎藤茂吉「手帳の記」などについて、岡部康幸先生の講義を受け、5月には松江



城周辺や加賀（かか）の潜戸を巡り、7月には1泊2日で島根県西部（石見）地方を探訪しました。西部地方の探訪は、ちょうど広島・岡山に甚大な被害をもたらした豪雨の時期と重なりましたが、なんとか無事に日程を終えることができました。探訪のまとめとして、グループごとに写真と言葉によって発表しました。西部地方の探訪のまとめでは、柿本人麻呂・斎藤茂吉にあやかり、短歌の創作にも挑戦しました。

◆ しまね歴史探訪

地域文化学科1年生を対象とする本科目では、島根県を構成するかつての出雲国・石見国・隠岐国の歴史を学修します。授業は講義・フィールドワーク・プレゼンテーションを3本の柱とし、講義の一部にはグループワークを取り入れています。このような授業構成とし

たのは、今後学生たちが地域の歴史を説明する際、文字で説明する機会よりも口頭で説明する機会の方が多くなると考えたためです。フィールドワークでは、グループワークで行った江戸時代の松江城下町絵図の分析を踏まえ、江戸時代の絵図と現在の地図を比較しながら松江の町中を歩きました。授業で取り上げた松江の事例を参考に、今後は学生各自が地域で歴史の痕跡を発見し、その魅力を発信してくれることを期待しています。

【保育学科】

◆ 学生の主体的な学びの形成に資する保育者養成プログラムの構築

保育学科教授 梶谷朱美／講師 渡邊寛智／講師 中井悠加／保育教育学科准教授 小山優子

本研究は、平成30年度に保育学科に新設された「保育内容演習Ⅰ・Ⅱ」の通年授業を通して、学生の主体的な学びの形成に資する効果的な保育士養成プログラムを開発することを目指した共同研究です。本授業では、保育内容の5領域を統合した、歌・手遊び・パネルシアター・人形劇・演劇等の表現活動を創作し、キッズシアターと名付けた1月の発表会に向けて通年で準備をしています。



それと同時に、10月の飛鳥祭（大学祭）では2日間にわたりキッズランドとして子ども向けの参加型遊び場ブース（ものづくりコーナーとあそびコーナー）を企画・運営し、2日間で延べ200近くのご家庭にお越しいただきました。学生は様々な資料を集め、来場して下さる子どもの年齢に応じた興味、心身の発達状況、安全面等に考慮して企画・準備を行いました。キッズランドは盛況で、両日ともご来場くださったご家族もいらっしゃり、学生たちからも喜びの声が聞かれました。キッズランド開催後は自分たちで見つけた課題や反省点を生かしながら、学生は子ども理解を深め、保育活動のデザイン力となる基礎を身に付けようとしています。地域の中で子どもたちが安心して楽しめる、わくわく感のある環境をこれからも提供し続けたいと考えています。その中で、地域の子どもたちと共に成長しながら、主体的に魅力的な保育・教育を展開できる将来の保育者育成をめざし、今後もカリキュラム改善に努めます。



【総合文化学科】

◆ フィールドワークへのいざない

＜総合文化学科研修計画Ⅰ＞

1年生の夏季休暇中に大田市大森町で実施する2泊3日のフィールドワークに向け、フィールドワークや文化資源に関する基礎知識と、石見銀山および大森町に関する予備的な知識を身につけます。その上で、大森町の歴史・社会・文化について、問いを立て、その問いに対する仮説と検証方法を考えます。

＜総合文化学科研修Ⅰ＞

1年生の夏季休暇中に大田市大森町で2泊3日のフィールドワークを行います。「総合文化研修計画Ⅰ」で作成した実施計画案に基づき、グループに分かれて、聞き取りを行ったり、調査したりしながら、仮説を検証していきます。実際に検証していく過程で、人とのコミュニケーションの難しさを実感したり、仮説や検証方法の甘さ・未熟さに気づいたりします。このような体験が今後の学びの刺激につながります。

本研修を通して、学生たちはフィールドワークの楽しさや難しさを体感します。また、実際に様々な体験をすることを通して、地域の社会や文化に対する興味・関心を高めていきます。



◆ 島根の魅力を英語で発信—文化とガイド—

松江を中心に、山陰両県の観光スポットを英語で効果的に説明できるようになることを目標とし、そのために必要な語彙や情報を学びながら、山陰の文化や歴史の知識を深めます。また、ガイド実践などを通して、実際のガイドに役立つレベルのコミュニケーション能力と英語の語彙・表現力を向上させます。

(2) 全学共通「しまね文化論」の開講

人間文化学部1年生の共通科目として「しまね文化論」を開講した。人間文化学部は、地域に愛着と誇りを持ちながら、地域に根差し、地域に活躍できる人材の育成を目指しており、本授業はその重要な科目と位置付けられている。

島根県が有する豊かな特色ある地域文化・地域資源について、各回のテーマに相応しい専

専門家や実践者をお招きし、文化の歴史的背景やその価値、文化を継承する上での課題や取組みなどをご講義いただき、地域の皆様にも本授業を公開した。



また、世界遺産石見銀山にてフィールドワークを行うことで、それまで座学で学んだ知識を一層深めることができた。

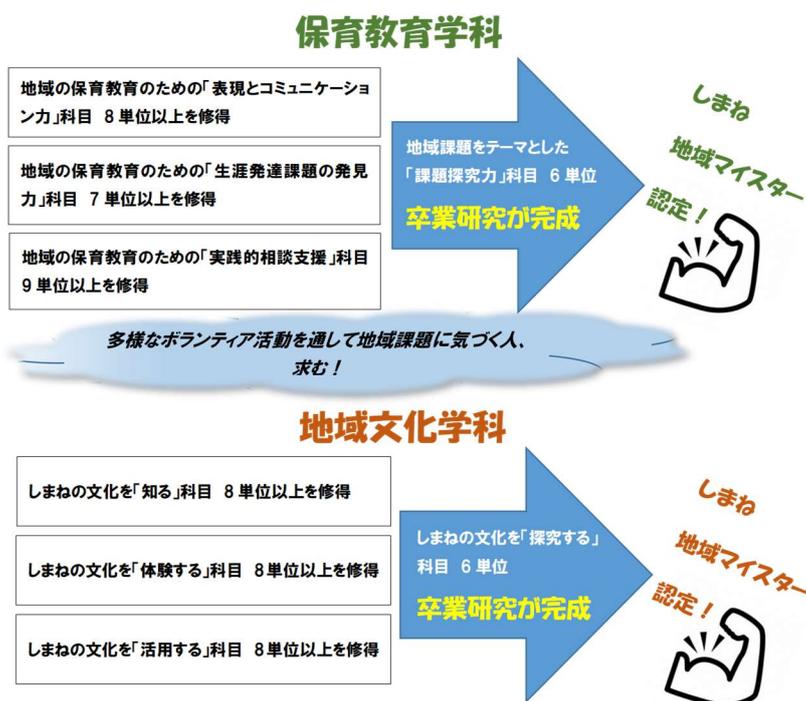
【公開した講義内容】

神々の国しまね(1)(出雲大社)	千家和比古氏(出雲大社権宮司)
神々の国しまね(2)(神話)	錦田剛志氏(万九千神社宮司)
しまねの日本遺産(たたら製鉄)	田部長右衛門氏(田部家25代当主)
しまねの地質遺産(隠岐世界ジオパーク)	野辺一寛氏(隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会)
しまねの世界遺産(石見銀山)	仲野義文氏(石見銀山資料館館長)
しまねの自然	中村唯史氏(島根県立三瓶自然観)
しまねの食文化(1)(松江の茶文化)	中村寿男氏(中村茶舗代表取締役)
しまねの食文化(2)(出雲風土記と島根の食文化)	吉野勝美氏(大阪大学名誉教授)
しまねの国宝(松江城)	ト部吉博氏(元松江市松江城調査研究室長)
しまねの伝統芸能(神楽)	藤原宏夫氏(島根県教育庁文化財課)

上記の他、大多和弥生氏(松江歴史館学芸員)、クララ・クマガイ氏(津田塾大学他非常勤講師)にもご協力いただいた。

(3) しまね地域マイスター制度 (人間文化学部)

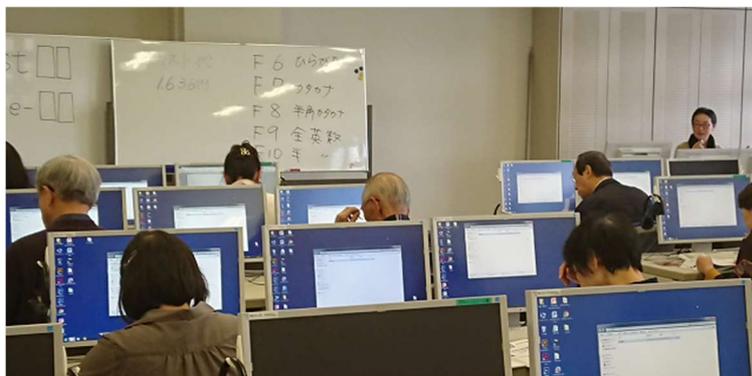
松江キャンパス人間文化学部は、学部設立と同時に「しまね地域マイスター認定制度」を開始した。地域の諸課題を自主的に探究し、各学科で定めた要件をすべて満たし、優秀な成績を修めた学生に対して、卒業時に「しまね地域マイスター」の称号を授与する。本制度は登録制で、すでに多くの学生がマイスター取得を目指して学業に励んでいる。



2) 「社会人の学び」公開講座・講演会等の開催

(1) 公開講座の開催

松江キャンパスでは、生涯教育、地域教育の拠点として公開講座を実施している。受講者は「椿の道アカデミー」の会員に登録することで、公開講座のほか松江キャンパス図書館の利用、公開授業等への参加が出来る。平成30年



度は「履修証明プログラム」を引き継いだパソコンのスキルアップ講座を含む全14講座を開講した。四年制化に伴う体制準備のため講座数が縮小したことにより、会員登録数は203名、延べ受講者数は1,351名であった。

また、今年度も広報において、松江市、島根県の協力を得て、まつえ市民大学生への案内、新聞広告、情報テレビ番組等による宣伝を行った。

(2) 客員教授による講演会

平成30年度も各学科で客員教授による講演会を実施し、椿の道アカデミー会員や一般に公開した。各学科の客員教授講演会の概要は以下のとおりである。

【保育教育学科】

筑波大学人間系教授 園山繁樹氏

平成30年7月21日（土）「幼児期・児童期の特別支援における連携・協働・チーム力―自閉症や場面緘黙のある子どもたちの支援を通して―」

【地域文化学科】

島根県隠岐郡海士町前町長 山内道雄氏

平成30年10月24日（水）「ないものはない～離島からの挑戦～」

【保育学科】

島根県教育魅力化特命官 岩本悠氏

平成30年12月15日（土）「魅力ある教育環境作り」

【総合文化学科】

広島大学大学院文学研究科教授 有元伸子氏

平成 30 年 12 月 12 日（水）「三島由紀夫の最後の小説『豊饒の海』を読む」

(3) 「山陰地域限定特例通訳案内士平成 30 年度フォローアップ研修」の実施

(一社) 山陰インバウンド機構主催により、地域限定通訳案内士のフォローアップ、地域限定通訳案内士と旅館・ホテル等事業者とのマッチング、観光等に興味のある学生に対する地域限定通訳案内士や観光業務の紹介を目的として、平成 30 年 10 月 20 日（土）に松江キャンパス体育館研修室他会場にて実施した。約 70 名（内本学学生 2 名）の参加があった。

3) 地域（自治体・機関）との連携

(1) 自治体との連携

① 松江市との教育連携協議会

松江キャンパスは、平成 19 年度に松江市との協力協定を締結し、その後は協定を踏まえ、教育連携協議会の開催や「公開講座」でまつえ市民大学と連携するほか、松江市主催行事に本学教員と学生が協力するなど連携を強化している。正課教育において、松江市職員を非常勤講師とする複数の専門科目講義・実習、松江市立施設・学校における実習も継続して実施している。このような緊密な教育上の連携を踏まえて、平成 31 年 3 月 18 日に松江市と教育連携協議会を開催し、実習協力や講師派遣について実務的な連携について協議した。

平成 30 年度 教育連携協議会・しまね地域共生センター運営会議

会 場： 島根県立大学松江キャンパス カメリアホール

日 時： 平成 31 年 3 月 18 日（月） 13 時 30 分～15 時

議 事： 松江キャンパス新体制について

松江市の諸団体との連携・協力状況について

学科ごとの連携実績

しまね地域共生センターの取り組みについて

出席者： 松江市政策部次長、政策企画課副主任、教育委員会次長、子育て部子育て政策課長、産業経済部定住企業立地推進課長、観光振興部次長、発達・教育相談支援センター所長、松江キャンパス副学長、人間文化学部長、短期大学部長、地域連携推進委員長、キャリア委員長、国際交流委員長、地域連携推進委員、事務室長、地域連携課長

②松江市立女子高等学校との連携

平成30年10月14日、松江市立女子高等学校1年生のキャリア教育推進に協力し、1年生全員(100名)のキャンパス見学と模擬授業、および卒業生交流会を実施した。模擬授業は、地域連携推進委員会から渡邊寛智講師による「唱歌・童謡と現代の音楽、そして未来の音楽について考えてみよう!」というテーマで行われた。講義後は、松江市立女子高等学校出身の本学学生(6名)が大学生活についての発表を行った。



(2) 正課授業における連携協力

【保育教育学科専門科目における連携協力】

保育教育学科専門科目「保育実習Ⅰ(保育所)指導」(1年後期選択科目・1単位)の非常勤講師として、松江市立御津保育所長の青山啓子講師により、保育実習を行う意義や心構え、保育所での幼児の生活や教職員の仕事などについての講義が行われた。

【地域文化学科専門科目における連携協力】

◆ 観光と地域資源(工藤泰子)

- ・株式会社田部の皆様
- ・高木朋美氏、藤原洋氏(一般社団法人 鉄の歴史村地域文化研究所)
- ・朝日光男氏、田部富雄氏(菅谷高殿・山内生活伝承館施設長)

雲南市吉田町フィールドワークにおける現地案内・解説

- ・高木朋美氏(一般社団法人 鉄の歴史村地域文化研究所)

雲南市吉田町フィールドワークにおける事前学習

- ・アリス・ゴードンカー氏(山陰インバウンドアドバイザー)

講演「山陰の観光資源の魅力」*東芝国際交流財団との連携による

◆ まちづくりと協働(竹田茉耶)

- ・山下武之氏(NPO法人松江サードプレイス研究会/山下プランニングルーム)

講演「まちづくり～これまでとこれから～」

- ・花形泰道氏(松江市観光振興部次長兼観光文化課長)

講演「まちづくりと協働～松江市の観光を事例に～」

◆ 観光まちづくり論(竹田茉耶)

- ・福井善朗氏（一般社団法人山陰インバウンド機構 代表理事）
講演「日本版 DMO の機能と課題～山陰インバウンド機構の現場から～」
- ◆ しまねのまちづくり（藤居由香）
- ・県央県土整備事務所 土木工務第二課
吾郷慎治氏（課長）、高橋成治氏（主任技師）、中村大稀氏（技師）
防災まちづくりとして、土砂災害の講座と、砂防堰堤の現地解説
- ・小笠原清氏（邑南町役場建設課土木係長）
しまね景観賞を受賞した、砂田川ふるさと防災事業及び公園化事業地での現地解説
- ・藤井勇輝氏（邑南町役場農林振興課 食と農産業戦略室主任主事）
消費生活まちづくりとして、A級グルメに関わる施策の講座
- ・陶山知政氏（松江市歴史まちづくり部都市政策課計画係長）
都市計画・都市マスタープランの講座
- ・飯塚晃一氏（松江市歴史まちづくり部まちづくり文化財課歴史まちづくり係長）
歴史まちづくりの講座
- ・古瀬雅章氏（松江市歴史まちづくり部まちづくり文化財課文化財保護係長）
文化財保護行政の講座
- ◆ スタートアップセミナーⅡ
- ・花尻哲郎氏（日本銀行松江支店長）
講演「キャリア形成について考える」
- ◆ キャリアデザインⅠ
- ・中小企業家同友会会員企業 15 社
トーク交流カフェ

【保育学科専門科目における連携協力】

- ◆ 表現とコミュニケーション
- ・特定非営利活動法人あしづえ
園山土筆氏、有田幸氏、前村晴奈氏
- ◆ 保育内容 健康
- ・藤原洋子氏（雲南市子ども政策局）
- ◆ 障害児保育Ⅰ
- ・松江市発達・教育相談支援センター
小脇洋氏（所長）、梶原晴美氏（指導主事）、武藤裕子（指導主事）

【総合文化学科専門科目における連携協力】

総合文化学科専門科目においては、以下の通り、学外の専門職現任者および経験者による授業や協力が行われた。

◆ 「日本語表現演習」

- ・平井伸治鳥取県知事

講演内容：山陰からの挑戦 この国のふるさとづくり

- ・松尾修司氏（島根労働局 雇用環境・均等室 室長補佐）

講演内容：男女雇用機会均等法

- ・吉野勇樹氏（島根労働局 労働基準部監督課長）

講演内容：働き始めておかしいと気づいたら

◆ 「妖怪学」

- ・庄司行男氏（元境港市職員／水木しげる記念館館長）

講演内容：さかなと鬼太郎のまち境港市

◆ 「インテリアと文化」

- ・公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会

田中美恵子氏（中国支部長）、木場環氏（中国支部）

滝口隆男氏（西日本支部 四国部会代表）片山仁子氏（四国部会副代表）

内容：経済産業省事業「標準化セミナー」（講義・グループ演習）

◆ 「日本古典文学を歩く」

- ・荒川優司氏（株式会社日立金属安来製作所）

内容：安来市立金屋子神話民俗館における案内・解説

- ・吉川武行氏（雲南市観光ガイドの会）、藤原奈保美氏（雲南市観光協会）

内容：雲南市におけるヤマタノオロチ伝承地の案内・ガイド

- ・今井智恵氏（八雲立つ風土記の丘学芸員）

内容：島根県立八雲立つ風土記の丘展示学習室・ガイダンス山代の郷における解説・案内

◆ 観光まちづくり論（竹田茉耶）

- ・橋本孝氏（出雲市経済環境部次長 兼 観光課長）

講演内容：地方自治体におけるまちづくり・観光振興

◆ 卒業プロジェクト 観光文化ゼミ

- ・仲野義文氏（石見銀山資料館館長）、朝日光男氏（菅谷高殿・山内生活伝承館施設長）、

公益財団法人しまね文化振興財団 島根県民会館 施設利用課の皆様

内容：石見銀山、雲南市フィールドワークにおける現地案内・解説

◆ 卒業プロジェクト 住居・まちづくりゼミ

- ・林健亮氏（島根県立古代出雲歴史博物館 学芸情報課長）
内容：瓦の拓本ワークショップ
- ・島根県土木部都市計画課景観政策室主催
内容：ワークショップ「しまね景観賞×〇〇＝景観を活かしたまちづくり」参加
- ・松江市歴史まちづくり部まちづくり文化財課
内容：「市民憲章 歴史のまち歩き―神々が坐す港町、美保関を巡る―」参加
- ◆ 卒業プロジェクト 東南アジア史ゼミ
- ・岩田和美氏（島根県 JICA デスク国際協力推進員）
講演内容：「カンボジアで教えたこと・教えられたこと～青年海外協力隊の活動を通して」
- ◆ 「総合文化研修Ⅰ」
- ・連携先：大田市石見銀山課、株式会社石見銀山生活文化研究所、中村ブレイス株式会社

【キッズ・イングリッシュの英語絵本読み聞かせ活動】

平成30年の「キッズ・イングリッシュ」（担当はダスティン・キッド講師、総合文化学科2年春学期）受講生12名は、おはなしレストランライブラリーで「英語絵本の読み聞かせを行った。6月から7月にかけて、絵本や紙芝居の読み聞かせと歌や手遊びなどを組み合わせ、20分程度の時間で計8回実施し、10月には大学祭企画の一つとして、同様の内容で「読み聞かせ」を実施した。また、5月から7月にかけて、乃木小学校で朝の読み聞かせを計6回実施した。

学生たちは、出版されている絵本だけでなく、授業で作成した教材なども用いて、児童英語実践活動を行うことができた。子どもたちだけでなく保護者も一緒になっての活動となった。また、学生の実践力向上にとって貴重な体験となった。

(3) 教育機関等との連携―保・幼・小・中・高・大の教育連携

初等中等教育機関との教育連携については、平成18年度の協定締結以降、各学科における松江市立幼保園のぎ・松江市立乃木小学校・松江市立湖南中学校・松江商業高校との緊密な連携協力のもと、教員による特別授業のほか、学生による読み聞かせの実践等の連携事業を実施し、教育的成果をあげている。

① 連携校

新しく生まれ変わった松江キャンパスは、平成30年4月25日、松江商業高校、湖南中学校と三者教育連携協定を、平成30年5月21日、乃木小学校、忌部小学校、忌部幼稚園、幼保園のぎと五者教育連携協定を、それぞれ新たに締結した。本学は、これまでも教職員相互

の研修・授業参観のほか、学生による、絵本の読み聞かせ、図書館ボランティア、学習補助ボランティア、イベントの手伝い等、多彩な形で交流を深めてきた。今後は4大化に伴う教育の専門化により、連携機会のさらなる拡充をはかる。



平成30年度は、地域文化学科中野洋平講師（民俗学）による湖南中学校での出前講義、同学科クリス・ラング准教授（英語教育学）の講義見学会（松江商業高校の先生方）などを行った。



また、本学は、松江市立女子高校との交流を続けており、保育学科渡辺一弘教授による講義のほか、10月には、1年生100名と先生方5名が本学を訪れ、保育学科渡邊寛智講師の模擬講義、学内見学後、同高校の卒業生6名との交流会を行った。

今後も、より良い教育環境づくりを推進し、地域の教育機関との連携を進めていきたい。

②松江キャンパス教育機関との連携事業

平成30年度松江キャンパス教育機関との連携事業

機関名	担当者	内容	期間	参加者他
松江市立忌部小学校	高橋 泰道（保育教育学科教授）	生活単元学習（実験教室特別授業）	平成30年11月2日	特別支援学級 2名対象
松江市立忌部小学校	高橋 泰道（保育教育学科教授）	理科（実験教室特別授業）	平成31年2月5日	6年生 29名対象
安来市立島田小学校	高橋 泰道（保育教育学科教授）	プログラミング教育の授業	平成31年3月19日	2年生 30名対象
松江市立雑賀小学校	福井 一尊（保育教育学科准教授）	文化庁の派遣により、図画工作科の特別授業を実施した	平成30年10月10日	2年生 2時間
島根県立平田高等学校	藤居 由香（地域文化学科准教授）	授業 高校2年生が作成した地域活性化案に対する指導助言	平成30年10月29日	2年生 120名（50分×3クラス）を対象
島根県立出雲高等学校	増原 善之（地域文化学科准教授）	スーパーサイエンスハイスクール（SSH）・スーパーグローバルハイスクール（SGH）事業「課題研究」ゼミ別講義（講義・ディスカッション）	平成30年7月12日	2年生 3グループ（15名）
		同ゼミ別中間発表会（ディスカッション・講評）	平成30年10月11日	2年生 8グループ（39名）

機関名	担当者	内容	期間	参加者他
		同ゼミ別成果発表会 (ディスカッション・ 講評)	平成 31 年 1 月 31 日	2 年生 8 グ ループ (39 名)
松江市立湖南中学校	中野 洋平 (地域 文化学科講師)	総合的な学習の時間 講演「地域探検学の魅 力」	平成 30 年 6 月 5 日	1 年生全クラ ス
島根県立出雲高等学校	中野 洋平 (地域 文化学科講師)	課題研究 外部連携指 導員	平成 30 年 7 月～平成 31 年 1 月	2 年生
島根県立出雲高等学校	中野 洋平 (地域 文化学科講師)	プロフェッショナルセ ミナー 講師	平成 31 年 2 月 14 日	1 年生
島根県古代文化センター	中野 洋平 (地域 文化学科講師)	テーマ研究「出雲神楽 の研究」 客員研究員	平成 30 年 8 月～	
島根県教育庁保健体育 課・島根県学校体育研究 連合会	梶谷 朱美 (保育 学科教授)	スポーツ庁武道等指導 充実・資質向上支援事 業～第 54 回島根県学校 ダンス指導者研修会講 師～	平成 30 年 7 月 30 日	参加者：島 根県内幼児 教育・学校 教育・社会 教育担当者 約 150 名
島根県教育庁保健体育 課・島根県学校体育研究 連合会	梶谷 朱美 (保育 学科教授)	スポーツ庁武道等指導 充実・資質向上支援事 業～島根県学校ダンス 授業研究会講師～	平成 30 年 11 月 22 日・平 成 30 年 11 月 29 日	参加者：島 根県内小・ 中学校体育 指導者約 50 名
島根県教育庁保健体育課	梶谷 朱美 (保育 学科教授)	スポーツ庁武道等指導 充実・資質向上支援事 業～平成 30 年度中学校 保健体育教員武道・ダ ンス研修会講師～	平成 30 年 9 月 20 日 21 日・平成 30 年 10 月 19 日	参加者：島 根県保健体 育教員約 50 名
島根県中学校保健体育科 研究会	梶谷 朱美 (保育 学科教授)	第 7 回島根県中学校保 健体育科研究大会講師	平成 30 年 11 月 21 日	参加者：島 根県保健体 育科教員約 100 名
島根県小中学校養護教諭 部会	梶谷 朱美 (保育 学科教授)	第 11 回島根県小中 学校養護教諭研究大会に 向けた研究指導講師	平成 30 年 10 月 31 日	雲南市教育 研究会養護 教諭部会 22 名

出張講座（高大連携）の状況

（大学への派遣依頼を受け、専門領域の講義を高校生向けに行った場合）

依頼先	担当者	講義テーマ	日時	参加者数
島根県立大田高等学校	高橋泰道 (保育 教育学科教授)	教職への道と理科教育	平成 30 年 7 月 5 日	40 名
島根県立平田高等学校	藤居由香 (地域 文化学科准教 授)	講演「地域の課題を解 決するために一平田木 綿街道の町並み景観 一」	平成 30 年 5 月 23 日	2 年生 120 名を対象
島根県立出雲高等学校	増原 善之 (地域 文化学科准教 授)	1 年生進路学習・職業 人による講演会・分科 講演「『大学教員』と いう仕事」	平成 30 年 10 月 18 日	1 年生 13 名

依頼先	担当者	講義テーマ	日時	参加者数
		スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業プロフェッショナルセミナー「外国人受け入れ問題 ～日本の「難民」受け入れ問題を中心に～」	平成 31 年 2 月 14 日	1 年生 30 名 ×2 回
松江市立女子高等学校	渡辺 一弘 (保育学科教授)	夢だんだんプロジェクト「大学の先生による出張講義」、幼児教育・保育についてー幼稚園の先生と保育園の先生ってどう違うの、こども園って何?ー	平成 30 年 7 月 24 日	2, 3 年生 29 名を対象

4) 教育課程のための地域の施設・機関との連携

(1) 保育教育学科・保育学科の実習施設・機関との連携

保育教育学科では「保育実習Ⅰ(保育所)」、保育学科では「保育実習Ⅰ(保育所・施設)」及び「保育実習Ⅱ」について、「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について(厚生労働省雇児発第1209001号)」にもとづき、各学科が実習施設を選定して実習指導委員会を設けている。毎学年度の始めに、この委員会の協議によって保育実習計画を策定している。

①保育教育学科

平成 30 年度 保育教育学科実習実施施設・機関

区分	所在	施設・機関名	備考
保育所	島根県松江市	愛恵保育園、しらとり保育所、しらゆり保育園、袖師保育所、嵩見保育所、なかよし保育園、なの花保育園、虹の子保育園、松江市立城東保育所、松江市立白濁保育所、松江ナザレン保育園、松江保育所、みどり保育所	1年後期・保育実習Ⅰ(保育所)
	島根県出雲市	出雲市立直江保育所、おおつか保育園、たちばな保育園、ハマナス保育園、ひらた西保育園、ひまわり第2保育園、みなみ保育所	
	島根県雲南市	雲南市立大東保育園、雲南市立三刀屋保育所	
	島根県安来市	安来市立切川保育所、安来市立認定こども園安田	
	島根県大田市	サンチャイルド長久さわらび園	

②保育学科

平成 30 年度 保育学科実習実施施設・機関

区分	所在	施設・機関名	備考
保育所	島根県松江市	松江市立城東保育所、松江市立白瀧保育所、しらとり保育所、しらゆり保育園、つわぶきこども園、なかよし保育園、みどり保育所、愛恵保育園、ふたば古志原こども園、松江ナザレン保育園、松江保育所、松尾保育所、袖師保育所、虹の子保育園、法吉保育所、ひよし保育園、あおぞら保育園、みつき保育園、こばと保育園、みのり黒田保育園、なの花保育園	1年前期・保育実習Ⅰ (保育所) 2年前期・保育実習Ⅱ (保育所)
	島根県出雲市	出西保育園、出雲市立直江保育所、ひまわり第二保育園、ハマナス保育園、荒茅保育園、出西保育園、おおつか保育園、あすなろ保育園、たいしや保育園、西園保育園、外園保育園、たちばな保育園	
	島根県雲南市 島根県仁多郡奥出雲町	雲南市立斐伊保育所、たちばら保育園、かもめ保育園 八川保育所	
	島根県安来市	安来市立認定こども園安田、安来市立認定こども園荒島、ふたばこども園	
	島根県大田市	サンチャイルド長久さわらび園、認定こども園あゆみ保育園	
	島根県邑智郡邑南町	高原保育園	
	島根県浜田市	三隅保育所	
	島根県隠岐の島町	隠岐の島町立下西保育所、隠岐共生学園第二保育所	
	鳥取県米子市	米子市立小鳩保育園、仁慈保幼園、キッズタウンかみごとうえんぜる保育園、米子市崎津保育園、成実保育園、米子聖園マリア園、加茂保育園	
	鳥取県境港市	夕日ヶ丘保育園、柗檀保育園	
	鳥取県西伯郡大山町	大山町立名和さくらの丘保育園	
	広島県三次市	三次市立みわ保育所、子供の館保育園	
	愛媛県宇和島市	丸穂園保育園	
	京都府福知山市 富山県下新川郡入善町	みどり保育園 入善町立にゅうぜん保育所	
児童福祉施設等	島根県松江市	島根県中央児童相談所、松江赤十字乳児院、双樹学院、島根東光学園、松江学園、東部島根医療福祉センター、国立病院機構松江医療センター、島根県立わかたけ学園、しのめ寮、児童発達支援センターやましろ、児童発達支援センターのぎ	2年前期・保育実習Ⅰ (施設)
	島根県出雲市	児童心理療育センターみらい	
	島根県安来市	安来学園、櫻苑	
	島根県浜田市	聖煌寮、こくぶ学園	
	島根県隠岐の島町	仁万の里児童部	
	鳥取県米子市	米子聖園天使園	
幼稚園	島根県松江市	松江市立幼保園のぎ、松江市立城西幼保園、松江市立古志原幼稚園、松江市立津田幼稚園、松江市立竹矢幼稚園、松江市立大庭幼稚園、松江市立城北幼稚園、松江市母衣幼稚園、松江市立川津幼稚園、松江市立講武幼稚園、松江市八雲幼稚園、松江市立玉湯幼稚園、育英幼稚園、松江暁の星幼稚園	2年前期・後期・教育実習
	島根県安来市	安来市立認定こども園母里	
	島根県出雲市	出雲市立西野幼稚園、出雲市立荘原幼稚園、出雲市立四絡幼稚園、出雲市立塩冶幼稚園、出雲市立荒木幼稚園、出雲市立稗原幼稚園、出雲市立長浜幼稚園、出雲市立神門幼稚園、出雲市立神西幼稚園、認定こども園北陵幼稚園	
	島根県雲南市	雲南市立加茂こども園、雲南市立木次こども園	
	島根県大田市 鳥取県米子市	大田市立大田幼稚園 米子みどり幼稚園、認定こども園みずほ幼稚園、東みずほ幼稚園、良善幼稚園、にしき幼稚園、聖心幼稚園、美哉幼稚園	

この実習施設・機関により構成された実習指導委員会で策定された実習計画により、実習全体の方針、実習の段階、内容、施設別の期間、時間数、学生の数、実習前後の学習に対す

る指導方法、実習の記録、評価の方法が明らかにされている。

また、実習生、実習施設の指導者、本学実習担当教員が、それぞれ緊密に連絡をとりながら実習の効果を十分発揮するように努めている。

「教育実習」については、原則的に実習指導委員会を設けるが、学生が自主的に地元等の実習幼稚園を選定する場合は個別に対応している。実習生、実習幼稚園の指導教員、本学実習担当教員が、それぞれ緊密に連絡をとりながら、実習の効果を十分発揮するように努めている。

5) 学生による地域貢献活動

(1) 学生の自主的なボランティア活動

平成 22 年度より、島根県立大学「学生地域ボランティア活動推進事業」の一環として、学生のボランティア保険加入を支援している。平成 30 年度の学生のボランティア保険加入者は、415 名。また学生の主な活動先は、以下のとおりであった。

■ 障がい者・高齢者支援ボランティア

東部島根医療福祉センター、松江市総合福祉センター、島根ライトハウス、島根県東部発達障がい者支援センター ウィッシュ

独立行政法人 国立病院機構松江医療センター

■ 保育所・幼稚園・学童保育ボランティア

幼保園のぎ、みのり保育園、みのり黒田保育園、松江暁の星幼稚園、比津ヶ丘保育園、大庭幼稚園、松江市立乃木小学校（放課後のぎっこ広場）

■ 松江市立湖南中学校 学習支援、図書館整備、環境整備

■ 松江市国尾自治会 夏祭り、芋煮会、乃木文化祭、グラウンドゴルフ大会

■ 島根県立青少年の家 サン・レイク

■ 国立三瓶青少年交流の家

■ 大山 森の国「大山サマーキャンプ」「大山スキーキャンプ」

■ 第 25 回 えびす・だいきく 100km マラソン大会 運営補助スタッフ

■ 第 1 回 国宝松江城マラソン 運営スタッフ

■ 松江シティフットボールクラブ 試合運営スタッフ

■ 社団法人 島根県サッカー協会 親子サッカー教室

■ 第 38 回 全日本トライアスロン 皆生大会 運営補助スタッフ

■ 松江市農林水産祭 運営補助スタッフ

■ 三井野原 北野りんご園 春・秋の作業補助

■ 松江総合運動公園 「親子元気ひろば」

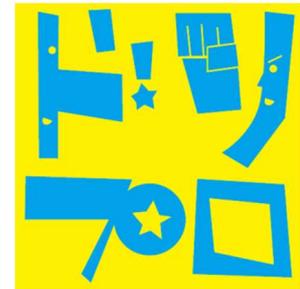
- 境港センター冷蔵（株）主催 技能実習生向け日本語学習会
- 川津青少年育成協議会「ダイバーシティキャンプ」サポーター

この他、島根県内外の多くの地域イベントや保育園（所）・幼稚園、小学校、公民館などにおいて、個人でボランティア活動を行った。

(2) キラキラドリームプロジェクト

【概要・目的】

平成 25 年度から始まった当事業は、学生の自主的に企画する独創的なプロジェクトに対して、大学が費用を補助し、夢の実現を支援する。学生の自主性・積極性・創造性を思う存分発揮できる機会を提供し、より充実した学生生活を送ってもらうことを目的としている。



【募集テーマ】

テーマ・分野は限定せず、地域の課題解決アイデア、大学の学びを活かした事業、食や観光など松江の特色を活かした事業、大学生活がもっと楽しくなるアイデア等、学生が自由に設定。アイデアのみではなく、実施に向けての具体性のあるプランを募集する。平成 30 年度は 1 組の学生団体のエントリー・採択を受けた。

活動紹介（ドリプロ報告書より抜粋）

■ 公開審査会の様子



✓ドリーム枠（採択額 21 万円）

チーム名：ラオス広報部

プロジェクト名：ラオスドリームプロジェクト

～広げよう！ラオスに繋げる支援の輪～

■ プロジェクトの目的

ラオスは発展途上国であり、支援が必要とされているにも関わらず知名度が低く名前すら知られていないことも多いです。支援を必要とする国はまだまだたくさんあり、どの年代の人でも実行することができるということを「ラオス広報部」として広報していきます。また、自らも支援活動を行い、メリット・デメリットの調査などを通して、どのようにして支援活動を広めていけるか考案し、活動を行います。

■ プロジェクトの概要

主にラオスへの「支援活動」とラオスの「広報活動」の2つを行う。

■ 活動内容

① フリーペーパー、ポスターの作成

→高校訪問の際にポスターを渡した。また、フリーペーパーはイベントに参加した際に、来場者に配布した。

② 飛鳥祭での模擬店出店

→ラオス料理の提供と、ラオスの国旗の缶バッジ無料作成体験を行った。

③ 市内の高校への訪問

→島根県立松江商業高等学校、島根県立松江農林高等学校、松江市立女子高等学校へ訪問し、高校生と共にラオス料理を作った。

また、ラオスについてのプレゼンテーションも行った。

④ 絵本を送る運動

→シャンティ国際ボランティア団体から絵本を購入し、その絵本にラオス語の翻訳シールを貼り、再びシャンティ国際ボランティア団体を通してラオスへ絵本を届けた。

翻訳シールの貼り付け作業は、本学のおはなしレストランライブラリーにて、利用者の親子連れの方々と共に行った。



飛鳥祭当日の集合写真

⑤ しまね大交流会への参加

→ブースを出展し、フリーペーパーの配布・プレゼンテーションを行った。

⑥ JICA中国 SDGs イベントへの参加

⑦ KENDAI 縁結びフォーラムへの参加

■ 活動を通して

私たちは、今回のプロジェクトを通してより多くの方にラオスを知っていただくことを目標として活動を行ってきました。このプロジェクトを進めていくうちに、ラオスの知名度の低さや、支援方法の認知度の低さを知りました。ラオスが発展途上国であり、教育の格差の問題がアフリカやカンボジアと引けを取らないレベルで存在しているにもかかわらず、知名度が低さからほかの国に比べて「支援が必要な国だ」という認知がされていないことが分かりました。

また、ラオスについての調査を進めていくうちに、日本との意外な関係性や歴史背景、文化などについても知ることができました。何より、教育格差が生まれる原因はただただ「山間部だから」という理由だけでなく、「下の子供たちの子守をするため」「親が教育の大切さを知らないため学校に行かせてもらえない」など様々な問題があり、学校に行くことが出来ない子供たちが多くいるのだと知って驚きました。教育格差が生まれる背景には教育に対する考え方、暮らしている地域環境が深く関わっており、当てもないまま絵本を送っても何の意味もないのだと思いました。

併せて、教育格差の問題だけでなく医療技術の遅れやまともに治療を受けられない子供たちがいるという問題も知りました。今後は教育格差に対する支援活動だけでなく、医療に関する支援活動も行っていこうと思います。

支援活動の面では、絵本40冊をシャンティ国際ボランティア会協力のもとラオスに配送しました。翻訳シールを貼る作業を子供たちと保護者の方々と行いましたが、「いい経験をさせてもらいました」「簡単なのでぜひ今度もやってみたいです」という言葉を多くいただきました。今回行ったのは『絵本を送る運動』のみだったため「ほかに何か支援活動はないのか」「ほかの活動も知りたい」という声もいただきました。支援団体、活動はあるものの、ラオスと特定して支援活動をしているところはないため、今後は「支援活動は行われているがあまり知られてない国の支援方法の提示」をしていこうと思いました。

広報活動の面では、まず飛鳥祭で「ラオス」に対するお客さんの反応を確認しました。最も多かった反応は「ラオスって何？」でした。改めて感じたのは「知名度が低さは支援活動の行われにくさにつながる」という課題でした。それはラオスだけに限らずミャンマーやアフガニスタンにも言えるのではないかなと思いました。

そこで、フリーペーパーを大幅に変更し、まずはラオスという国に興味を持ってもらうことと、支援活動の明示に重点を置き、作成しました。そのフリーペーパーを島根大交流会や

高校訪問で配布し、約350人近くの方に紹介をしました。

今後は、島根県内だけでなく、東京などにも進出し、より多くの人たちにラオスという国について知ってもらいたいと思います。そして、私たち以外にもラオスを支援する賛同者や、今後ともこの活動を継続してくれる人を増やしたいと考えています。また、高校訪問を行ったときには「大学に入ったら何か新しいことを始めてみたい。ぜひこの支援活動に参加したい」という声や「楽しく学ぶことができました。ラオスだけでなくそのほかの国への支援もしてみたい」という言葉をいただきました。この活動によって松江農林高校、松江商業高校、松江市立女子高校にネットワークができました。今後は出雲の高校や浜田の高校などにもネットワークを広げていきたいと考えています。

(3) おはなしレストランライブラリーの地域連携活動



▲おはなしレストランライブラリーでの「おはなしのじかんスペシャル」

「読み聞かせの実践」は、保育教育学科1年の学生43名が受講し、幼保園のぎ、乃木小学校で読み聞かせの活動を活発に行った。

毎週日曜日におはなしレストランライブラリーで行う「おはなしのじかん」は、総合文化学科2年おはなしゼミの学生9名が担当し、本年度も多くの親子連れでにぎわった。とくにたなばた会、クリスマス会などのスペシャルバージョンの時には100名を超える来場者があり、おはなしゼミの学生も趣向を凝らした劇や読み聞かせで迎えた。

おはなしゼミでは、出前シェフの一環として、平成30年9月に沖縄県那覇市立開南小学校を訪問し、全校生徒を対象に絵本の読み聞かせを行った。学年ごとに読み聞かせに合わせて島根県の紹介も行い、

その後は校長先生はじめ教員の皆さま、読み聞かせボランティアの保護者の方々と交流会

H30.9.18(水) 15:15
場：那覇市立開南小学校
島根県立大学岩田崇作教授、学生の読み聞かせの様子



を持ち、楽しく有意義な時間を過ごすことができた。

ライブラリーの利用については、学外からの来館者を中心に年々増え続けている。

平成 30 年度 おはなしレストランの

読み聞かせ活動

- ◆松江市立幼保園のぎ：参加学生 43 名
- ◆松江市立乃木小学校：参加学生 43 名
- ◆松江市立忌部小学校：参加学生 9 名
- ◆ライブラリー：参加学生 9 名

おはなしレストランライブラリー

月平均の来館者人数・貸出冊数

(平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月)

学内：来館者 205 人、貸出 201 冊

学外：来館者 1,219 人、貸出 5,055 冊

平成30年度公開講座「椿の道アカデミー」開催状況

No.	講座名	開催日	講師	受講者数
1	総合文化講座（全9回）	「少女」像と日本の文化	6月6日 渡部 周子（総合文化学科）	54
		異文化体験を考える	6月27日 ダスティンキッド（総合文化学科）	52
		映画・映像文化と政治・社会～「しまね映画祭」上映作品に観る映画作家の自己表現～	7月11日 瓜生 忠久（浜田キャンパス総合政策学科）	37
		団塊の世代が求める家族とは―世界に一つしかないあなたの家族―	7月25日 平松 喜美子（出雲キャンパス看護学研究所）	37
		日本の教育の「これまで」と「これから」～国語の授業を中心に～	8月1日 古賀 洋一（地域文化学科）	34
		日本民俗芸能論―芸能の地方伝播と民俗化	9月26日 中野 洋平（地域文化学科）	31
		文化的背景と訪問看護の特徴	10月10日 阿川 啓子（出雲キャンパス看護学研究所）	38
		詩になることば	10月24日 山根 繁樹（総合文化学科）	31
	座敷わらしとバンシー～「妖怪の国」日本と「妖精の国」アイルランド	11月14日 小泉 凡（名誉教授）	36	
2	源氏物語は何を描いたか（全2回）	光源氏の生涯から見た源氏物語	10月17日 三保 サト子（名誉教授）	44
		紫の上の生涯から見た源氏物語	11月14日	42
3	出雲学概論（全5回）	大町桂月の出雲人論	6月15日	87
		古代出雲の繁栄と敗北	8月17日	79
		閉鎖世界の形成と出雲弁	8月31日 藤岡 大拙（元学長・名誉教授）	85
		敗北の揺曳	9月21日	78
		出雲人氣質	9月28日	73
4	椿の道読書会（全9回）	5月21日～2月18日	北井 由香（松江キャンパス図書館）	125
5	はじめての古文書（全10回）	5月17日～2月21日	杉 岳志（地域文化学科）	95
6	しまね消費生活まちづくり講座（全2回）	地域資源を消費する住生活	6月12日 藤居 由香（地域文化学科）	7
		消費者の買い物まちをつくる	7月10日	7
7	ワープロソフトWordで作る簡単なチラシ（全4回）	ワードの基本操作・設定	10月10日	13
		画像の加工・文字の配置	10月17日	12
		チラシ作成	10月24日	11
		チラシ完成・印刷の設定	10月31日	10
8	資格取得を目指す、ワープロソフトWord応用講座（全10回）	ワード操作の確認、ファイル・フォルダ操作	5月23日	7
		文字入力・編集	5月30日	8
		書式設定、インデント	6月13日	5
		段組み、作表	6月20日	5
		複雑な作表	6月27日	6
		図形・テキストボックスを利用した地図作成	7月4日 小倉 佳代子（非常勤講師）	6
		画像の配置、ページ設定	7月11日	6
		「コンピュータサービス技能評価試験ワープロ部門2級」試験対策①	7月18日	4
	「コンピュータサービス技能評価試験ワープロ部門2級」試験対策②	7月25日	6	
	「コンピュータサービス技能評価試験ワープロ部門2級」試験対策③	8月1日	3	
	試験	8月20日	1	
9	資格取得を目指す、表計算ソフトExcel初級講座（全8回）	セル・行・列の操作、計算式	5月22日	9
		関数①	5月29日	9
		関数②	6月19日	6
		表の作成	6月26日	6
		並べ替え	7月3日 小倉 佳代子（非常勤講師）	6
		グラフの作成	7月17日	6
		「コンピュータサービス技能評価試験表計算部門3級」試験対策①	7月24日	6
		「コンピュータサービス技能評価試験表計算部門3級」試験対策②	7月31日	6
	試験	8月7日	2	
10	表計算ソフトExcelの住所録とワープロソフトWordで作る年賀状（全3回）	ワードではがきの裏面を作成	10月20日	17
		エクセルで住所録を作る	10月27日 小倉 佳代子（本学非常勤講師）	16
		裏面の完成とエクセルの住所録を利用した宛名印刷	11月10日	17
11	地域社会の心理学Ⅱ（全3回）	7月31日 8月25日 9月29日	飯塚 由美（保育学科）	44
12	声を出して歌ってみよう！	8月4日	渡邊 寛智（保育学科） 渡邊 芳恵（本学非常勤講師）	10
13	親子のための夏休み躰道教室（全2回）	7月28日 8月25日	内山仁志（保育教育学科）	中止
14	文化資源探求講座	11月17日	岡部 康幸（NPO法人出雲学研究所会員） 小泉 凡（名誉教授）	16
				延（人） 1351

平成30年度 地域連携（貢献）活動の取組状況

1 講演会講師等

NO.	教員名	依頼先	内容（テーマ等）	日付
1	山下 由紀恵（保育教育学科教授）	松江市保育研究会	松江市保育研究大会 パネルディスカッション「これからの幼児教育」パネラー	H30.5.19
2	山下 由紀恵（保育教育学科教授）	島根県幼児教育センター	島根県幼児教育推進シンポジウム・パネルディスカッション「島根県幼児教育センター開設に向けて」コーディネーター	H30.5.29
3	山下 由紀恵（保育教育学科教授）	安来市健康福祉部こども未来課	平成30年度児童家庭相談対応研修講師「児童虐待を防ぐために～親子関係の理解と対応について～」	H30.7.13
4	山下 由紀恵（保育教育学科教授）	益田市・益田市保育研究会	平成30年度保育士等キャリアアップ研修【幼児教育】第2回第3回講師	H30.8.24 H30.10.19
5	山下 由紀恵（保育教育学科教授）	島根県私立保育園連盟隠岐支部会	平成30年度研修講師「改定保育所保育指針のポイントについて」	H30.11.10
6	山下 由紀恵（保育教育学科教授）	島根県社会福祉事業団地域生活支援センター	平成30年度研修講師「事例から学ぶ乳幼児期からの発達支援」	H30.11.17
7	高橋 泰道（保育教育学科教授）	松江市立乃木小学校	来年度の中国地区小学校理科教育研究大会松江大会授業校における授業研修会の指導助言、講演 参加者約40名	H30.6.1
				H30.6.11
				H30.7.24
				H30.10.15
				H30.10.29
8	高橋 泰道（保育教育学科教授）	松江市立忌部小学校	来年度の中国地区小学校理科教育研究大会松江大会授業校における授業研修会の指導助言、講演 参加者約15名	H30.11.27
				H31.1.15
				H31.1.25
				H30.6.20
				H30.7.6
9	高橋 泰道（保育教育学科教授）	松江市立中央小学校	来年度の中国地区小学校理科教育研究大会松江大会授業校における授業研修会の指導助言、講演 参加者約20名	H30.8.8
				H30.10.18
				H30.10.24
				H30.10.31
				H30.11.29
10	高橋 泰道（保育教育学科教授）	松江市立雑賀小学校	来年度の中国地区小学校理科教育研究大会松江大会授業校における授業研修会の指導助言、講演 参加者約15名	H30.10.18
				H31.1.20
				H30.5.31
				H30.7.24
				H30.8.9
11	高橋 泰道（保育教育学科教授）	出雲市立四路小学校	来年度の中国地区小学校生活科総合的な学習教育研究大会出雲大会授業校における授業研修会の指導助言、講演 参加者約30名	H30.10.5
				H30.11.6
				H31.1.24
				H30.6.19
				H30.8.2
12	高橋 泰道（保育教育学科教授）	松江市安来市小学校生活科部会	松江市安来市小学校生活科部会夏季研修会指導講師「生活科における指導と評価の一体化」参加者約40名	H30.7.31
13	高橋 泰道（保育教育学科教授）	松江市小学校理科部会	松江市小学校理科部会授業研修会の指導助言、講演 参加者30名	H31.1.23
14	高橋 泰道（保育教育学科）	松江市子育て部 子育て政策課 安心子育て推進室	平成30年度 第2回幼稚園・保育所・認定こども園職員スキルアップ講座で講演、参加者50名	H30.11.1
15	福井 一尊（保育教育学科准教授）	島根県児童養護施設協議会	第39回児童文化奨励絵画展の島根県内審査会にて審査員を務める。	H30.8.2
16	福井 一尊（保育教育学科准教授）	しまね文化振興財団	島根県民会館名画劇場「シネマのIDOBATA」にて、映画「ザ・スクエア 思いやりの聖域」についてパネルディスカッションを行う。	H30.8.16
17	福井 一尊（保育教育学科准教授）	小泉八雲記念館	小泉八雲記念館にて、小学生向け造形ワークショップ「気楽坊みたくいなきらく～な人形作り」の講師を務める。	H30.8.24
18	福井 一尊（保育教育学科准教授）	岡山県天神山文化プラザ	公立美術館の企画展にて、個展「福井一尊展 在るものと 見えるものと」を開催し、広く一般公開した。	H30.9.26～H30.9.30
19	福井 一尊（保育教育学科准教授）	島根県総務部営繕課	県庁周辺ライトアップ事業「結いとうろ」開催に際し、灯籠の制作依頼を受ける。和紙36枚に絵を描き、灯籠として一般公開した。	H30.10.19～ H30.10.21
20	福井 一尊（保育教育学科准教授）	米子空港管理事務所	米子空港内の壁面に、本学のボランティア学生が壁画制作を行った際の、指導助言を行う。	H30.10.6～ H30.10.30
21	福井 一尊（保育教育学科准教授）	島根県保育所（園）・幼稚園造形教育研究会	研修会にて講師を務める。また県内全域から集まった3,000点の描画作品を公開審査し、県立美術館にて一般公開した。その後、作品集を発刊し、県内全域の保育・教育機関にて活用していただいている。	H30.11～H31.3
22	福井 一尊（保育教育学科准教授）	島根県・島根県社会福祉協議会	障がい者支援施設や、特別支援学校の教職員向けの研修会にて講師を務める。また県内全域から集まった約500点の描画作品を審査委員長として公開審査し、県立美術館にて一般公開した。	H30.12.5
23	福井 一尊（保育教育学科准教授）	松江市保育研究会	松江市内全域の保育・教職員向けの研修会にて講師を務める。また造形作品に展示方法について実技指導を行い、県立美術館にて一般公開した。	H30.12～H31.1
24	藤原 映久（保育教育学科准教授）	島根県社会福祉協議会	平成30年度放課後児童支援員認定資格研修〔島根県〕 講師「特に配慮を要する子どもの理解」	H30.6.24 H30.10.9 H30.11.6
25	藤原 映久（保育教育学科准教授）	島根CAP	ブリエール市民企画講座 講師「なぜ子育てにアタッチメントが必要なのか？」	H30.7.23
26	藤原 映久（保育教育学科准教授）	岡山県保健福祉部子ども家庭課	平成30年度児童養護施設等対応機能強化事業全体研修会 講師「子ども（2～12歳）の性問題行動の見極めと評価」	H30.8.9
27	藤原 映久（保育教育学科准教授）	島根県健康福祉部	平成30年度島根県児童相談所・市町村職員等専門研修会 講師「子ども家庭相談援助制度及び実施体制」	H30.9.4
28	藤原 映久（保育教育学科准教授）	鳥取県児童館連絡協議会	2018年度 鳥取県児童館連絡協議会職員研修会 講師「児童館の機能と役割」	H30.10.12
29	藤原 映久（保育教育学科准教授）	島根県中央児童相談所	中国地区児童相談所職員研究協議会判定部会 助言者	H30.11.1

1 講演会講師等

NO.	教員名	依頼先	内容(テーマ等)	日付
30	藤原 映久 (保育教育学科准教授)	邑南町	邑南町「子どもの心を考える会」研修会 講師 「発達に偏りのある子どもたちの理解と支援」	H31.2.21
31	藤原 映久 (保育教育学科准教授)	岡山県保健福祉部子ども家庭課	平成30年度児童養護施設等対応機能強化事業事例検討会 助言者	H31.3.5
32	藤原 映久 (保育教育学科准教授)	松江赤十字乳児院	施設内研修 講師 「子どもの権利について～現場と子どもの人権をつなぐ～」	H31.3.18
33	矢島 毅昌 (保育教育学科准教授)	認定こども園光幼保育園	第9回幼児教育実践学会における認定こども園光幼保育園の発表への指導・助言	H30.8.18
34	矢島 毅昌 (保育教育学科准教授)	社会福祉法人みかわ	法人職員研修講師 (研修タイトル: 保育現場の「言葉」と「人間関係」がつくるもの)	H30.10.20
35	矢島 毅昌 (保育教育学科准教授)	松江市保育研究会	第11回松江市保育研究大会第3分科会 (袖師保育所) 指導助言者	H30.11.10
36	矢島 毅昌 (保育教育学科准教授)	島根県社会福祉協議会 島根県福祉人材センター	平成30年度保育士キャリアアップ研修【幼児教育】講師	H31.2.4～H31.2.5
37	矢島 毅昌 (保育教育学科准教授)	赤碓こども園	赤碓こども園みんなの生活アート展「語り合う会」講師	H31.2.23
38	内山 仁志 (保育教育学科准教授)	鳥取県子ども家庭育み協会	鳥取県保育所(園)平成30年度 第2回障がい児保育研修会 講師 「保育場面で遭遇する視覚に関する発達の諸問題とその対応」 参加者: 97 (鳥取) 58名 9/2 (米子) 92名	H30.9.1～H30.9.2
39	内山 仁志 (保育教育学科准教授)	山陰言語聴覚士協会	山陰言語聴覚士協会 平成30年度小児部会講演会 講師 「眼局性学習症の評価と支援」 参加者: 26名	H30.12.23
40	内山 仁志 (保育教育学科准教授)	ターナー症候群西日本ネットワーク JCRファーマ株式会社	ターナー症候群西日本ネットワーク 第20回学術講演会 教育講演 講師 「視覚認知の神経機構と小児で見られる視覚認知障害」 参加者: 150名	H31.2.2
41	西村 健一 (保育教育学科准教授)	NPO法人柔道3.0	発達障害と柔道指導に関するワークショップ講師 「一人一人が輝く少年柔道の指導法」 参加者: 25名	H30.5.6
42	西村 健一 (保育教育学科准教授)	松江地区柔道国際交流友好会	柔道教室の運営と指導 「ソウルオリンピック銀メダリストの柔道教室」 参加者: 59名	H30.7.25
43	西村 健一 (保育教育学科准教授)	しまね四季の学び舎	ダイバーシティ総括指導 「川津ダイバーシティ・ミーティング」 参加者: 36名	H30.7.27
44	西村 健一 (保育教育学科准教授)	出雲国スイッチ工房	事務局及び実行委員 <重度障害者を支援する>実践者のための視線&スイッチ入力のシンポジウム 事務局 参加者: 66名	H30.7.29
45	西村 健一 (保育教育学科准教授)	しまね四季の学び舎	ダイバーシティ総括指導 「川津ダイバーシティ・キャンプ」 参加者: 36名	H30.7.23
46	西村 健一 (保育教育学科准教授)	NPO法人柔道3.0	発達障害と柔道指導に関するワークショップ講師 「一人一人が輝く少年柔道の指導法」 参加者: 35名	H30.9.15～H30.9.16
47	西村 健一 (保育教育学科准教授)	授業改善を考える会	授業指導及び講演 「特別支援教育のチームで使えるアイデア発想法」 参加者: 19名	H30.9.29
48	西村 健一 (保育教育学科准教授)	釜山島根中学校友好親善交流 事業実行委員会 島根県柔道 連盟	海外引率、柔道男子コーチ 参加者: 38名	H30.12.26～ H30.12.29
49	西村 健一 (保育教育学科准教授)	NPO法人柔道3.0	発達障害と柔道指導に関するon line ワークショップ講師 「一人一人が輝く少年柔道の指導法」 参加者: 5名	H31.1.13
50	前林 英貴 (保育教育学科講師)	島根県社会福祉協議会	島根県放課後児童支援員認定資格研修 科目「子どもの生活面における対応」 浜田会場	H30.6.10
51	前林 英貴 (保育教育学科講師)	松江市子育て支援センター	平成30年度子育て学習会 「子どもの健康と安全」	H30.9.4
52	前林 英貴 (保育教育学科講師)	島根県社会福祉協議会	島根県放課後児童支援員認定資格研修 科目「子どもの生活面における対応」 出雲会場	H30.10.3
53	前林 英貴 (保育教育学科講師)	島根県社会福祉協議会	島根県放課後児童支援員認定資格研修 科目「子どもの生活面における対応」 松江会場	H30.11.14
54	前林 英貴 (保育教育学科講師)	兵庫県新温泉町教育委員会	保育士処遇改善対応研修 平成30年度保育士キャリアアップ研修【保健衛生・安全対策】	H30.12.1
55	前林 英貴 (保育教育学科講師)	島根県社会福祉協議会	保育士処遇改善対応研修 平成30年度保育士キャリアアップ研修【保健衛生・安全対策】 松江会場	H31.3.4～H31.3.5
56	前林 英貴 (保育教育学科講師)	島根県社会福祉協議会	保育士処遇改善対応研修 平成31年度保育士キャリアアップ研修【保健衛生・安全対策】 浜田会場	H31.3.11～H31.3.12
57	山村 桃子 (地域文化学科講師)	宮崎県総合政策部みやざき文化振興課	神話のふるさと県民大学 リレー講座鼎談「出雲と日向—神話による縁結び」 参加者: 100名	H30.9.8
58	山村 桃子 (地域文化学科講師)	宮崎県総合政策部みやざき文化振興課	神話のふるさと県民大学 リレー講座講師「出雲神話と日向神話—穢れと聖性」 参加者: 100名	H30.9.8
59	中野 洋平 (地域文化学科講師)	日本山陰アイランド協会	平成30年度講演会 「境界線上の異業者—パレード・異人・道化」 参加者: 20名	H30.6.2
60	中野 洋平 (地域文化学科講師)	長野県東御市 市民大学運営 委員会・東御市公民館	東御市市民大学講座 「祿津のノノ巫女を理解するための基礎知識を学ぶ」 参加者: 100名	H30.9.8
61	中野 洋平 (地域文化学科講師)	島根公民館	第35回「島根町誌を読む会」公開講座講師 「旧瀬戸賽の河原臺場の成り立ちを語る」 参加者: 40名	H30.11.24
62	中野 洋平 (地域文化学科講師)	島根公民館	『島根町誌収集史料目録』の作成・寄贈	H31.1.28
63	中野 洋平 (地域文化学科講師)	いづも文化財団	平成30年度第5回公開講座 「豊作を祝う神人饗応—横田神社 (美保関町) 「はんばかべり」その他」 参加者: 140名	H31.3.2
64	古賀 洋一 (地域文化学科講師)	国語教育湧水の会	第143回国語教育湧水の会「『コンテンツ・ベース』と『コンピテンシ・ベース』 の統合を目指す国語科授業～説明的文章の授業を中心に～」 参加者: 30名	H30.8.10
65	梶谷 朱美 (保育学科教授)	松江市教育研究会小学校体育 部	第14回松江市小学校表現運動発表会講師: 発表会に参加する小学生と教員約550名 を対象に表現運動作品について講評、指導を行う。(島根県民会館大ホール)	H30.11.16
66	梶谷 朱美 (保育学科教授)	松江市教育研究会小学校体育 部	松江市教育研究会小学校体育部夏季研修会講演会講師 「表現運動の授業づくりで大事にしたいこと」 (鹿島ふれあい館会議室) 参加者: 約50名	H30.8.1

1 講演会講師等

NO.	教員名	依頼先	内容(テーマ等)	日付
67	梶谷 朱美 (保育学科教授)	浜田市学校体育研究連合会	第46回浜田市創作ダンス発表会講師：発表会に参加する幼児や小学生、保育者、教員約400名を対象に表現運動作品について講評、指導を行う。 (石井文化ホール)	H30.2.6
68	梶谷 朱美 (保育学科教授)	益田市教育研究会保健体育部	第50回益田市学校ダンス発表会兼研修会講師：発表会に参加する小学生、中学生、教員約300名を対象に表現運動作品について講評、指導を行う。 (グラントワ)	H30.1.24
69	梶谷 朱美 (保育学科教授)	浜田市学校体育研究連合会	浜田市学校ダンス部実技研修会講演会講師 「表現の授業で大切にしたいこと」 (浜田市立国府小学校) 参加者：約30名	H30.8.6
70	梶谷 朱美 (保育学科教授)	雲南市教育研究会養護教諭部会	雲南市教育研究会養護教諭部会に関する指導助言・打ち合わせ (雲南市立木次中学校) 参加者：約23名	H30.9.28
71	梶谷 朱美 (保育学科教授)	雲南市立認定こども園木次こども園	子育て講演会講師「〇〇〇で子どもいきいき、活力全開！」 (木次こども園遊戯室) 参加者：保護者・保育者約100名	H30.11.8
72	中井 悠加 (保育学科講師)	学校教育開発研究所 (AISES)	H30年度教員免許状更新講習講師 (「国語科と特別活動を連動させた「主体的・対話的で深い学び」の促進」)	H30.9.16
73	中井 悠加 (保育学科講師)	中国・国語教育探究の会	H30年度冬期研修会講演講師 (「イギリスの詩創作指導について：日英比較と詩創作の発達」)	H31.2.16

2 審議会委員等

NO.	教員名	委嘱(依頼)先	役職名	期間
1	岸本 強 (保育教育学科教授)	(公財) 島根県体育協会	しまね広域スポーツセンター企画運営委員会 副委員長	H17.9～
2	岸本 強 (保育教育学科教授)	(公財) 島根県体育協会	普及委員会 副委員長	H25.5～
3	岸本 強 (保育教育学科教授)	(公財) ごうぎん島根文化振興財団	評議員	H25.5～
4	岸本 強 (保育教育学科教授)	(公財) 松江市スポーツ振興財団	理事	H25.6～
5	岸本 強 (保育教育学科教授)	島根県教育委員会	島根県スポーツ推進審議会 会長	H28.12～
6	岸本 強 (保育教育学科教授)	島根県バレーボール協会	顧問	H29.5～
7	岸本 強 (保育教育学科教授)	島根県教育委員会	部活動の在り方検討会 会長	H29.8～
8	山下 由紀恵 (保育教育学科教授)	松江市	松江市心身障害児小規模療育事業検討委員	H19.5～
9	山下 由紀恵 (保育教育学科教授)	松江市	松江市教育委員会専門巡回相談事業相談員	H23.8～
10	山下 由紀恵 (保育教育学科教授)	松江市	松江市らしい幼児教育の推進検討委員会委員 (幼児教育ワーキンググループ座長)	H30.9～
11	山下 由紀恵 (保育教育学科教授)	益田市	益田市子ども・子育て会議委員	H28.1～
12	山下 由紀恵 (保育教育学科教授)	島根県	島根県子ども・子育て支援推進会議 幼保連携型認定こども園検討委員会委員長	H25.10～
13	山下 由紀恵 (保育教育学科教授)	島根県	島根県幼児教育振興プログラム(仮称)策定ワーキンググループ座長	H30.5～
14	山下 由紀恵 (保育教育学科教授)	島根県教育委員会	島根県しまねのふるまい推進連絡協議会会長	H25.7～
15	山下 由紀恵 (保育教育学科教授)	島根県社会福祉協議会	保育の就職支援プロジェクト会議委員	H27.4～
16	山下 由紀恵 (保育教育学科教授)	公益財団法人島根県育英会	理事	H27.6～
17	山下 由紀恵 (保育教育学科教授)	NPO法人日本ボーテージ協会	理事	H25.6～
18	福井 一尊 (保育教育学科准教授)	島根県保育所(園)・幼稚園造形教育研究会	島根県保育所(園)・幼稚園造形教育研究会 顧問	H19.11～現在
19	福井 一尊 (保育教育学科准教授)	島根県・島根県社会福祉協議会	島根県障がい者アート作品展審査委員会 委員長	H23.12～現在
20	福井 一尊 (保育教育学科准教授)	島根県社会福祉協議会	障がい者アートを活用した商取引に係る著作権等保護に関する検討委員会 委員長	H26.12～現在
21	福井 一尊 (保育教育学科准教授)	松江市保育研究会	松江市保育研究会造形表現部会 顧問	H29.4～現在
22	福井 一尊 (保育教育学科准教授)	島根県	島根県景観審議会 委員	H30.4～現在
23	藤原 映久 (保育教育学科准教授)	社会福祉法人つわぶき	社会福祉法人つわぶき評議員専任・解任委員会 委員	H29.14.～H33.14.
24	藤原 映久 (保育教育学科准教授)	島根県社会福祉協議会	島根県社会福祉協議会 評議員	H29.41.～H33.6
25	藤原 映久 (保育教育学科准教授)	松江家庭裁判所	松江家庭裁判所委員会 委員	H29.10.1.～H31.9.30
26	藤原 映久 (保育教育学科准教授)	松江市	松江らしい幼児教育の推進検討委員会 家庭支援ワーキンググループ座長	H30.10.1～H32.3.31
27	藤原 映久 (保育教育学科准教授)	島根県	島根県社会的養護推進計画策定検討委員会 委員	H31.1.9～H32.3.31
28	工藤 泰子 (地域文化学科教授)	松江市	松江歴史館運営協議会委員	H26.11～
29	工藤 泰子 (地域文化学科教授)	松江ツーリズム研究会	松江ツーリズム研究会観光大賞選考委員	H30.4～

平成30年度 地域連携（貢献）活動の取組状況

2 審議会委員等

NO.	教員名	委嘱（依頼）先	役職名	期間
30	藤居 由香（地域文化学科准教授）	島根県	しまね景観賞審査委員会委員	H30.4.1～H31.3.31
31	藤居 由香（地域文化学科准教授）	島根県	新大橋景観検討委員会委員	H30.4.1～H31.3.31
32	藤居 由香（地域文化学科准教授）	島根県	消費生活審議会委員	H30.4.1～H31.3.31
33	藤居 由香（地域文化学科准教授）	島根県	島根県建設工事紛争審査会委員	H31.1.4～H31.3.31
34	藤居 由香（地域文化学科准教授）	松江市	都市計画審議会会長	H30.4.1～H31.3.31
35	藤居 由香（地域文化学科准教授）	松江市	歴史まちづくり推進協議会委員	H30.4.1～H31.3.31
36	塩谷 もも（地域文化学科准教授）	松江市	松江市行政改革推進委員会	H28.6～
37	山村 桃子（地域文化学科講師）	島根県教育委員会	島根県古代文化センター企画運営委員会委員	H26～
38	山村 桃子（地域文化学科講師）	松江市	松江市個人情報保護審議会委員	H29.9～
39	山村 桃子（地域文化学科講師）	島根県	風土記の丘指定管理業務評価委員	H26.～
40	古賀 洋一（地域文化学科講師）	(株)三省堂	中学校国語教科書 編集委員	H30.6～
41	梶谷 朱美（保育学科教授）	島根県	島根県学校体育研究連合会副会長	H30.5～
42	梶谷 朱美（保育学科教授）	島根県	島根県学校体育研究連合会ダンス研修部会長	H30.5～
43	梶谷 朱美（保育学科教授）	雲南市	身体教育医学研究所うなん運営委員会委員	H30.4.1～H32.3.31
44	梶谷 朱美（保育学科教授）	島根県	島根県学校体育研究連合会ダンス研修部理事会アドバイザー	H31.1～
45	梶谷 朱美（保育学科教授）	島根県	平成30年度島根県保健体育功労者等審査会委員	H30.5～
46	菊野 雄一郎（保育学科講師）	日本乳幼児教育学科第28回大会（岡山大学）	日本乳幼児教育学会第28回大会協力委員	H30.6.1～H30.12.9

3 その他地域連携（貢献）活動等

NO.	教員名	相手方	内容等	日付（期間）
1	藤原 映久（保育教育学科准教授）	島根県中央児童相談所 児童養護施設安来学園	安心・安全な児童福祉施設環境の構築に向けた連携 ・児童養護施設安来学園及び島根県中央児童相談所との協働の下、児童養護施設職員向け養育支援プログラムの開発と実践を行う。	H27.4～必要な期間
2	藤原 映久（保育教育学科准教授）	島根県中央児童相談所 松江地区里親会	・里親支援における連携 松江地区里親会及び島根県中央児童相談所との協働の下、子育て支援の勉強会と里親支援学生企画交流会を開催し、里親支援を展開する。	H29.4～必要な期間
3	山村 桃子（地域文化学科講師）	松江市観光振興部観光文化課	不昧公200年記念事業における島根県立美術館「松平不昧公展」お茶席の茶道部協力	H30.9
4	古賀 洋一（地域文化学科講師）	私立開星中・高等学校	「課題研究Ⅰ」学外講師	H30.7～
5	古賀 洋一（地域文化学科講師）	尾道市立因北中学校	校内研究 学外講師	H30.8～
6	古賀 洋一（地域文化学科講師）	日本国語教育学会熊本支部	第26回日本国語教育学会熊本支部大会実践発表 指導・助言	H30.12.22
7	梶谷 朱美（保育学科教授）	株式会社キラキラ雲南	雲南市加茂B&G海洋センタープール運営委員会委員	H31.3～

Ⅲ. その他の地域活動

1. 地域貢献プロジェクト助成事業

本学では、中期計画に掲げる「地域活性化に対する支援」を推進するため、平成20年度から北東アジア地域学術交流研究助成金に「地域貢献プロジェクト助成事業」を創設している。

包括協力協定を締結した浜田市、松江市、出雲市及び益田市との共同事業のほか、本学教員が地域協力者（自治体、NPO、自治会、郷土研究者等）とともに行う、大学の地域貢献活動（調査・研究等）に対して助成するものである。年間2件程度のプロジェクトを採択し、各種事業の実施や成果の還元等を通じて、地域振興への取組を支援している。

平成30年度の地域貢献プロジェクト助成事業 交付決定状況

代表者氏名 (所属キャンパス)	研究課題名	交付金額
井上 厚史 (浜田)	地域活性化におけるネットワーク構築の意義と有用性に関する研究 ー島根県立大学井上厚史ゼミと移住者との協働を 事例としてー	800千円
赤浦 和之 (松江)	西条ガキ干し柿と熟柿ピューレを用いた焼き菓子の開発	391千円

2. 地域貢献推進奨励金

主体的に地域貢献に取り組む本学学生を対象に、活動にかかる経費（交通費や宿泊費等）を支援することで、より広域な地域貢献活動を促進することを目的とし、平成30年度に創設しました。

学生による多様な地域貢献活動を通じて、島根県内の地域課題解決に向けた提言・提案を行い、島根県内全域をフィールドとした地域教育を促進するとともに、学生の課題発見能力、課題解決能力を育成することを図ります。

平成30年度 地域貢献推進奨励金 採択一覧

No.	申請者		活動プロジェクト名	採択額 (単位：円)
	専任教員（代表者）	学生		
1	佐藤 壮 (総合政策学部・准教授)	5名	海士町ブータン青年研修における 国際交流と地域づくりの融合を 目指す学生参画型実践プロジェクト	405,360
2	李 曉東 (総合政策学部・教授)	17名	美又地区でインバウンド（外国人 訪日旅行）を考える	366,500
3	吾郷 美奈恵 (看護栄養学部・教授)	5名	隠岐島前ヘルスサポートプロジェクト ー歌って踊ってエクササイズー	499,800
4	今中 美栄 (看護栄養学部・教授)	13名	隠岐・知夫村へ行こう！食と元 気づくりプロジェクト	449,860
5	中山 真美 (看護栄養学部・教授)	4名	栄養で認知症高齢者を元気に するぞ！	72,636
6	林 健司 (看護栄養学部・講師)	8名	高齢者の健康づくり応援プロ ジェクト～買い物しながら介護 予防～	496,860
7	藤田 小矢香 (看護学研究科・准教授)	1名	知夫村まるごと認知症予防 プロジェクト	392,000
8	山下 一也 (看護栄養学部・教授)	3名	出雲市在住ブラジル人との共 生プロジェクト～子育て支援～	317,060
9	渡邊 克俊 (看護栄養学部・講師)	14名	災害に強い街づくりを地域と 大学で考えるプロジェクト	500,000
10	西村 健一 (人間文化学部・准教授)	8名	共生社会イン島根の実現に向 けて	74,352

3. 島根県との連携

島根県立大学と島根県は、地域の振興に貢献するため、これまでも様々な分野で連携事業を実施してきたが、情報の共有化を図り連携をより一層推進するため、平成24年度から連携企画会議及び連携調整会議を開催し、定期的に意見交換を行っている。

この会議は、県と県立大学が相互に連携を図りながら、県の政策課題を解決していくために、連携の具体的な調整、その進行管理を行っており、今回で9回目となる。

1. 第9回島根県・島根県立大学連携調整会議

(1) 日時 平成30年6月4日(火)14:00～15:30

(2) 場所 島根県職員会館 多目的ホール

(3) 概要

- ① 連携状況の報告
- ② 連携を期待する事項についての意見交換
 - ・統計調査をテーマとした学生インターンシップ
 - ・成年年齢引下げに対応した学生向け消費者教育
 - ・環境ボランティア登録制度
 - ・古代出雲歴史博物館における多言語対応の推進
- ③ 県立大学の入学・卒業における転入出の状況について

4. 松江商業高等学校・湖南中学校との連携

平成 30 年 4 月 25 日（水）本学と島根県立松江商業高等学校、松江市立湖南中学校は、相互の教職員・学生生徒が連携し、地域の教育力を高め、より良い教育環境づくりを推進することを目的とした教育連携に関する協定を締結しました。



5. 成蹊大学との連携

平成 30 年 6 月 1 日(金)に、本学と成蹊大学は幅広い分野での人的交流を進め、その成果を人材育成や地域貢献に積極的に活用することを目的とする包括的な連携協定を締結しました。

地方の公立大学と首都圏の私立大学が連携協定を締結することは全国的に珍しく、地方と首都圏の学生交流のモデルとなるよう、具体的な交流プロジェクトを積極的に実施していきます。



6. 有限会社本田商店との連携

平成 30 年 7 月 5 日に、公立大学法人島根県立大学は、有限会社本田商店との連携協力に関する協定を締結しました。

この協定締結により、今後、出雲そば等の地域食材の品質を向上させ、健康的な食生活による疾患予防と豊かな食文化の発展に寄与する活動を推進していきます。



7. 出雲警察署との連携

平成 30 年 10 月 10 日に、公立大学法人島根県立大学は、出雲警察署との包括的連携・協力に関する協定を締結しました。

この協定締結により、今後、「安全で安心な出雲」の実現に向け、それぞれ専門性・特殊性を活かし、相互に連携・協力していきます。



8. 島根県農業協同組合(JAしまね)との連携

平成30年11月26日に、公立大学法人島根県立大学は、島根県農業協同組合（JAしまね）との包括的連携・協力に関する協定を締結しました。

この協定締結により、今後、島根県立大学とJAしまねの持つ人的資源、知的資源、物的資源を活用し、地域の農産品等の地域食材の品質を向上させ、健康的な食生活による疾患予防と豊かな食文化の発展等に寄与していきます。



9. 知夫村との連携

平成 30 年 10 月 29 日に、公立大学法人島根県立大学は、知夫村との包括的連携・協力に関する協定を締結しました。

この協定締結により、今後、健康づくりや交流事業、介護実習などに取り組み、地域づくりや保健医療福祉の向上、学術研究などを推進していきます。



10. 島根県教育委員会との連携

島根県立大学と島根県教育委員会は、高大連携をはじめ、教育分野で相互に密接な連携協力を行うことにより、両者の教育・研究の充実と地域社会の発展に寄与することを目的に連携協定を締結し、平成31年3月4日、浜田キャンパスにて締結式をおこないました。



11. 島根県立隠岐島前高等学校との連携

島根県立大学と島根県立隠岐島前高等学校は、魅力ある大学・高等学校づくりを推進することを目的に連携協定を締結し、平成 31 年 3 月 7 日、隠岐島前高校にて締結式をおこないました。

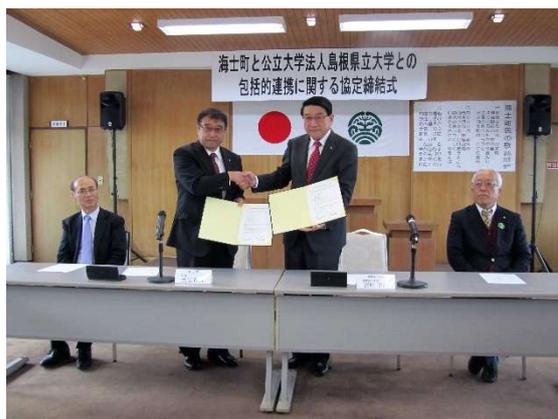
今後、本学と隠岐島前高校は、本協定を基に相互の教員・職員・学生・生徒が連携して高大連携事業を実施していきます。



12. 海士町との連携

平成 31 年 3 月 22 日に、公立大学法人島根県立大学は、海士町との包括的連携・協力に関する協定を締結しました。

この協定締結により、今後、本学サテライト施設を海士町内に設置し、運営に関して相互に協力するとともに、学生・教員による地域研究・交流等の取り組みへの支援をしていきます。



参 考

公立大学法人島根県立大学と浜田市との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、公立大学法人島根県立大学と浜田市とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの諸分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する。

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して別に定めるものとする。又、この協定に定めのない事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期間)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成20年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定締結の証として本書2通を作成し、各自1通を保有する。

平成19年5月18日

公立大学法人島根県立大学
理事長

宇野重昭



浜田市
浜田市長

宇津徹男



松江市と公立大学法人島根県立大学との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、松江市と公立大学法人島根県立大学とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する。

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して定めるものとする。また、この協定に定めのない事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期間)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成21年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定の証として本書2通を作成し、各自1通保有する。

平成19年10月30日

松江市

松江市長

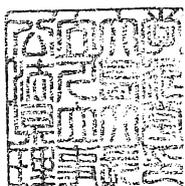
松浦正敬



公立大学法人島根県立大学

理事長

宇野重昭



出雲市と公立大学法人島根県立大学との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、出雲市と公立大学法人島根県立大学とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの諸分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期間)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成22年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定の証として本書2通を作成し、各自1通保有する。

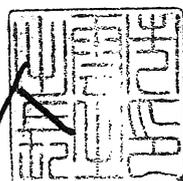
平成21年10月8日

出雲市

公立大学法人島根県立大学

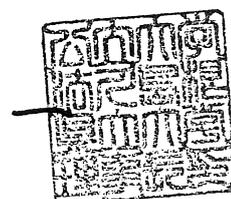
出雲市長

長岡秀人



理事長

本田 雄



公立大学法人島根県立大学と益田市との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、公立大学法人島根県立大学と益田市とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの諸分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する。

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して別に定めるものとする。又、この協定に定めのない事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期間)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成26年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定締結の証として本書2通を作成し、各自1通を保有する。

平成25年5月27日

公立大学法人島根県立大学
理事長

本田 雄一



益田市
益田市長

山本 浩



公立大学法人島根県立大学と隠岐の島町との包括的連携に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、隠岐の島町と公立大学法人島根県立大学とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの諸分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する。

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して別に定めるものとする。又、この協定に定めのない事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期限)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成28年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定締結の証として本書2通を作成し、各自1通を保有する。

平成27年7月14日

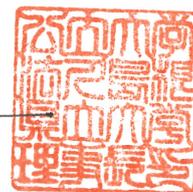
隠岐の島町
町長

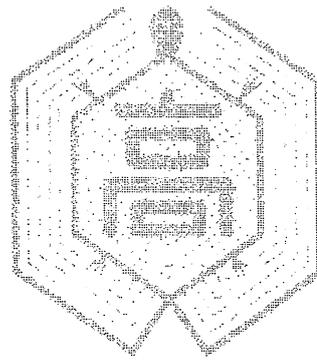
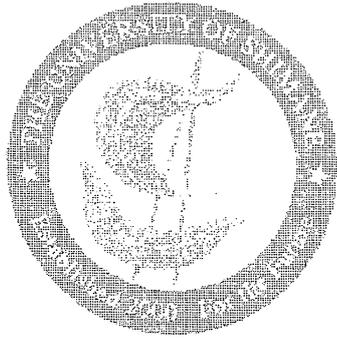
松田和久



公立大学法人島根県立大学
理事長

本田雄一





島根県立大学と島根県立浜田高等学校との高大連携に関する協定

島根県立大学と島根県立浜田高等学校とは、次のとおり合意する。

- 1 島根県立大学と島根県立浜田高等学校とは、相互の教員・職員・学生・生徒が連携して「魅力ある大学・高等学校づくり」を推進することを目的とする高大連携事業を実施する。
- 2 この協定に基づく具体的な連携事業は、島根県立大学と島根県立浜田高等学校の協議を経て決定する。
- 3 本協定は、島根県立大学学長及び島根県立浜田高等学校校長による調印の後その効力を生じ、3年間の有効期間を持つものとする。本協定は、有効期間が終了する6ヶ月前までに、島根県立大学、島根県立浜田高等学校のいずれか一方が、相手方に終了または改正を希望する旨を書面により意思表示しない限り、更に3年間有効期間が更新されるものとする。

平成16年11月18日

島根県立大学

学 長

宇野重昭

宇 野 重 昭

島根県立浜田高等学校

校 長

三浦正樹

三 浦 正 樹

島根県立大学と島根県立江津高等学校との高大連携に関する協定

島根県立大学と島根県立江津高等学校とは、次のとおり合意する。

- 1 島根県立大学と島根県立江津高等学校とは、相互教員・職員・学生・生徒が連携して「魅力ある大学・高等学校づくり」を推進することを目的とする高大連携事業を実施する。
- 2 この協定に基づく具体的な連携事業は、島根県立大学と島根県立江津高等学校の協議を経て決定する。
- 3 本協定は、島根県立大学学長及び島根県立江津高等学校校長による調印の後その効力を生じ、3年間の有効期限を持つものとする。本協定は有効期間が終了する6ヶ月前までに、島根県立大学、島根県立江津高等学校のいずれか一方が、相手方に終了または改正を希望する旨を書面により意思表示しない限り、更に3年間有効期間が更新されるものとする。

平成19年6月1日

島根県立大学

学長 宇野重昭



島根県立江津高等学校

校長 尾村幸行



島根女子短期大学・松江商業高等学校・湖南中学校の 三者連携に関する協定書

島根県立島根女子短期大学、島根県立松江商業高等学校及び松江市立湖南中学校の三者は、次のとおり合意する。

- 第1 島根県立島根女子短期大学、島根県立松江商業高等学校及び松江市立湖南中学校は、相互の教員・職員・学生・生徒が連携し、「より魅力あるキャンパスづくり」を推進することを目的とする三者連携事業を実施する。
- 第2 この協定に基づく具体的な連携事業は、三者で協議して決定する。
- 第3 この協定は、島根県立島根女子短期大学長、島根県立松江商業高等学校長及び松江市立湖南中学校長の調印の後その効力を生じ、その有効期間は3年間とする。
- 2 この協定は、有効期間が満了する日の6か月前までに、三者のいずれもが更新しない旨を他の二者に書面により通知しない場合は、さらに3年間有効期間が更新されるものとし、以後も同様とする。

平成18年11月 1日

島根県立島根女子短期大学

学 長 有 馬 毅 一 郎



島根県立松江商業高等学校

校 長 月 森



松江市立湖南中学校

校 長 曾 田 秀 雄



島根女子短期大学・乃木小学校・幼保園のぎの 三者連携に関する協定書

島根県立島根女子短期大学、松江市立乃木小学校及び松江市立幼保園のぎの三者は、次のとおり合意する。

第1 島根県立島根女子短期大学、松江市立乃木小学校及び松江市立幼保園のぎは、相互の教員・職員・学生・児童・園児が連携し、地域の教育力を高め、より良い教育環境づくりを推進することを目的として、三者連携事業を実施する。

第2 この協定に基づく具体的な連携事業は、三者で協議して決定する。

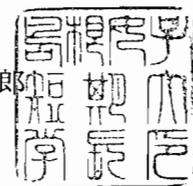
第3 この協定は、島根県立島根女子短期大学長、松江市立乃木小学校長及び松江市立幼保園のぎ園長の調印の後その効力を生じ、その有効期間は3年間とする。

2 この協定は、有効期間が満了する日の6か月前までに、三者のいずれもが更新しない旨を他の二者に書面により通知しない場合は、さらに3年間有効期間が更新されるものとし、以後も同様とする。

平成19年 3月 7日

島根県立島根女子短期大学

学 長 有 馬 毅 一 郎



松江市立乃木小学校

校 長 山 崎



松江市立幼保園のぎ

園 長 狩 野 由 美 子



島根県立大学短期大学部（出雲キャンパス）出前講座の

収録・放送に関する覚書

公立大学法人島根県立大学（以下「甲」という。）と石見銀山テレビ放送株式会社（以下「乙」という。）とは、乙が島根県立大学短期大学部（出雲キャンパス）の出前講座の収録、放送を実施するにあたり、次のとおり覚書を締結するものとする。

（事業内容の分担）

第1条 事業内容の分担は以下のとおりとする。

- （1）甲に所属する職員は、出前講座の台本及び資料を作成する。
- （2）乙は甲に所属する職員が作成した台本をもとに番組を収録し放送する。
- （3）乙は番組収録に係る著作権使用許可等の必要な諸手続をすべて行う。
- （4）乙は作成した番組をDVDに出力し、甲へ受け渡す。

（本覚書における出前講座の定義）

第2条 本覚書における出前講座とは、甲乙協議の上で定めた主題について、甲に所属する職員が企画構成する講座とする。

（事業に関する経費）

第3条 事業に関する経費については以下のとおりとする。

- （1）出前講座経費 出前講座に関する経費はすべて甲が負担する。
- （2）収録放送経費 収録・放送に関する経費はすべて乙が負担する。

（著作権の取扱い）

第4条 作成した番組に関する著作権は甲乙が共有する。

- 2 作成した番組を甲乙が非営利目的で使用する場合は相互の許可は不要とする。

（協議）

第5条 この覚書に定めのない事項については、甲乙協議の上これを定めるものとする。

(有効期間)

第6条 この覚書の有効期間は、覚書締結の日から平成22年3月31日までとする。ただし、この覚書の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この覚書の締結を証するため、本覚書を2通作成し、それぞれ記名押印の上、各自1通を保有するものとする。

平成22年2月4日

甲 島根県浜田市野原町2433番地2
公立大学法人島根県立大学

理事長

本田 雄



乙 島根県大田市大田町大田口1089-4
石見銀山テレビ放送株式会社

代表取締役

杉谷 雅禎



看護連携型ユニフィケーション事業 基本協定書

島根県病院局（以下「甲」という。）と公立大学法人島根県立大学（以下「乙」という。）とは、看護連携型ユニフィケーション事業（以下「ユニフィケーション事業」という。）の実施に関し、次のとおり基本協定を締結する。

（趣旨）

第1条 この基本協定書は、甲及び乙が協働で実施するユニフィケーション事業に関して、必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第2条 ユニフィケーション事業は、甲が設置運営する臨床の場である「島根県立中央病院」「島根県立こころの医療センター」と、乙が設置運営する教育の場である「島根県立大学短期大学部出雲キャンパス」が協働して実施することにより、看護ケアの質の向上及び看護教育の向上並びに両施設の機能を向上させることを目的とする。

（事業の範囲）

第3条 ユニフィケーション事業の範囲は以下のとおりとする。

- 1) 看護の学習会に関する事
- 2) 患者や家族のケアに関する事
- 3) 看護教育に関する事
- 4) 看護研究に関する事

（実施場所）

第4条 ユニフィケーション事業の実施場所は、甲が設置運営する「島根県立中央病院」「島根県立こころの医療センター」及び乙が設置運営する「島根県立大学短期大学部出雲キャンパス」とする。

（協議会の設置）

第5条 ユニフィケーション事業を運営する機関として、甲及び乙の職員を構成員とする「看護連携型ユニフィケーション事業協議会」（以下「協議会」という。）を設置する。

（実施要領）

第6条 ユニフィケーション事業の実施および協議会の構成、運営に係る細目等は、「実施要領」として別に定めるものとする。

(実施計画の策定)

第7条 ユニフィケーション事業の実施に当たっては、協議会においてユニフィケーション事業に係る事項を明記した「看護連携型ユニフィケーション事業実施計画」を策定し、事業実施2か月前に甲及び乙に提出し、承認を得るものとする。

(活動企画書の作成)

第8条 主担当者は、前条の実施計画に基づき、活動内容、実施場所、従事者、日時等を記載する「看護連携型ユニフィケーション活動企画書」を協議会に提出し、承認を得るものとする。

(個人情報の保護)

第9条 ユニフィケーション事業の実施に当たっての個人情報の取り扱いについては、別記「個人情報取扱特記事項」を遵守するものとする。

(基本協定の変更)

第10条 この基本協定書及び第6条の実施要領に関して、疑義又は定めのない事項が生じた場合は、甲乙協議して定めるものとする。

(有効期限)

第11条 この協定は、締結の日からその効力を発揮するものとし、甲又は乙が文書を持って協定の終了を通知しない限りその効力を持続するものとする。

本協定の証として本書2通を作成し、甲乙記名押印のうえ、各自その1通を保有する。

平成23年1月6日

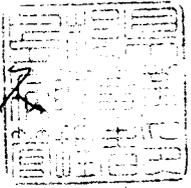
甲 島根県出雲市姫原4-1-1

島根県病院事業管理者

乙 島根県浜田市野原町2433番地2

公立大学法人島根県立大学理事長

中川正
本田雄一



公立大学法人島根県立大学と学校法人大多和学園との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、公立大学法人島根県立大学と学校法人大多和学園（以下「学園」という。）が連携し、生徒・学生の科学的思考と発表力の段階的育成を行い、もって創造性豊かな国際的に通用する人材の育成を図ることを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する。

- (1) 学園の実施するスーパーサイエンスハイスクール事業（以下「SSH事業」という。）における連携
- (2) 教育についての情報交換及び交流
- (3) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な実施については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期間)

第4条 この協定の有効期間は、平成26年4月1日からSSH事業が終了する平成30年3月31日までとする。ただし、SSH事業の指定期間が延長された場合、その終了日までとする。

この協定の証として本書2通を作成し、各自1通保有する。

平成26年3月27日

公立大学法人島根県立大学

学校法人大多和学園

理事長

本田 雄一



理事長

大多和 聡宏



公立大学法人島根県立大学と中村元記念館との連携に関する協定書

(目的)

第1条 本協定は、公立大学法人島根県立大学（以下「島根県立大学」という。）と中村元記念館が連携し、広報等の分野において相互に協力し、地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(連携・協力)

第2条 島根県立大学と中村元記念館は、次の事項について連携・協力する。

- (1) 広報および情報提供に関する事項
- (2) その他両者が必要と認める事項

(協議)

第3条 この協定の実施に関し、連携の具体的な事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期限・改廃)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成27年3月末日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の前月末までに、島根県立大学と中村元記念館のいずれからも改廃の申し入れがないときは、更に1年間有効期間を延長するものとし、その後も同様とする。

- 2 島根県立大学と中村元記念館は、この協定の有効期間中であっても、双方協議してこの協定書を改廃することができる。

この協定締結の証として本書2通を作成し、両者記名押印のうえ各自1通を保有する。

平成26年10月6日

公立大学法人島根
理事長 本田雄一



中村元記念館
館長

剛田 尊 學

公立大学法人島根県立大学と公益社団法人島根県看護協会が
連携して実施する事業に関する覚書

公立大学法人島根県立大学（以下「甲」という。）と公益社団法人島根県看護協会（以下「乙」という。）とは、甲乙が連携して実施する事業について、次のとおり覚書を締結するものとする。

（連携して実施する事業）

第1条 連携して実施する事業は次の各号に定めるものとする。

- (1) 島根県内看護職の人材育成や生涯教育の推進
- (2) 島根県における保健医療や看護教育に関する施策等についての情報交換及び連絡調整
- (3) その他、甲乙双方が協議して実施する事業

（事業の実施方法及び定義）

第2条 事業は次の各号の方法により実施する。

- (1) 受託事業
- (2) 連携事業

2 第1項第1号の受託事業は次の定義による。

受託事業は、甲と乙が契約して実施する事業のうち、乙が当該事業にかかる経費の全額を負担するものとする。

3 第1項第2号の連携事業は次の定義による。

連携事業は、甲と乙が契約して実施する事業のうち、事業費の区分毎に甲と乙の経費負担率を設定するものとする。

（受託事業）

第3条 受託事業の実施にかかる甲乙双方の役割分担は次のとおりとする。

- (1) 実施計画 乙が原案を作成し、甲と協議の上決定する。
- (2) 事業経費 全て乙の負担とし、契約締結後、甲の請求に基づき乙が支払う。
- (3) 施設設備 事業を島根県立大学出雲キャンパス（以下「県大出雲」という。）で実施する場合は、甲が必要な部屋、設備を調整し、それを利用する。
- (4) 実施報告 甲は、受託事業実施後に実施報告書を作成し、乙に提出する。

(連携事業)

第4条 連携事業の実施にかかる甲乙双方の役割分担は次のとおりとする。

- (1) 実施計画 乙が原案を作成し、甲と協議の上決定する。
- (2) 事業経費 契約書において事業費の区分毎に甲と乙の経費負担率を設定し、甲乙それぞれが当該事業経費を負担する。
- (3) 施設設備 事業を県大出雲で実施する場合は、甲が必要な部屋、設備を調整し、それを利用する。
- (4) 実施報告 甲が乙と協議の上実施報告書を作成する。

(協議)

第5条 この覚書に定めのない事項については、甲乙協議の上これを定めるものとする。

(有効期間)

第6条 この覚書の有効期間は、覚書締結の日から平成28年3月31日までとする。ただし、この覚書の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

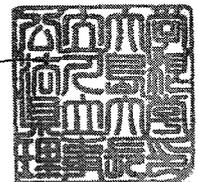
この覚書の締結を証するため、本覚書を2通作成し、それぞれ記名押印の上、各自1通を保有するものとする。

平成27年9月19日

甲 島根県浜田市野原町2433番地2
公立大学法人島根県立大学

理事長

本田 雄



乙 島根県松江市袖師町7番11号
公益社団法人島根県看護協会

会長

原 由子



島根県立大学短期大学部と公益財団法人しまね文化振興財団（島根県民会館）との連携協力に関する協定書

島根県立大学短期大学部（以下「甲」という。）と公益財団法人しまね文化振興財団（島根県民会館）（以下「乙」という。）は、島根県における文化芸術・教育について連携・協力するため、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 本協定は、甲乙相互の連携のもと、文化芸術振興・教育・研究及び教員養成の分野で協力し、地域における文化芸術・教育の発展に寄与することを目的とする。

（連携協力事項）

第2条 甲及び乙は、前条の目的を達成するため、次の事項について連携し、協力する。

- （1） 甲乙双方が有する知的資源、人的資源及び物的資源の活用に関すること。
- （2） 甲乙が共同で実施する事業に関すること。
- （3） その他前条の目的を達成するために必要な事項に関すること。

（共同事業連携推進会議）

第3条 前条の連携事項の円滑な推進と発展のため、共同事業連携推進会議を設置する。

2 共同事業連携推進会議に関し必要な事項は、別に定める。

（守秘義務）

第4条 甲及び乙は、本協定に基づく活動において、相手方から知り得た秘密事項について、本協定の有効期間中及び有効期間終了後を問わず、第三者に対し開示又は漏洩してはならない。ただし、事前に相手方の承諾を得た場合は、この限りではない。

（有効期間）

第5条 本協定は、協定締結日から発効し、有効期間は3年間とする。ただし、この協定書の有効期間満了の2月前までに、甲乙いずれからも改廃の申し入れがない場合には、更に3年間有効期間を延長するものとし、以後この例によるものとする。

（協議）

第6条 本協定に定める事項について疑義が生じたとき又は本協定に定めのない事項について必要があるときは、甲乙両者が協議して定める。

この協定の締結を証するため、本協定書2通を作成し、甲乙両者が署名押印の上、各自その1通を保有するものとする。

平成 28年 4月 1日

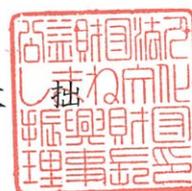
島根県立大学短期大学部

学 長 本 田 雄



公益財団法人しまね文化振興財団

理 事 長 藤 岡 大



公立大学法人島根県立大学と小泉八雲記念館との連携に関する協定書

(目的)

第1条 本協定は、公立大学法人島根県立大学（以下「島根県立大学」という。）と小泉八雲記念館が連携し、小泉八雲に関する教育・研究・広報等の分野において相互に協力し、地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(連携・協力)

第2条 島根県立大学と小泉八雲記念館は、次の事項について連携・協力する。

- (1) 小泉八雲に関する講義・講座、催し等に関する事
- (2) 小泉八雲記念館の資料の活用に関する事
- (3) 小泉八雲に関する情報発信に関する事
- (4) その他両者が必要と認める事項

(協議)

第3条 この協定の実施に関し、連携の具体的な事項については、両者が協議して定めるものとする。また、この協定に定めのない事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期限・改廃)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成29年3月末日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の前月末日までに、島根県立大学と小泉八雲記念館のいずれからも改廃の申し入れがないときは、更に1年間有効期間を延長するものとし、その後も同様とする。

2 島根県立大学と小泉八雲記念館は、この協定の有効期間中であっても、双方協議してこの協定書を改廃することができる。

この協定締結の証として本書2通を作成し、両者記名押印のうえ各自1通を保有する。

平成28年 8月 3日

公立大学法人島根県立大学
理事長 本田雄一



小泉八雲記念館
館長 小泉 凡



公立大学法人島根県立大学と独立行政法人国立高等専門学校機構
松江工業高等専門学校との包括的連携に関する協定書

(目的)

第1条 本協定は、公立大学法人島根県立大学（以下「県立大学」という。）と独立行政法人国立高等専門学校機構松江工業高等専門学校（以下「松江高専」という。）が包括的な連携のもと、教育、研究、地域貢献、産学連携、国際交流、学生及び教職員の交流において相互に協力し、地域社会と国際社会の発展及び人材育成に寄与することを目的とする。

(連携・協力)

第2条 県立大学と松江高専は、次の事項について連携・協力する。

- (1) 教育及び研究の推進と発展、向上に関すること。
- (2) 地域貢献の推進に関すること。
- (3) 産学連携の推進に関すること。
- (4) 国際交流の推進に関すること。
- (5) 学生の交流に関すること。
- (6) 教職員の交流に関すること。
- (7) その他前条の目的に資すること。

(協議)

第3条 本協定の実施に関し、連携・協力の細目等の具体的な事項については、両者協議のうえ定めるものとする。

(有効期間)

第4条 本協定の有効期間は、協定締結の日から平成30年3月31日までとする。ただし、本協定の有効期間満了の日の30日前までに、県立大学と松江高専のいずれから改定の申し入れがないときは、更に1年間有効期間を延長するものとし、その後も同様とする。

2 県立大学と松江高専は、本協定の有効期間中であっても、両者協議のうえ本協定書を改定することができる。

本協定締結の証として本書2通を作成し、両者記名押印のうえ各自1通を保有する。

平成 29 年 3 月 15 日

公立大学法人島根県立大学

理事長

本田 雄

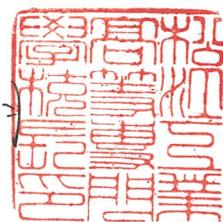


独立行政法人国立高等専門学校機構

松江工業高等専門学校

校長

井上 伸



公立大学法人島根県立大学及び一般社団法人島根県発明協会並びに
公益財団法人しまね産業振興財団の包括的連携協力協定書

島根県立大学（以下「甲」という。）と一般社団法人島根県発明協会（以下「乙」という。）並びに公益財団法人しまね産業振興財団（以下「丙」という。）は、以下のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、甲と乙と丙が相互に緊密な連携協力と情報共有を図ることで、効果的かつ迅速な産業振興及び地域課題の解決を展開することを目的とする。

（連携協力内容）

第2条 甲と乙と丙は、次項以下に定める事項を基本として、適切な役割分担を図りながら、連携協力に努めることで、島根県の産業振興を図るものとする。

2 甲と乙と丙は、相互が行う次の各号に定める事項について、島根県内産業振興を図るため、全県的かつ専門的な立場から積極的な協力・支援を行うものとする。

- (1) 甲及び島根県内企業等の知的財産活用の推進に関すること。
- (2) 島根県内企業等の新事業創出支援及び経営の高度化支援に関すること。
- (3) 島根県内企業等との共同研究、受託研究及び技術移転の推進に関すること。
- (4) 「甲」教職員・学生及び県内個人の起業・創業支援に関すること。
- (5) 地域経済活性化に関すること。
- (6) その他、島根県の産業振興に関すること。

（情報の共有化と意見交換）

第3条 甲と乙と丙は、島根県の産業振興を図るため、甲にとっては乙と丙を、乙と丙にとっては甲を、連携協力の相手方（以下「連携協力相手」という。）として、法令その他の規程又は第三者との契約に反しない範囲で、緊密な意見情報交換を随時行うものとし、個別企業の情報（個人情報を含む。）を提供する場合、各々の責任において、事前に個別企業から同意を得なければならない。

（目的外利用の禁止及び秘密保持）

第4条 甲と乙と丙は、この協定に基づき連携協力相手から提供を受けた情報を、第2条第2項に規定する事項にのみ使用するものとし、他の事項への使用及び第三者へ提供してはならない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、この限りではない。

- (1) 事前に連携協力相手の承諾を得て第三者に提供する情報
- (2) 連携協力相手から提供を受けた際に既に公知となっている情報
- (3) 連携協力相手から提供を受けた後、開示を受けた側の責によることなく公知となった情報
- (4) 連携協力相手から提供を受ける前に取得していた情報
- (5) この協定に違反することなく他の手段により取得した情報
- (6) 連携協力相手から提供を受けた情報を使用することなく取得した情報
- (7) 法令その他の規程により提供しなければならない情報

(非独占的合意)

第5条 甲又は乙並びに丙は、それぞれ、いつでも第三者との間で、この協定と同趣旨の協定又はこれに類する契約を締結することができる。

(対外公表)

第6条 第2条第2項の各号に該当する情報の全部又は一部について公表を行う場合は、事前に甲と乙又は丙との間で協議の上、その公表の時期、内容、方法等に関する合意をした上で行うものとする。

(有効期間)

第7条 この協定の有効期間は、この協定の締結日から1年間とする。ただし、甲又は乙並びに丙から連携協力相手に対し、有効期間満了日の1か月前までに書面による協定終了の通知がない場合は、更に1年間これを延長するものとする。

2 前項の規定に関わらず、第3条の規定は、この協定の終了後5年間は引き続き効力を有するものとする。

3 第1項の規定に関わらず、前条の規定は、この協定の終了後も引き続き効力を有するものとする。

(解約)

第8条 前条第1項の規定に関わらず、甲又は乙並びに丙は、この有効期間中であっても、連携協力相手に解約予定日の1か月前までに書面により通知することにより、この協定を中途解約することができるものとする。

(雑則)

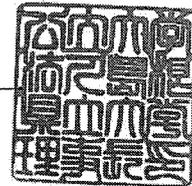
第9条 この協定の各条項の解釈について疑義が生じたとき、又はこの協定に規定しない事項については、甲と乙と丙が協議の上定めるものとする。

この協定の締結を証するため、この協定書を3通作成し、甲及び乙並びに丙が記名押印の上、各自1通を保有するものとする。

平成28年11月2日

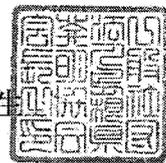
公立大学法人島根県立大学

理事長 本田 雄



一般社団法人島根県発明協会

会長 神庭 民生



公益財団法人しまね産業振興財団

代表理事理事長 山崎 征爾



公立大学法人島根県立大学と島根県中小企業家同友会の包括的連携協力協定書

公立大学法人島根県立大学（以下「甲」という。）と島根県中小企業家同友会（以下「乙」という。）は、相互の発展に資するため、次の通り協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、甲と乙が相互の密接な連携と協力により、地域の課題に適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展及び将来的に必要とされる人材育成に寄与することを目的とする。

（連携事項）

第2条 甲と乙は、前条の目的を達成するため、次の事項について連携し協力する。

- (1) 人材の育成と活用に関すること。
- (2) 産学連携に関すること。
- (3) 甲と乙が共同で実施する事業に関すること。
- (4) その他、前条の目的を達成するために必要な事項に関すること。

（秘密保持）

第3条 この協定に基づき、甲及び乙が知り得た情報については、それぞれ秘密を保持する。ただし、事前に相手方の承諾を得た場合は、この限りではない。

（有効期間）

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から、平成30年3月31日までとする。ただし、期間満了の1か月前までに甲又は乙のいずれかから異議の申し立てがない場合は、有効期間を更に1年間継続するものとする。

2 前項の規定は、同項の規定により継続された期間の更新について準用する。

（その他）

第5条 この協定に定めのない事項について定める必要が生じたとき、又はこの協定に定める事項を変更しようとするときは、甲及び乙が協議の上、定める。

この協定の締結を証するため、本協定書2通を作成し、各自1通を保有する。

平成29年8月2日

公立大学法人島根県立大学
理事長

清原正義

島根県中小企業家同友会
代表理事

小田隆弘

島根県立大学と津和野町との西周研究にかかる 連携・協力に関する協定書

(目的)

第1条 本協定は、公立大学法人島根県立大学（以下「島根県立大学」という。）と津和野町が連携・協力し、西周の業績を研究・発信・活用することで、人材育成と地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(連携・協力)

第2条 島根県立大学と津和野町は、次の事項について連携・協力する。

- (1) 西周の幅広い学問的・教育的業績の研究・顕彰に関する事項
- (2) その他両者が必要と認める事項

(協議)

第3条 この協定の実施に関し、連携・協力の具体的な事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期限・改廃)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成30年3月末日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の前月末までに、島根県立大学と津和野町のいずれからも改廃の申し入れがないときは、更に1年間有効期間を延長するものとし、その後も同様とする。

2 島根県立大学と津和野町は、この協定の有効期間中であっても、双方協議して、この協定書を改廃することができる。

この協定締結の証として本書2通を作成し、両者記名のうえ各自1通を保有する。

平成29年12月2日

公立大学法人島根県立大学
理事長 清原正義

清原正義

津和野町
町長 下森博之

下森博之

島根あさひ社会復帰促進センター，公立大学法人島根県立大学及び浜田市との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は，島根あさひ社会復帰促進センター，公立大学法人島根県立大学及び浜田市とが包括的な連携のもと，効果的な産業振興及び再犯防止施策などの諸分野において相互の協力関係を一層深化させ，もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 三者は，次の取組みについて，協力して，調査・研究し，具体化する。

- (1) 島根あさひ社会復帰促進センターの資源を活用した新たな地域振興に関する取組み
- (2) 出所者の社会復帰支援に関する取組み
- (3) その他三者が協議して必要と認める取組み

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し，連携協力の細目等の具体的な事項等必要な事項については，三者がそれぞれ選定した者で構成する「地域振興及び再犯防止に係る連携協議会」において，協議し，決定することとし，同協議会の運営に係る事項は三者が協議の上，別に定める。

(有効期間)

第4条 この協定の有効期間は，協定締結の日から平成31年3月31日までとする。ただし，この協定の有効期間満了日の1月前までに，三者のいずれからも改廃の申し入れがないときは，さらに1年間更新するものとし，その後も同様とする。

この協定締結の証として本書3通を作成し，各自1通を保有する。

平成30年1月16日

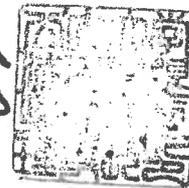
島根あさひ社会復帰促進センター
センター長

久野正道



公立大学法人島根県立大学
理事長

清原正義



浜田市

浜田市長

久保田章市



公立大学法人島根県立大学と島根県国民健康保険団体連合会 との包括的連携に関する協定書

(目的)

第1条 本協定は、公立大学法人島根県立大学（以下「県立大学」という。）と島根県国民健康保険団体連合会（以下「国保連」という。）が包括的な連携のもと、島根県の保健・医療・福祉分野における人材育成と地域社会の健康増進に寄与することを目的とする。

(連携・協力)

第2条 県立大学と国保連は、次の事項について連携・協力する。

- (1) 保健・医療・福祉等の情報の調査、分析に関すること。
- (2) 保健・医療・福祉等の情報を活用した保健・医療・福祉サービスの質の向上や地域連携等の保健事業の充実に関する取組の検討及び実施に関すること。
- (3) 人的資源・知的資源・物的資源の活用に関すること。
- (4) 人材育成及び学術の発展に関すること。
- (5) 学生の交流に関すること。
- (6) その他前条の目的に資すること。

(協議)

第3条 本協定の実施に関し、連携・協力の細目等の具体的な事項については、両者協議のうえ定めるものとする。

(有効期間)

第4条 本協定の有効期間は、協定締結の日から平成31年3月31日までとする。ただし、本協定の有効期間満了の日の30日前までに、県立大学と国保連のいずれからも改定の申し入れがないときは、更に1年間有効期間を延長するものとし、その後も同様とする。

2 県立大学と国保連は、本協定の有効期間中であっても、両者協議のうえ本協定書を改定することができる。

本協定締結の証として本書2通を作成し、両者記名押印のうえ各自1通を保有する。

平成30年3月14日

公立大学法人島根県立大学

島根県国民健康保険団体連合会

理事長

正義


理事長

速水雄一


島根県立大学・島根県立大学短期大学部・島根県立松江商業高等学校・
松江市立湖南中学校の連携に関する協定書

島根県立大学及び島根県立大学短期大学部と、島根県立松江商業高等学校及び松江市立湖南中学校は、次のとおり合意する。

第1 島根県立大学（人間文化学部）、島根県立大学短期大学部、島根県立松江商業高等学校及び松江市立湖南中学校は、相互の教員・職員・学生・生徒が連携し、地域の教育力を高め、より良い教育環境づくりを推進することを目指して、連携事業を実施する。

第2 この協定に基づく具体的な連携事業は、年度ごとに協議して決定する。

第3 この協定は、島根県立大学学長、島根県立大学短期大学部学長、島根県立松江商業高等学校長及び松江市立湖南中学校長の調印の後その効力を生じ、その有効期間は5年間とする。

2 この協定は、有効期間が満了する日の6か月前までに、連携校のいずれもが更新しない旨を他の連携校に書面により通知しない場合は、さらに5年間有効期間が更新されるものとし、以後も同様とする。

平成30年 4月25日

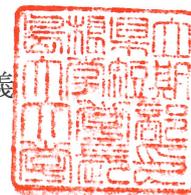
島根県立大学

学 長 清 原 正 義



島根県立大学短期大学部

学 長 清 原 正 義



島根県立松江商業高等学校

校 長 岡 崎 豊 年



松江市立湖南中学校

校 長 原 俊 行



島根県立大学・島根県立大学短期大学部と 成蹊大学との連携に関する協定書

島根県立大学・島根県立大学短期大学部（以下「甲」という。）と成蹊大学（以下「乙」という。）は、両大学の一層の発展と地域の活性化に重要な役割を果たすため、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 本協定は、甲及び乙が包括的な連携のもと、相互の大学の更なる発展を目指し、教育、研究、地域貢献、産学連携及び国際交流等の分野で広く協力し、地域の発展と人材の育成に寄与することを目的とする。

（連携及び協力内容）

第2条 甲及び乙は、次に掲げる分野について連携及び協力するものとする。

- （1）学部及び大学院における教育、研究に関する事項
- （2）学生の相互交流、共同学習に関する事項
- （3）教員の相互交流、共同研究に関する事項
- （4）職員の相互交流に関する事項
- （5）地域貢献及び産学連携、国際交流に関する事項
- （6）前各号に掲げるもののほか、前条の目的を達成するために必要な分野に関する事項

（有効期間）

第3条 本協定の有効期間は、協定締結の日から1年間とする。ただし、有効期間満了の2か月前までに、甲及び乙のいずれからも改廃の申入れがないときは、更に1年間更新されることとし、その後も同様とする。

（個別協定）

第4条 本協定書の定める事項の実施にあたり、個別協定の必要があるものについては、別途協議のうえ定めるものとする。

（その他）

第5条 本協定に定めのない事項又は本協定の運用に関し疑義が生じた場合は、甲乙協議のうえ決定するものとする。

本協定締結の証として、本協定書を2通作成し、甲乙それぞれ署名のうえ各自1通を保管する。

2018年6月1日

甲 島根県立大学
島根県立大学短期大学部
学長 清原正義

乙 成蹊大学
学長 北川 浩

清原正義

北川 浩

公立大学法人島根県立大学と有限会社本田商店
との包括的連携に関する基本協定書

(目的)

第1条 本協定は、公立大学法人島根県立大学（以下「県立大学」という。）と有限会社本田商店（以下「本田商店」という。）が包括的な連携のもと、出雲そば等の地域食材の品質を向上させ、健康的な食生活による疾患予防と豊かな食文化の発展に寄与することを目的とする。

(連携・協力)

第2条 県立大学と本田商店は、次の事項について連携・協力する。

- (1) そば・小麦等を原料とした麺食品等の企画・商材研究に関すること。
- (2) そば・小麦等に関する基礎研究・分析に関すること。
- (3) 県立大学と本田商店の持つ人的資源、知的資源、物的資源の活用に関すること。
- (4) 人材育成及び栄養学・医学等の学術の発展に関すること。
- (5) 学生の社会貢献・地域交流に関すること。
- (6) その他前条の目的に資すること。

(反社会的勢力排除)

第3条 反社会的勢力排除のため、県立大学および本田商店は、相手方に対して、本協定が締結された日および将来にわたり、自己または自己の役員および職員・従業員が暴力団、暴力団員、暴力団準構成員、暴力団関係企業、総会屋等、政治活動、社会運動等標ぼうゴロ、特殊知能暴力集団等、反社会的勢力共生者に該当する者または団体（以下、「反社会的勢力」という。）に該当しないことを表明し保証する。

2 県立大学および本田商店は、合理的理由に基づき相手方が次の各号に該当すると判断した場合、何らの催告なしに本協定を解除することができる。

- (1) 反社会的勢力である場合、または反社会的勢力であった場合
- (2) 自らまたは第三者を利用して、相手方に対して以下の行為を行った場合
 - ①違法なあるいは相当性を欠く不当な要求
 - ②有形力の行使に限定しない示威行為などを含む暴力行為
 - ③情報誌の購買など執拗に取引を強要する行為
 - ④被害者団体など属性の偽装による相手方への要求行為
 - ⑤その他「暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律」で禁止されている行為
- (3) 相手方に対して、自身が反社会的勢力である、または、関係者である旨を伝えるなどした場合

3 県立大学および本田商店は、前項により本契約を解除したことにより相手方に損害が生じたとしても、一切の損害賠償を負わない。

(協議)

第4条 本協定の実施に関し、連携・協力の細目等の具体的な事項等必要な事項については、両者協議のうえ定める。基本協定に関し記載の無い事項については、両者が誠意を持って協議する。

(有効期間)

第5条 本協定の有効期間は、協定締結の日から平成31年3月31日までとする。ただし、本協定の有効期間満了の日の30日前までに県立大学と本田商店のいずれからも解除の申入れがないときは、更に1年間の有効期間を延長するものとし、その後も同様とする。

2 県立大学と本田商店は、本協定の有効期間内であっても両者協議・合意の上で本協定を変更することができる。

本協定締結の証として、本書2通を作成し、両者記名捺印のうえ各自1通を保有する。

平成30年7月5日

公立大学法人島根県立大学

有限会社本田商店

理事長

代表取締役

清原正義 

本田 繁 

公立大学法人島根県立大学と出雲警察署との 包括的連携・協力に関する協定書

(目的)

第1条 公立大学法人島根県立大学出雲キャンパス（以下「甲」という。）と出雲警察署（以下「乙」という。）は、それぞれ専門性・特殊性を活かし相互に連携・協力して「安全で安心な出雲」の実現に向け本協定を締結する。

(連絡責任者等)

第2条 甲と乙は、相互の緊密な連携を図るため連絡責任者、連絡担当者を置くこととする。

(連携・協力)

第3条 甲と乙は、「安全で安心な出雲」の実現に向け、次の事項に関して連携・協力を行うこととする。

- (1) 防犯・交通安全に関する教育及び各種事業の策定に関すること。
- (2) 地域社会に貢献するため子供の見守り等の防犯・交通ボランティアの推進及び防犯交通情報の交換及び連絡調整に関すること。
- (3) その他、「安全で安心な出雲」の実現に必要な事項に関すること。

(協議)

第4条 この協定の実施に関し、連携・協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期間)

第5条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成31年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期限満了の日の30日前までに、甲と乙いずれからも改定の申入れがないときは、更に1年間有効期間を延長するものとし、以後この例によるものとする。

2 甲と乙は、この協定の有効期間中であっても、両者協議してこの協定書を改定することができる。

この協定締結の証として本書2通を作成し、両者記名押印のうえ各自1通を保有する。

平成30年10月10日

甲 公立大学法人島根県立大学

乙 出雲警察署

理事長

清原正義 

署長

荒蕨章 

公立大学法人島根県立大学と知夫村との包括的連携に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、公立大学法人島根県立大学と知夫村とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの諸分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する。

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して別に定めるものとする。又、この協定に定めのない事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期限)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成31年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定締結の証として本書2通を作成し、各自1通を保有する。

平成30年10月29日

公立大学法人島根県立大学
理事長

清原正義

知夫村
村長

平本伴佳

公立大学法人島根県立大学と島根県教育委員会との 包括的連携に関する協定書

公立大学法人島根県立大学（以下「大学」という。）と島根県教育委員会（以下「委員会」という。）とは、県立高等学校（以下「高校」という。）と大学との連携及び協力（以下「高大連携」という。）をはじめ、教育分野で相互に連携協力する事項について、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、大学と委員会が高大連携をはじめ、教育分野で相互に密接な連携協力を行うことにより、両者の教育・研究の充実と地域社会の発展に寄与することを目的とする。

（連携協力事項）

第2条 前条の目的を達成するため、大学と委員会が連携協力する事項は、次のとおりとする。

- （1）カリキュラム開発に関すること
- （2）キャリア教育及び課題解決型学習の推進に関すること
- （3）前号の成果を活かした高大接続システム（大学入試等）の検討に関すること
- （4）大学の特色ある教育研究に触れる機会の高校生への提供に関すること
- （5）高校の教職員及び教育魅力化コーディネーターの育成に関すること
- （6）大学の教職課程に関すること
- （7）その他大学と委員会が必要と認める事項に関すること

（検討組織）

第3条 前条の事項の具体化を図るため検討組織を設置することができる。

（有効期間）

第4条 この協定書の有効期間は、締結の日から2022年3月31日までとする。ただし、この協定書の有効期間満了の日の30日前までに、大学、委員会いずれからも別段の申し出がない場合は、さらに1年更新されるものとし、以後これに準ずるものとする。

(その他)

第5条 この協定書に定めのない事項及びこの協定書に定める事項に疑義が生じた場合については、大学と委員会が協議して決定する。

2 連携協力について、協定書に定めているもの以外に、その他必要な事項は、大学と委員会が協議して別に定めるものとする。

この協定の締結を証するため、本協定書2通を作成し、大学と委員会両者がそれぞれ署名の上、各自その1通を保有する。

2019年 3月 4日

浜田市野原町2433-2
公立大学法人島根県立大学

理事長

清原正義

松江市殿町1番地
島根県教育委員会

教育長

新田英夫

公立大学法人島根県立大学と島根県立隠岐島前高等学校との高大連携に関する協定

公立大学法人島根県立大学と島根県立隠岐島前高等学校とは、次のとおり合意する。

- 1 両者は、相互の教員・職員・学生・生徒が連携して、魅力ある大学・高等学校づくりを推進することを目的とする高大連携事業を実施する。
- 2 この協定に基づく具体的な連携事業は、両者の協議を経て決定する。
- 3 この協定の有効期間は、協定締結の日から2020年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1ヵ月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定締結の証として本書2通を作成し、各自1通を保有する。

2019年 3月 7日

公立大学法人島根県立大学

島根県立隠岐島前高等学校

理事長



校長



海士町と公立大学法人島根県立大学との包括的連携に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、海士町と公立大学法人島根県立大学とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの諸分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する。

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して別に定めるものとする。又、この協定に定めのない事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期限)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から2020年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1ヵ月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定締結の証として本書2通を作成し、各自1通を保有する。

2019年3月22日

海士町
町長

大江和彦

公立大学法人島根県立大学
理事長

清原正義

お問い合わせ先

浜田キャンパス（地域連携推進センター）
〒697-0016 島根県浜田市野原町2433-2
TEL：0855-24-2396 FAX：0855-23-7352
E-mail：h-chiren@u-shimane.ac.jp

出雲キャンパス（看護栄養交流センター）
〒693-8550 島根県出雲市西林木町151
TEL：0853-20-0220 FAX：0853-20-0227
E-mail：i-koryu@u-shimane.ac.jp

松江キャンパス（しまね地域共生センター）
〒690-0044 島根県松江市浜乃木7-24-2
TEL：0852-28-8322 FAX：0852-20-0267
E-mail：m-kyousei-c@u-shimane.ac.jp

平成30年度 地域連携活動報告書

編集・発行

島根県立大学地域連携推進センター
〒697-0016 島根県浜田市野原町2433-2
TEL：0855-24-2396 FAX：0855-23-7352
E-mail：h-chiren@u-shimane.ac.jp



マスコットキャラクター
「オロリン」



The University of Shimane